府中市男女共同参画に関する意識調査報告書

令和６年３月
府中市

府中市男女共同参画に関する意識調査報告書　目次

概要版

■府中市男女共同参画に関する意識調査報告書　概要版

本　編

■Ⅰ　調査の概要　1

1　調査の目的・方法等 …… 3
2　調査票の設問項目 …… 4
3　調査結果の概要 …… 5

■Ⅱ　調査結果　9

単純集計調査結果（全体・男女別） …… 11

■Ⅲ　経年等比較結果　45

調査別・経年別・年代別等の比較 …… 47

■Ⅳ　資料　95

府中市男女共同参画に関する令和５（2023）年度意識調査　調査票 …… 97

府中市男女共同参画に関する意識調査報告書

概要版

■調査の概要

(1)調査の目的

「第7次府中市男女共同参画計画」の策定にあたり、市民の男女共同参画社会に関する意識や意見・要望等を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的として実施した。

(2)調査方法等

【調査方法】

・郵送による配布

・郵送または WEB サイトでの回収(選択)

【回答数等】

標本数: 2,000 票

回収数: 691票(紙回収 453 票、WEB 回収 238票)

回収率: 34.6%

有効回答票: 682票

有効回答率: 34.1%

(3)アンケートの設問項目(抜粋)

■ 回答者について		
F1	性別	4
F2	年齢	4
■ あらゆる分野における男女共同参画について		
問 1	①～⑦の分野において男女の地位・立場は平等になっていると思うか	4
問 2	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について	5
問 7	見聞きしたことのある言葉について	6
■ 仕事と生活の調和について		
問 12	ワーク・ライフ・バランス実現のために市に望むこと	7
■ 人権が尊重される社会の形成について		
問 15	DV・デート DV の対策や防止のため、市で必要な施策	8
問 17	セクシュアルマイノリティの人権を守るために必要な方策	9
■ 府中市の施策について		
問 18	「府中市男女共同参画センター フチュール」を知っているか	10
問 20	府中市は女性が活躍できる都市だと思うか	11
問 21	自分らしく豊かに生きることのできる社会を実現させるため、市に力を入れてほしいこと	12
問 22	市の男女共同参画や男女共同参画全般についての自由意見	13

※各設問のN=〇〇は回答者の母数を表しています。

（4）アンケート結果概要

POINT 1 p.4

「学校教育の場」は
男女が「平等」と考える人が

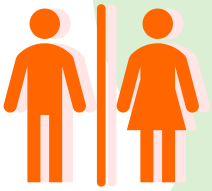
44.7%

・様々な分野のなかでも、「学校教育の場」の「平等」割合が高い。

「政治の場」は「平等」が
6.0%

POINT 2 p.5

「夫は外で働き、妻は家庭を守る」
という考えに反対な人は



68.1%

・男性の方が「賛成」と考える人が多い。
20～30 歳代で「反対」と考える人が多い。

賛成と考える人は
22.7%

POINT 3 p.6

用語の認知度
1位「パワハラ」

95.0%

2位「セクハラ」

94.0%

3位「ジェンダー」

89.1%

最下位は「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」で 6.5%

POINT 4 p.8

DVなどの対策として必要な市の施策

1位「相談環境・相談方法の整備」

79.0%

2位「被害者の安全を守る体制の確立」

3位「被害者を一時保護する施設（シェルター）と連携」

POINT 5 p.10

男女共同参画センター「フチュール」の認知度は

34.5%

- 男性の方が認知度が低い。
- 20 代の認知度が低く、
- 30～70 歳以上は認知度がほぼ均等。

利用割合は 6.3%

POINT 6 p.12

市に力を入れてほしいことは

1位「柔軟な働き方を選択できる環境整備」

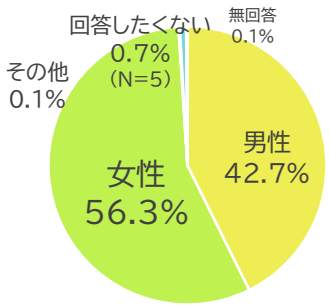
59.8%

2位「育児や介護をする人の負担軽減」

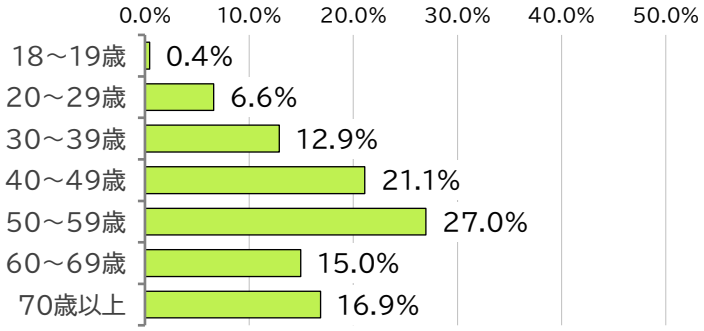
3位「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直し」

■ 回答者について

F1 性別 (N=682)



F2 年齢 (N=682)



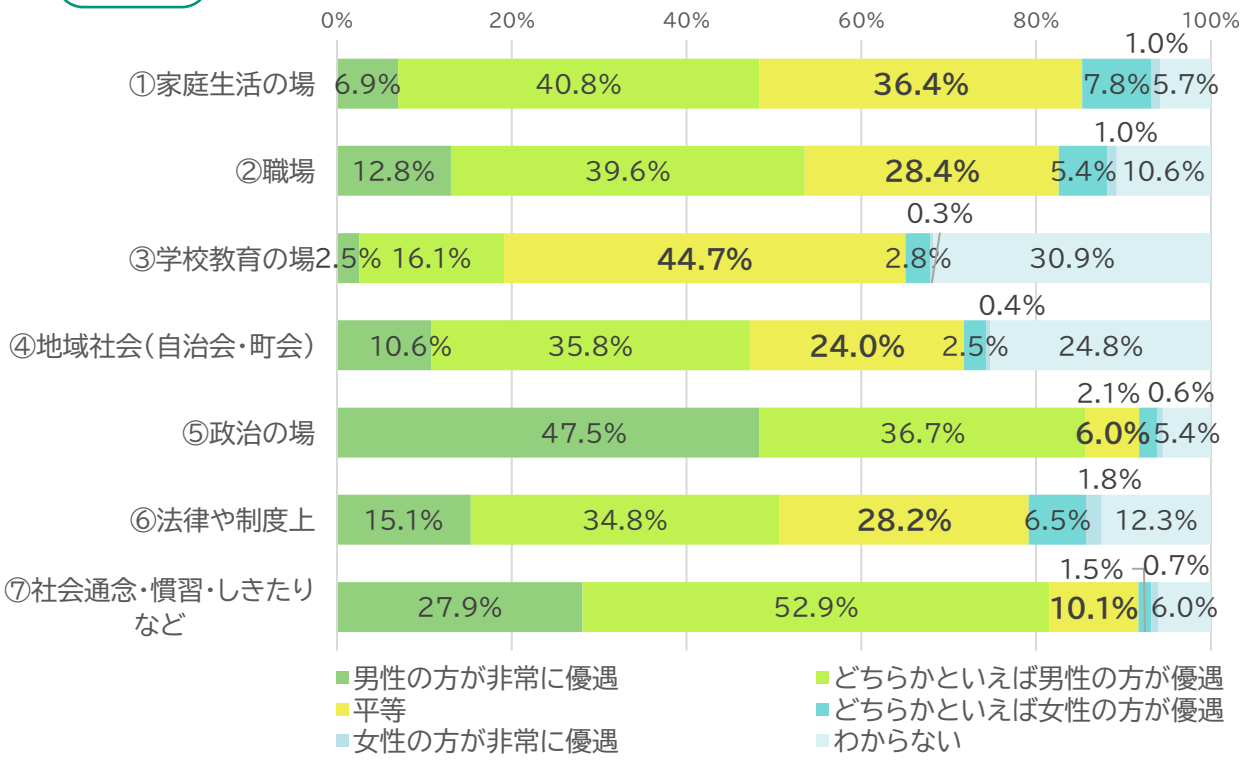
※無回答・無効は省略

■ あらゆる分野における男女共同参画について

問１ ①～⑦の分野において男女の地位・立場は平等になっていると思うか

- 各分野で「平等」の割合が最も多いのは「**③学校教育の場**」で **44.7**%。
- 「平等」の割合が低いものは「**⑤政治の場**」で **6.0**%、「**⑦社会通念・慣習・しきたりなど**」で **10.1**%。

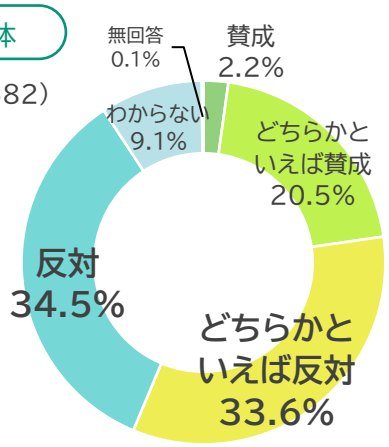
全体 (N=682)



※無回答・無効は省略

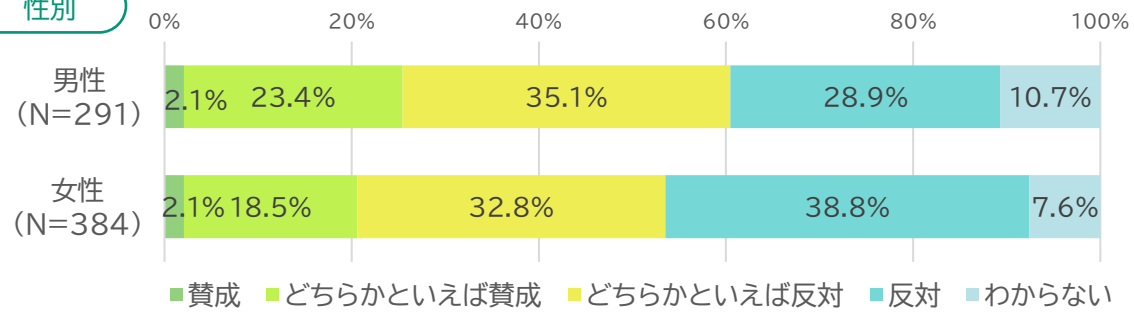
問２「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

全体
（N=682）

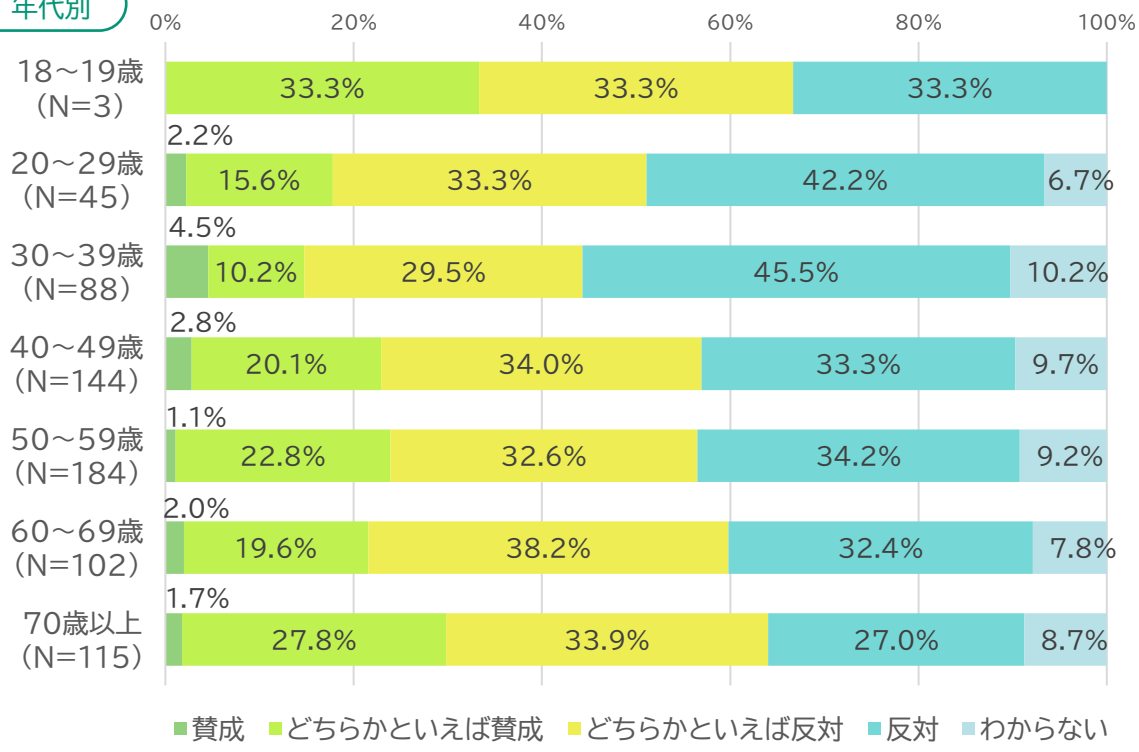


- 「どちらかといえば反対」「反対」を合わせた、**反対**と考えている人は **68.1**%
- 男性は女性より「どちらかといえば賛成」「賛成」を合わせた、**賛成**と考えている人が多い。
- 年齢別では、20～29 歳、30～39 歳で**反対**と考えている人が多い。

性別



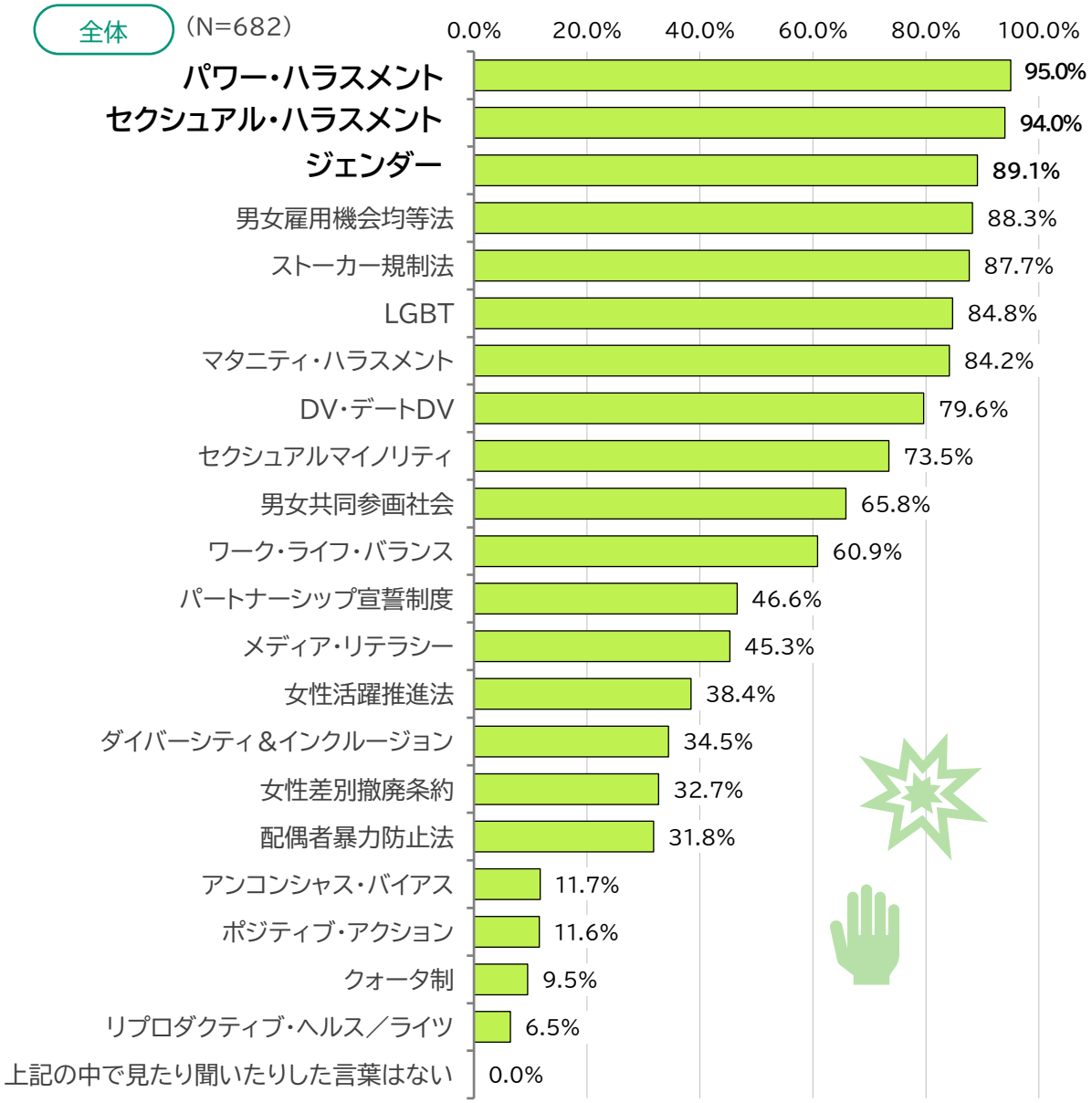
年代別



※無回答・無効は省略

問７　見聞きしたことのある言葉について

全体　（N=682）



※無回答・無効は省略

性別ごとの順位

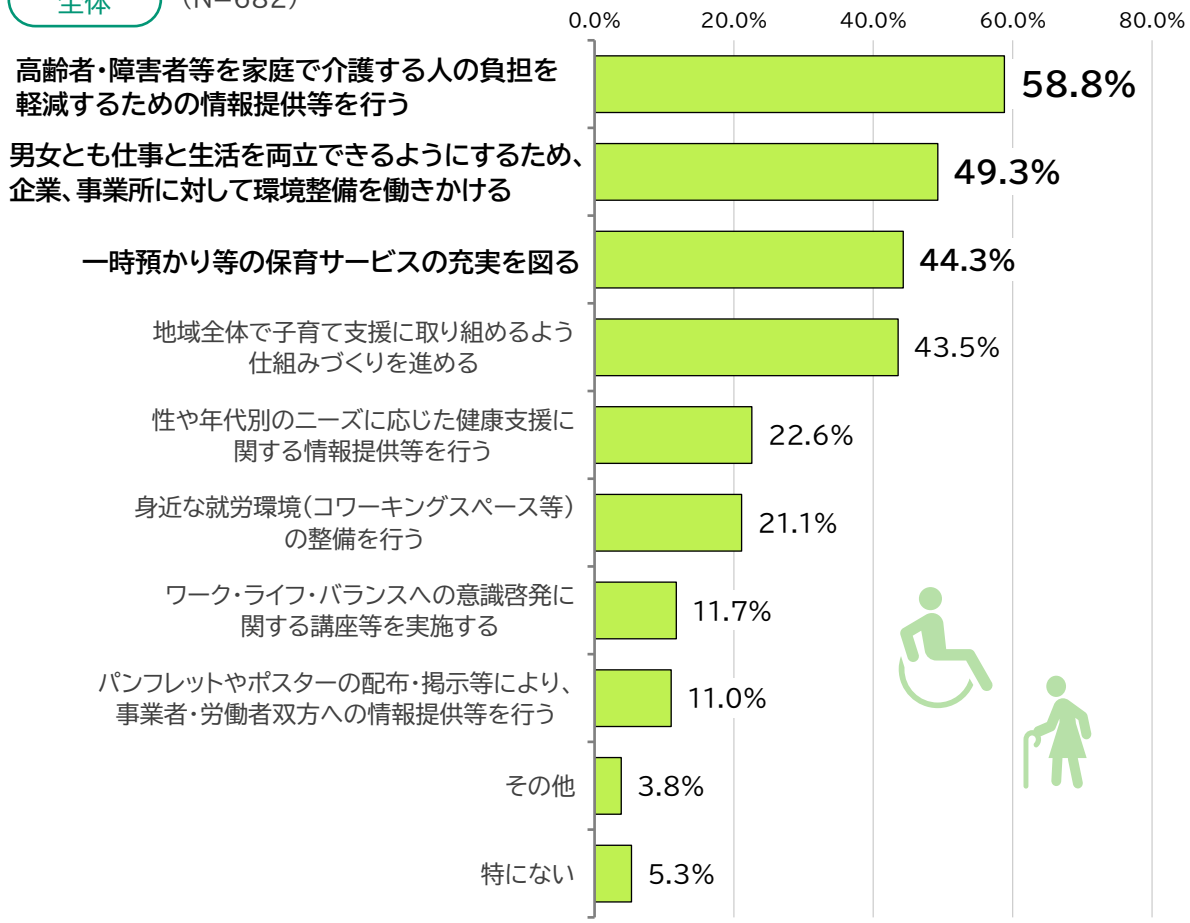
‣用語の認知度について男性の割合が高く、特に「男女雇用機会均等法」は女性よりも高い。

	男性（N=291）	女性（N=384）
1位（%）	パワー・ハラスメント（95.2） セクシュアル・ハラスメント（95.2）	パワー・ハラスメント（95.1）
2位（%）	-	セクシュアル・ハラスメント（93.5）
3位（%）	男女雇用機会均等法（93.8）	ジェンダー（89.1）
4位（%）	ジェンダー（89.3）	ストーカー規制法（87.0）
5位（%）	ストーカー規制法（89.0）	LGBT（85.2）

■ 仕事と生活の調和について

問 12　ワーク・ライフ・バランス実現のために市に望むこと

全体　（N=682）



※無回答・無効は省略

性別ごとの順位

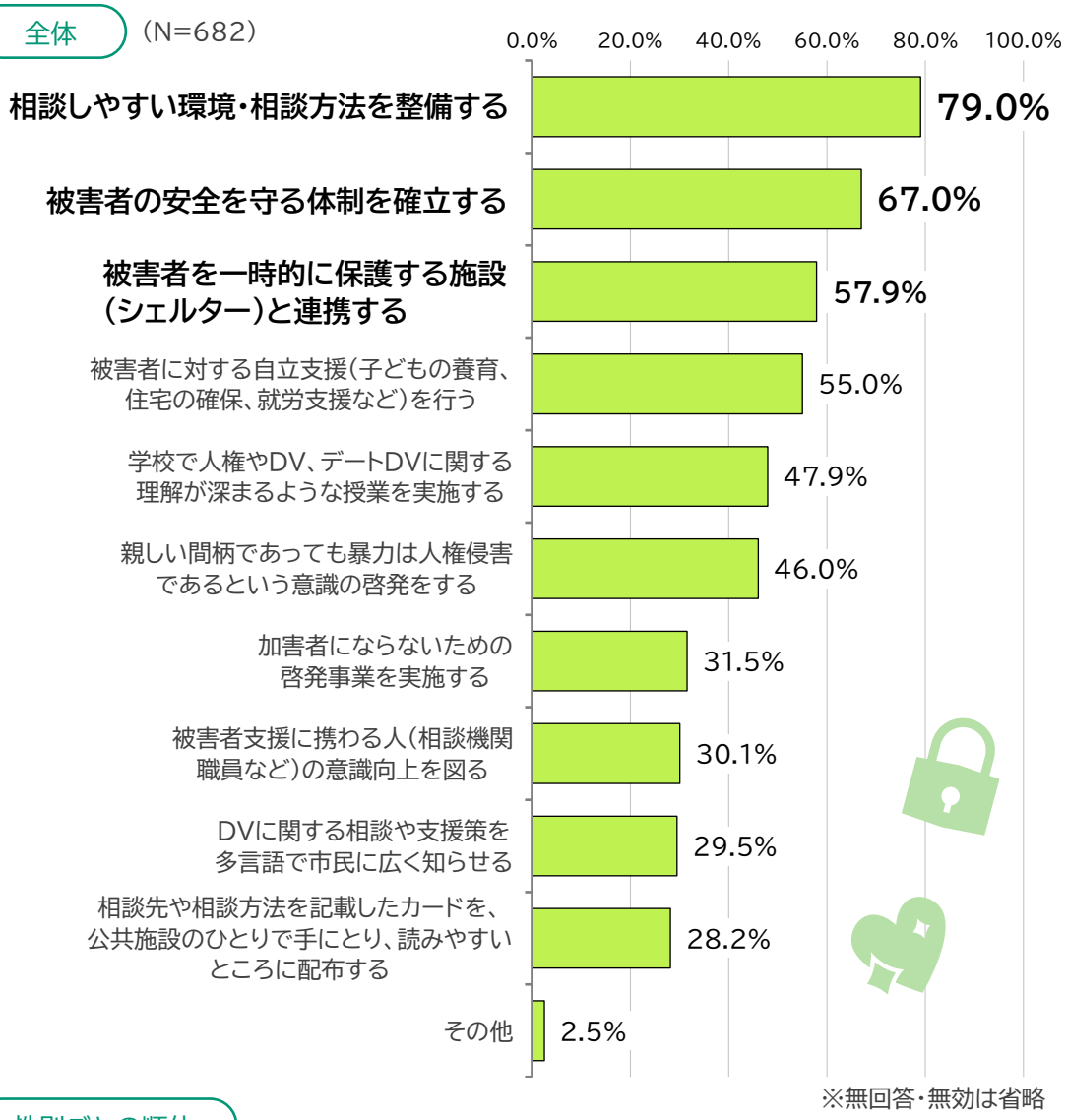
・男性では子育て関係の選択肢、女性は仕事と生活の両立に関する選択肢の割合が高い。

	男性（N=291）	女性（N=384）
1 位（%）	高齢者・障害者等を家庭で介護する人の負担を軽減するための情報提供等（51.2）	高齢者・障害者等を家庭で介護する人の負担を軽減するための情報提供等（65.4）
2 位（%）	一時預かり等の保育サービスの充実（45.4）	男女とも仕事と生活を両立できるようにするため、企業、事業所に対して環境整備を働きかける（53.9）
3 位（%）	地域全体で子育て支援に取り組めるような仕組みづくり（44.0）	一時預かり等の保育サービスの充実（43.5）

■ 人権が尊重される社会の形成について

問15 DV・デート DV の対策や防止のため、市で必要な施策

全体 (N=682)



※無回答・無効は省略

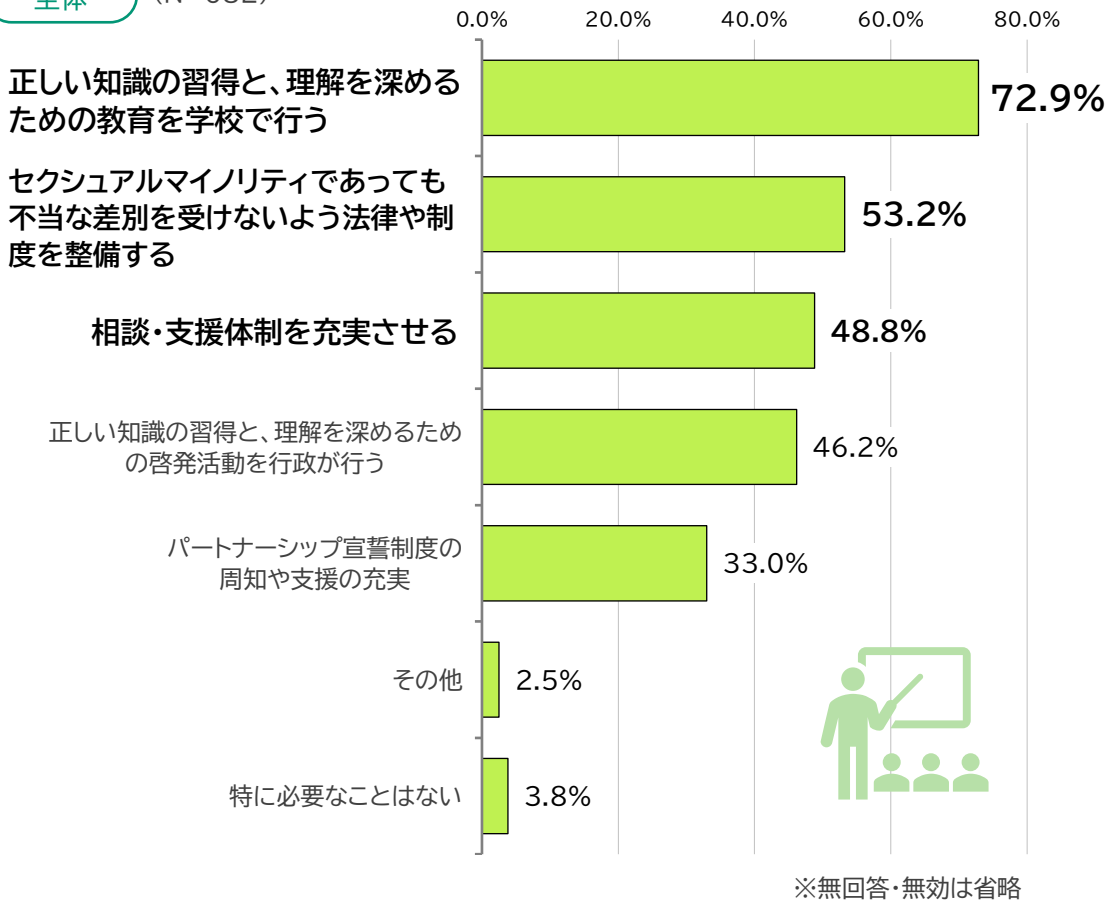
性別ごとの順位

・男性と女性ともに同様の傾向。

	男性（N=291）	女性（N=384）
1 位(%)	相談しやすい環境・相談方法を整備（78.7）	相談しやすい環境・相談方法を整備（79.7）
2 位(%)	被害者の安全を守る体制を確立（66.3）	被害者の安全を守る体制を確立（68.0）
3 位(%)	被害者を一時的に保護する施設（シェルター）と連携（54.0）	被害者を一時的に保護する施設（シェルター）と連携（61.5）

問 17　セクシュアルマイノリティの人権を守るために必要な方策

全体　（N=682）



※無回答・無効は省略

性別ごとの順位

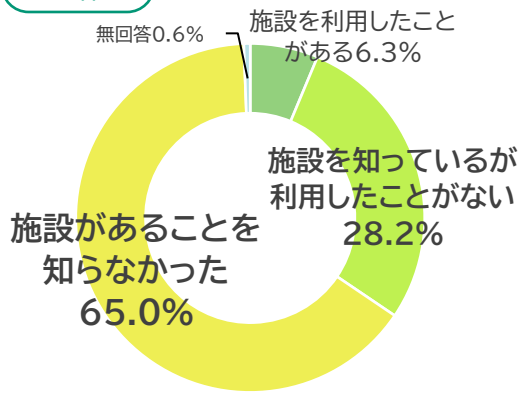
‣男性では正しい知識の理解促進の選択肢が高くなっている。

	男性(N=291)	女性(N=384)
1 位(%)	正しい知識の習得と、理解を深めるための教育を学校で行う（72.9）	正しい知識の習得と、理解を深めるための教育を学校で行う（72.9）
2 位(%)	相談・支援体制を充実させる（51.2）	セクシュアルマイノリティであっても不当な差別を受けないよう法律や制度を整備する（57.6）
3 位(%)	セクシュアルマイノリティであっても不当な差別を受けないよう法律や制度を整備する ・ 正しい知識の習得と、理解を深めるための啓発活動を行政が行う（47.4）	相談・支援体制を充実させる（47.4）

■ 府中市の施策について

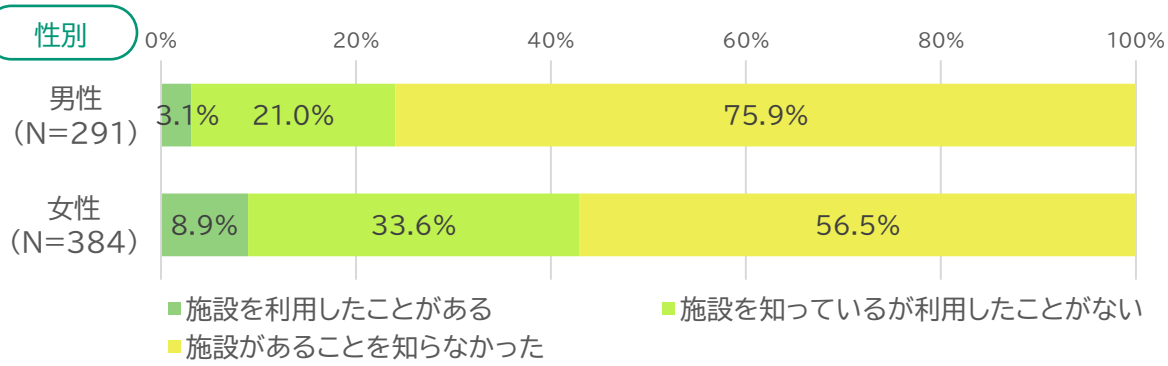
問 18 「府中市男女共同参画センター フチュール」を知っているか

全体 (N=682)

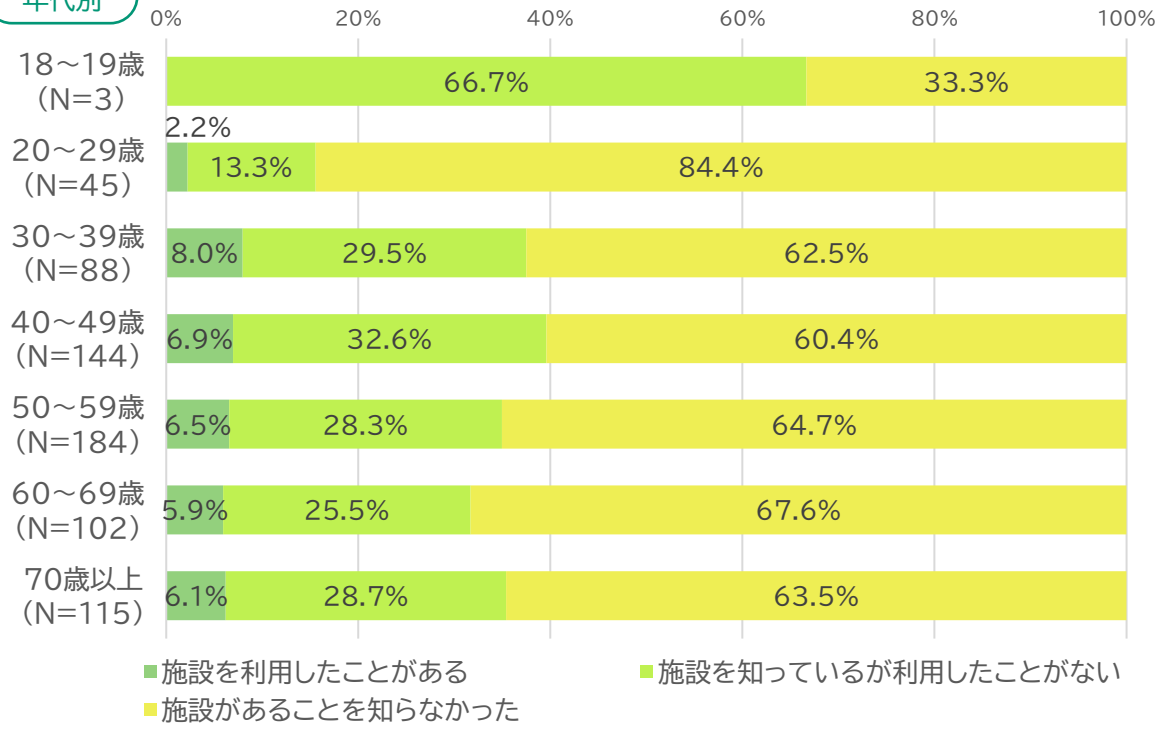


- 「施設を利用したことがある」「施設を知っているが利用したことがない」を合わせた、**施設の認知度は 34.5%**
- 男性は女性より「施設があることを知らなかった」割合が高い。
- 年齢別では、20～29 歳で「施設があることを知らなかった」割合が高く、30 代以降では横ばい傾向。

性別



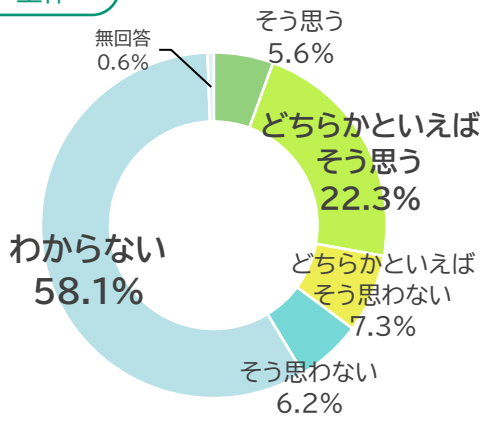
年代別



※無回答・無効は省略

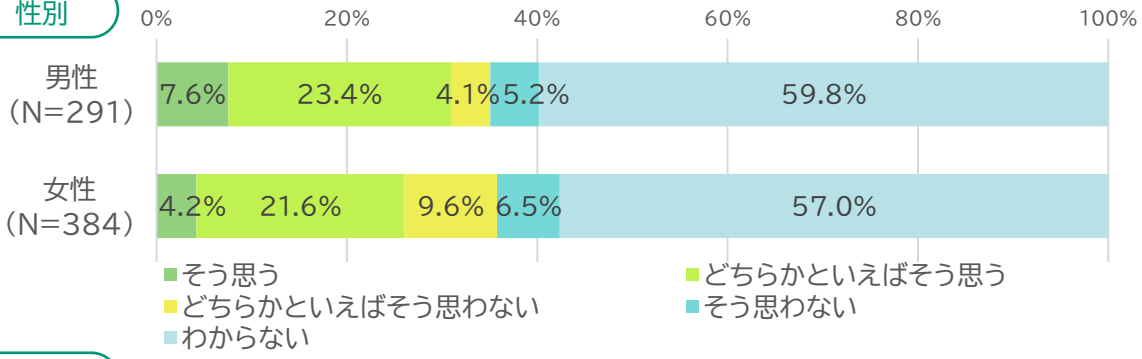
問 20　府中市は女性が活躍できる都市だと思うか

全体（N=682）

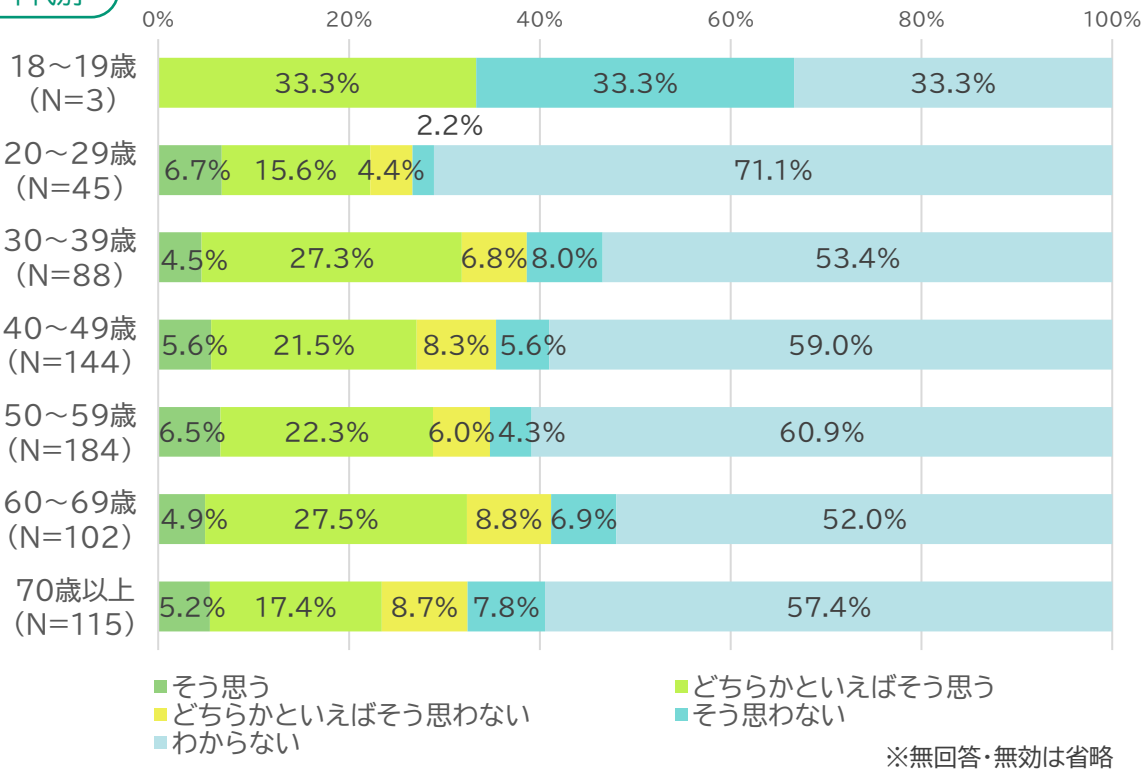


- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた、女性が**活躍できる**と考えている人は**27.9%**
- 男性は女性より「活躍できる」と考える割合が高い。
- 年齢別では、30～39 歳と 60～69 歳で「活躍できる」と考える割合がやや高い。

性別



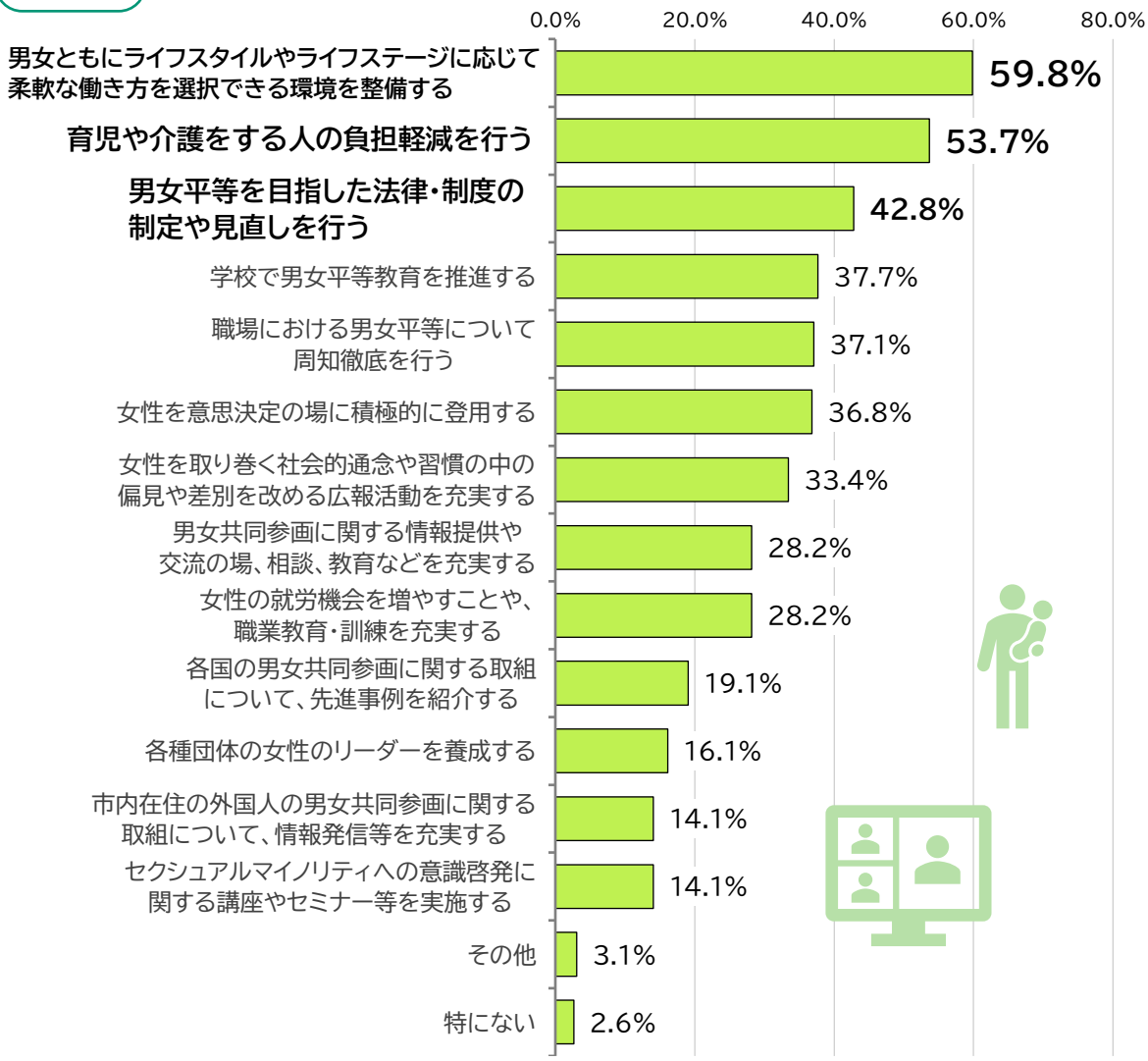
年代別



※無回答・無効は省略

問 21　自分らしく豊かに生きることのできる社会を実現させるため、市に力を入れてほしいこと

全体（N=682）



※無回答・無効は省略

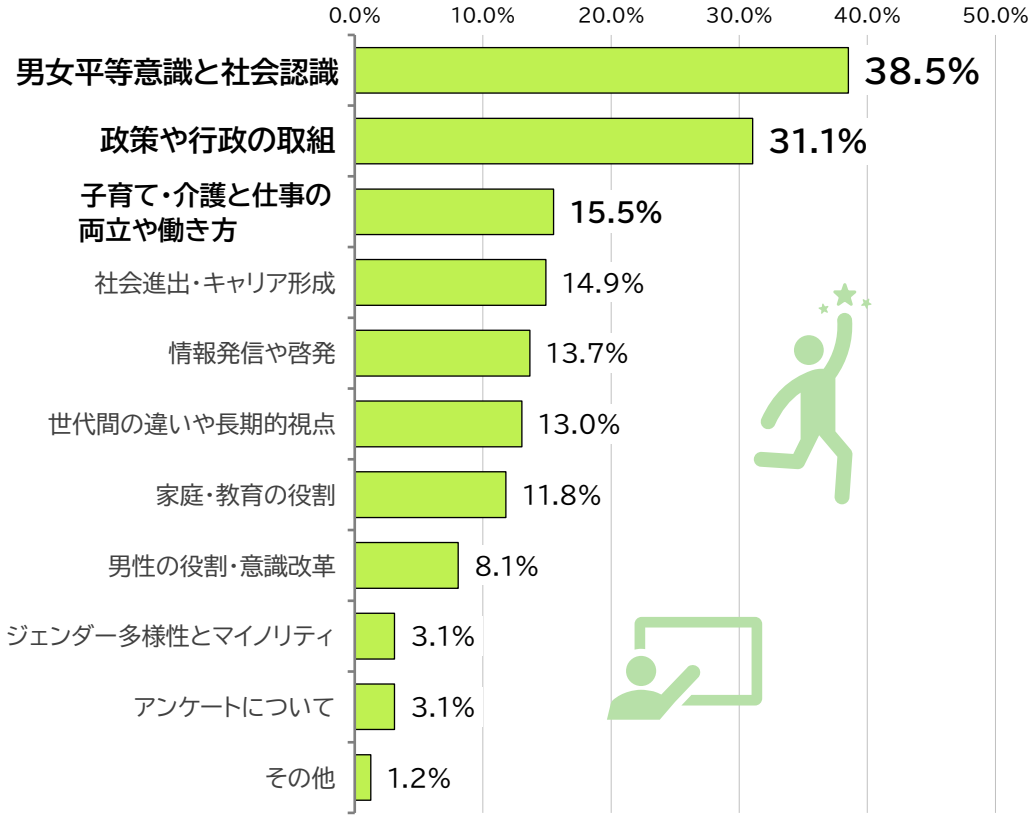
性別ごとの順位

・女性は育児・介護の負担軽減に関する選択肢の割合が高い。

	男性（N=291）	女性（N=384）
1 位（%）	男女ともにライフスタイルやライフステージに応じて柔軟な働き方を選択できる環境を整備（56.4）	男女ともにライフスタイルやライフステージに応じて柔軟な働き方を選択できる環境を整備（62.8）
2 位（%）	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直し（45.4）	育児や介護をする人の負担軽減（61.5）
3 位（%）	育児や介護をする人の負担軽減（43.6）	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直し（40.9）

問 22　市の男女共同参画や男女共同参画全般についての自由意見

・自由意見を10項目及びその他の分類により集計すると、
「男女平等意識と社会認識」「政策や行政の取組」「子育て・介護と仕事の両立や働き方」についての意見が多い。



※複数の項目にわたる意見は重複して集計
（N=161）

主な意見

・男女の役割意識は依然として残っているが、社会進出する女性の増加とそれに伴い、家庭での役割が変化してきている

・行政の取組や啓発、教育などによる意識改革の必要性と若い世代への教育が重要

・長期的な視点を持ち、世代間の意識差を埋める努力も必要

・行政の取組として、子育て・仕事の両立支援等による環境づくりが重要　など

本　編

Ⅰ　調査の概要

１　調査の目的･方法等

２　調査票の設問項目

３　調査結果の概要

1 調査の概要

(1)調査の目的

本調査は、「第７次府中市男女共同参画計画」の策定準備にあたり、市民の男女共同参画社会に関する意識や意見・要望等を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

(2)調査方法

○調査対象者　市内在住の 18 歳以上の市民　2,000 名（無作為抽出）
○調査方法　郵送による配布　/　郵送またはＷＥＢサイトでの回収（どちらか選択）
○調査期間　令和５年９月 11 日（月）～令和５年９月 24 日（日）
（期間後、到着したものについては令和５年 10 月６日（金）分まで集計に反映）

(3)回収結果

○回収数（有効回収数）　691 票（682 票）
○回収率（有効回収率）　34.6%（34.1%）

区　分		配布数	有効回収数		有効回収率	
総　数		2,000 票	682 票		34.1%	
(内訳)			紙：444	WEB:238	紙：22.2%	WEB:11.9%
	男　性	－	291 票		14.6%	
	女　性	－	384 票		19.2%	
	その他	－	1 票		0.1%	
	回答したくない・無回答	－	6 票		0.3%	

※個別の回収率は総配布数に対しての割合を示す。(小数点第２位までの表示のため合計が合わない場合がある)

(4)調査結果の留意点

・各設問に記載されている「SA」は単数回答の設問、「MA」は複数回答の設問、「FA」は自由意見の設問、また、「n=〇〇」は有効回答者数を示しています。
・回答数が限定されている設問で規定数以上を選択している場合や、限定対象の設問で該当しない人が選択した票などは無効としています。
・比率はすべて百分率で表し、小数点以下第２位を四捨五入して算出しています。そのため、百分率の合計が 100%にならない場合があります。
・複数回答の設問については、母数を有効回答票数としているため、百分率の合計が 100%を超えています。
・設問やグラフ、表中の回答選択肢は、短縮して表記している場合があります。また、およその傾向をつかむためにコメントでは「●割」「●%」といった表現を併用しています。
・属性の問、100%積み上げ横棒グラフ以外は割合が多い順に適宜並び替えています。(その他、無効は除く)
・本文グラフ及び表では「無効」を含んで集計しています。
・回答が少数である場合の比率については、特定の意向が強く反映される場合があります。

2 調査票の設問項目

■ あなたご自身について		
Ｆ１	性別	ＳＡ
Ｆ２	年齢	ＳＡ
Ｆ３	職業	ＳＡ
Ｆ４	婚姻の有無	ＳＡ
■ あらゆる分野における男女共同参画について		
問１	①～⑦の分野において男女の地位・立場は平等になっていると思うか	ＳＡ
問２	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について	ＳＡ
問２-１	【限定】問２で賛成の理由	ＭＡ
問２-２	【限定】問２で反対の理由	ＭＡ
問３	女性が長く働くうえでの支障	ＳＡ
問４	児童生徒の男女参画意識を育成するために、学校教育で必要な取組	ＭＡ
問５	現在の社会活動や地域活動への参加について	ＳＡ
問５-１	【限定】参加したいができていない理由	ＭＡ
問６	災害対策に男女双方の視点を生かすために重要なこと	ＭＡ
問７	見聞きしたことのある言葉	ＭＡ
■ 仕事と生活の調和について		
問８	生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「個人の時間」の優先度の希望	ＳＡ
問９	生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「個人の時間」の優先度の現状	ＳＡ
問 10	男性が育児・家事を行うことに対するイメージ	ＭＡ
問 11	ワーク・ライフ・バランス実現のために有効だと思う取組	ＭＡ
問 12	ワーク・ライフ・バランス実現のために府中市に望むこと	ＭＡ
■ 人権が尊重される社会の形成について		
問 13	（１）～（９）の各行為は暴力だと思うか	ＳＡ
問 14	配偶者等に暴力を受けたこと、または身近な人が暴力を受けていることに気づいたことはあるか	ＳＡ
問 14-1	【限定】誰(どこ)かに相談したか	ＳＡ
問 15	ＤＶやデートＤＶの対策や防止のため、府中市で必要な施策	ＭＡ
問 16	（１）～（６）の行為を日常生活で受けたことがあるか	ＳＡ
問 17	セクシュアルマイノリティの人権を守るために必要な方策	ＭＡ
■ 男女共同参画社会づくりに向けた府中市の施策について		
問 18	「府中市男女共同参画センター フチュール」を知っているか	ＳＡ
問 19	「府中市男女共同参画センター フチュール」にどのような機能があれば良いか	ＭＡ
問 20	府中市は女性が活躍できる都市だと思うか	ＳＡ
問 20-1	【限定】問 20 の回答理由	ＦＡ
問 21	自分らしく豊かに生きることのできる社会を実現させるため、市に力を入れてほしいこと	ＭＡ
問 22	自由意見	ＦＡ

※ＳＡ…シングルアンサー（単数回答）、ＭＡ…マルチアンサー（複数回答）、ＦＡ…フリーアンサー（自由記述）

調査結果の概要

■全体の傾向

●「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という、固定的な性別役割分担意識は解消しつつあるが、全体として男女の地位の平等感は感じておらず、男性優遇と考えている（教育のみ平等）。

●用語の認知度については全体的に割合が高く、新しい用語も見聞きしたことがある市民が多い。
男女共同参画に特に関係する用語「男女共同参画社会」は６割以上、「ワーク・ライフ・バランス」も６割程度の認知度と低くはないものの、啓発により、認知度を上げていくことが求められる。

●ＤＶ等の被害に対する支援として相談先の情報提供、性別に限らず相談しやすい環境等が求められる。

●性的マイノリティ等人権尊重のためには、子どもの頃から多様性に関する教育が大切と考えられている。

●男女共同参画センター フチュールの利用は低く、各種情報提供が求められている。

●全体として市に求められていることは、「育児や介護の負担軽減に対する取組」や、「ライフスタイルやステージに応じた柔軟な働き方ができる環境整備（や働きかけ）」などのワーク・ライフ・バランスに関する取組についてが多い。

■結果概要（抜粋）

○回答者の属性について

●性別は男性（42.7%）、女性（56.3%）で女性比率がやや高いがバランスがとれている。
（参考：前回の意識調査（以下前回という）男性 37.7%、女性 61.3%と男性が少ない傾向）

●年齢は 50 歳代（27.0%）、40 歳代（21.1%）が多く、40～70 歳代で 79.9%を占める。
ＷＥＢ回答の割合をみても 50 歳代（28.6%）と 40 歳代（27.3%）の割合が高い。

○あらゆる分野における男女共同参画

●問１　男女の地位の平等感をみると、学校教育の場のみ「平等」と感じる市民が多い（44.7%）。
全体的に「男性優遇」と感じており、特に政治の場が６%、社会通念・慣習・しきたりが 10.1%と不平等感が顕著となっている。（参考：前回と平等感は同じ傾向。家庭生活、職場、法律はやや平等感が上がる。）
【男女別では】家庭生活の場、法律や制度上で、男性は女性に比べて「平等」の割合が高く、認識の差がでている。

●問２「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えについて、反対である（反対＋どちらかというと反対の合計）と感じる方は 68.1%と約７割。（参考：前回反対は 50.4%と、反対が 18%増加）

⇒上記考えに「賛成」の理由は夫の収入面や、妻の見守りが子どもの成長に良い等の家庭状況を要因とした理由、「反対」は固定的な役割分担意識を押しつけるべきでない、男女平等に反するといった社会通念を要因とした理由が多くなっている。

●問４　児童生徒の男女共同意識の育成のために学校で必要な取組は、「性別にかかわらず協力して物事を進める必要性を学ぶ（65.4%）」、「ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶ（61.1%）」が６割以上で具体的な指導よりも道徳的な部分を重要視している。また、教職員に関する取組の割合は低い。

●問６　災害対策で男女の視点を生かすために必要なことは、「性別に応じてプライバシーが確保できる避難所運営（72.0%）」、「マニュアルなどに男女双方の視点を入れること（63.0%）」が６割以上。
（参考：前回も同傾向だが、性別に応じてプライバシーが確保できる避難所運営は 10%程度減少。）

●問７　見聞きしたことがある用語については、全体的に認知度が高い傾向となっている。特に「パワー・ハラスメント（95.0%）」「セクシュアル・ハラスメント（94.0%）」で９割以上、「ジェンダー（89.1%）」や「ＬＧＢＴ（84.8%）」等の新しい単語も８割以上と割合が高い。

⇒一方低いのは「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（6.5%）」、「クォータ制（9.5%）」で１割未満。男女共同参画に特に関連する「男女共同参画社会（65.8%）」、「ワーク・ライフ・バランス（60.9%）」は６割程度。

【男女別では】全体的に男性の認知度が高い傾向にある。

〇仕事と生活の調和について

●問８・問９　「仕事」「家庭生活」「個人時間」の生活の優先度について、「希望」は「家庭生活・個人を優先（31.5%）」が最も高く、次いで「全て（21.8%）」。「現実」は「仕事を優先（24.6%）」が最も高い。「希望」で高かった「家庭生活・個人を優先」は、「現実」では 17.6%で、ややバランスは取れている。
（参考：前回は「現実」が「家庭生活を優先（28.9%）」が最も高く、今回は「仕事を優先」が増加。）

【男女別では】希望は男女ともに「家庭生活・個人を優先」、現実として男性は「仕事を優先」、女性は「家庭生活を優先」が高い。

●問 11　ワーク・ライフ・バランス実現のために有効なことは、「長時間労働の削減（60.9%）」が最も高く、「フレックスタイム、短時間勤務制度、週休３日制の導入など柔軟な働き方の導入（58.4%）」等の新しい働き方の動きの割合も高くなっている。また、「仕事と育児の両立支援（58.2%）」「仕事と介護の両立支援（51.6%）」も高い。

【男女別では】全体的に女性の回答割合が多く、女性は「仕事と育児の両立支援」が最も高い。

⇒「仕事と育児の両立支援」は、（問３）女性が長く働く上で支障となるもので最も高い選択肢（40.6%）。

●問 12　ワーク・ライフ・バランス実現のために市に望むことは、「家庭で介護する人の負担軽減のための情報提供（58.8%）」が最も高く、次いで「男女ともに仕事と生活を両立できるように企業などへの環境整備の働きかけ（49.3%）」。その他、子育て支援の選択肢についても４割以上となっている。

【男女別では】男性では「一時預かり等の保育サービスの充実を図る」が２番目に高い。また女性は「性や年代別のニーズに応じた健康支援に関する情報提供等を行う」の割合が男性よりも高い。

⇒問 11 の有効なことで割合が高かったようなことが市に望まれている。

〇人権が尊重される社会の形成について

●問 14　配偶者等から暴力行為を受けたこと、周囲の人が受けていると気づいたことはあるかについては、「全くない（77.4%）」が最も高かった一方で、体験した方も 20%程度となっている。

⇒問 14-1　体験した方は「相談しようと思わなかった（46.1%）」の割合が最も高い。実際に相談した方は２割以下で、相談していない方は８割以上。その内、相談先がわからない人も１割以上いた。
（参考：前回は何かしらあった方の相談した割合が３割以上と割合が減っている。）

【男女別では】経験があった方の中で「相談した」男性は１割未満、女性は２割以上。さらに「相談しようと思わなかった」男性が６割以上、女性が３割以上と大きな差がみられる。

●問 15　ＤＶ・デートＤＶ対策のために市に必要な施策は、「相談しやすい環境・相談方法の整備（79.0%）」が最も高く、問 14-1 から見える必要な施策が高い割合となっている。

●問 17　セクシュアルマイノリティの人権を守るために必要な方策については、「正しい知識の習得と、理解を深めるための教育を学校で行う（72.9%）」が最も多く、まずは学校教育が大切であると考えられている。一方、「特に必要な事はない（3.8%）」と考えている人も若干いる状況。

〇男女共同参画社会づくりに向けた府中市の施策について

●問 18　男女共同参画センター　フチュール（旧スクエア 21・女性センター）の認知度については、「施設を知らなかった（65.0%）」が最も高い。また、「利用したことがある（6.3%）」方は１割に満たない。「施設を知っているが利用したことがない」と「施設を利用したことがある」を合わせた施設の認知度は 34.5%となっている。
（参考：前回では、知っているが利用したことがないが約４割、利用したが１割と、５割近くの方がフチュールを認知していた。前回から利用割合が減少し、知らない人が増加している状況）

●問 19　フチュールに必要な機能については、「男女共同参画に関する意識啓発講座や情報提供（51.6%）」が最も高い。また、「男女共同参画センターの事業紹介など情報提供（37.8%）」、「女性就労支援、デジタルスキルアップに関する講座や情報提供（35.8%）」と続き、まずは情報提供が求められている。

【男女別では】女性は「女性就労支援、デジタルスキルアップに関する講座や情報提供」が２番目に高い。

●問 20　府中市は女性が活躍できる都市かについては、「わからない（58.1%）」が約６割で最も高いが、「そう思う（そう思う＋どちらかと言えばそう思うの合計）（27.9%）」と２割以上の方は活躍できると感じている。

【男女別では】活躍できると感じている割合は、男性（３割）が女性（２割以上）より高い。

⇒問 20-1「そう思う」理由として、「女性が職場・地域で活躍・働いている」、「行政職員に女性が多い」「行政の取組によって」等が挙げられている。

●問 21　自分らしく豊かに暮らすことのできる社会を実現させるために市が力を入れることについては、「男女ともにライフスタイルやライフステージに応じて柔軟な働き方を選択できる環境整備（59.8%）」が最も多く、次いで「育児や介護をする人の負担軽減（53.7%）」、「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直し（42.8%）」となっており、働き方やワーク・ライフ・バランスに関する取組が多い。

【男女別では】男性は「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」、女性は「育児や介護をする人の負担軽減」が２番目に高い。

II　調査結果

単純集計調査結果（全体・男女別）

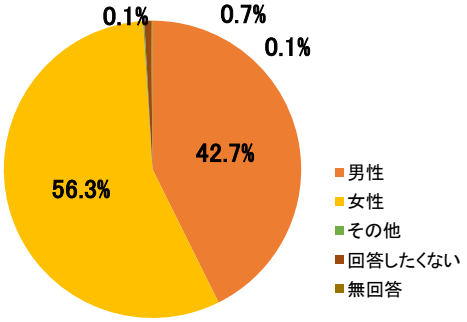
●あなたご自身について

F1　性別[SA]

「男性」が42.7%、「女性」が56.3%、「その他」が0.1%と続いている。女性比率がやや高い。

		全体	%
1	男性	291	42.7%
2	女性	384	56.3%
3	その他	1	0.1%
4	回答したくない	5	0.7%
	無回答	1	0.1%
	合計	682	100.0%

n＝　682

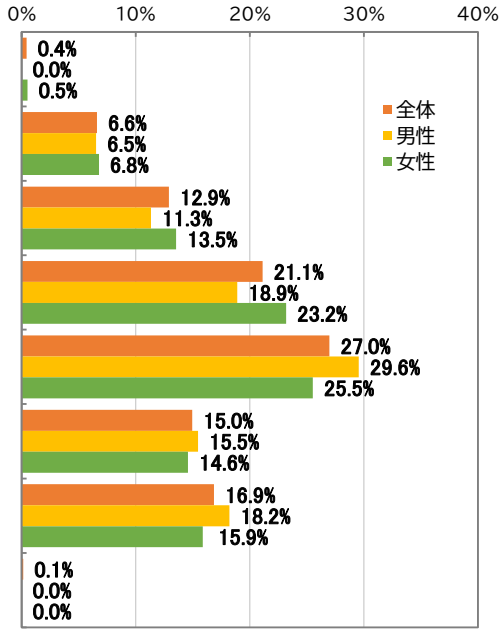


F2　年齢[SA]

最も高いのは「50～59 歳」の27.0%で、次いで「40～49歳」21.1%と「70歳以上」が16.9%となっており、40～70 代以上で全体の79.9%を占める。

		全体	%	男性	女性
1	18～19歳	3	0.4%	0.0%	0.5%
2	20～29歳	45	6.6%	6.5%	6.8%
3	30～39歳	88	12.9%	11.3%	13.5%
4	40～49歳	144	21.1%	18.9%	23.2%
5	50～59歳	184	27.0%	29.6%	25.5%
6	60～69歳	102	15.0%	15.5%	14.6%
7	70歳以上	115	16.9%	18.2%	15.9%
	無回答	1	0.1%	0.0%	0.0%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%

n＝　682　　n＝291　n＝384



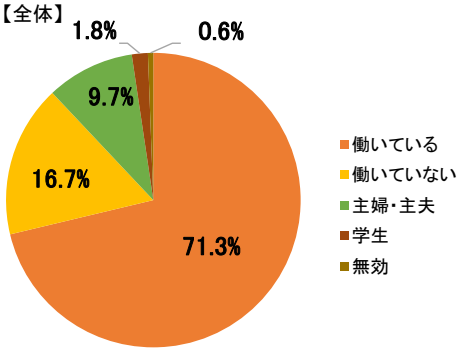
【参考】WEB回答（238票）の内訳について
18～19歳（0.8%）、20～29歳（10.5%）、30～39歳（18.9%）、40～49歳（27.3%）、50～59歳（28.6%）、60～69歳（10.9%）、70歳以上（2.9%）となっており、50～59歳が最も高くなっている。

F3 職業[SA]

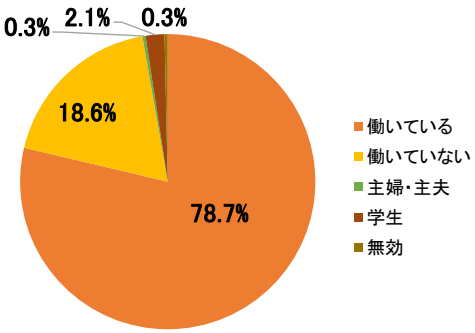
「働いている（収入あり）」が71.3%と高く、次いで「働いていない（収入なし、または公的年金）」が16.7%と続いている。
男女別では、どちらも「働いている（収入あり）」が最も多くを占めるが、女性は次いで「主婦・主夫」が16.9%となっている。

		全体	%	男性	女性
1	働いている（収入あり）	486	71.3%	78.7%	65.9%
2	働いていない （収入なし、または公的年金）	114	16.7%	18.6%	15.4%
3	主婦・主夫	66	9.7%	0.3%	16.9%
4	学生	12	1.8%	2.1%	1.3%
	無回答	4	0.6%	0.3%	0.5%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384

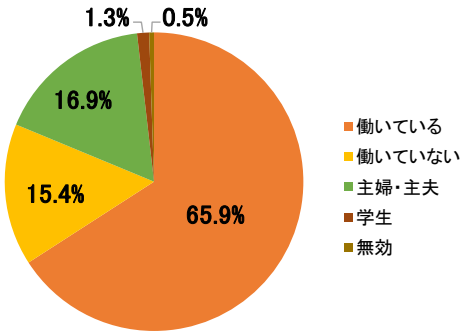
【全体】



【男性】



【女性】

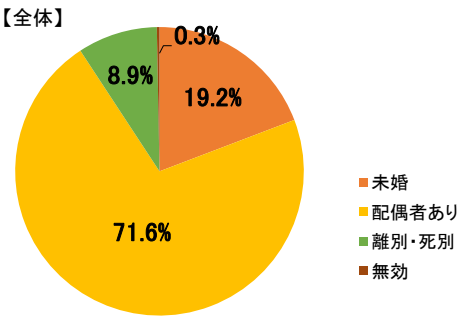


F4 婚姻の有無[SA]

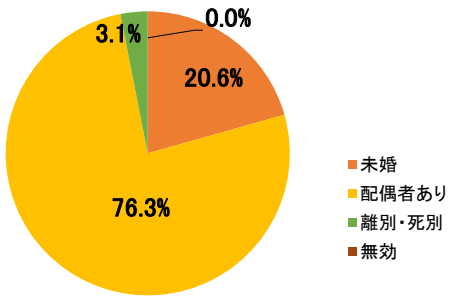
婚姻の有無は「配偶者あり（事実婚含む）」が71.6%と高くなっている。

		全体	%	男性	女性
1	未婚	131	19.2%	20.6%	18.2%
2	配偶者あり（事実婚含む）	488	71.6%	76.3%	68.5%
3	離別・死別	61	8.9%	3.1%	13.0%
	無回答	2	0.3%	0.0%	0.3%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384

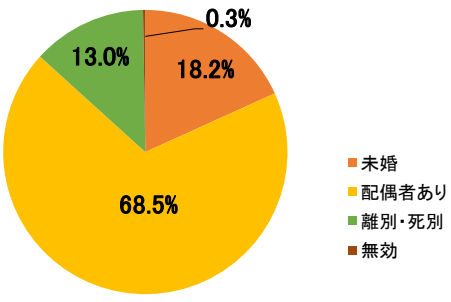
【全体】



【男性】



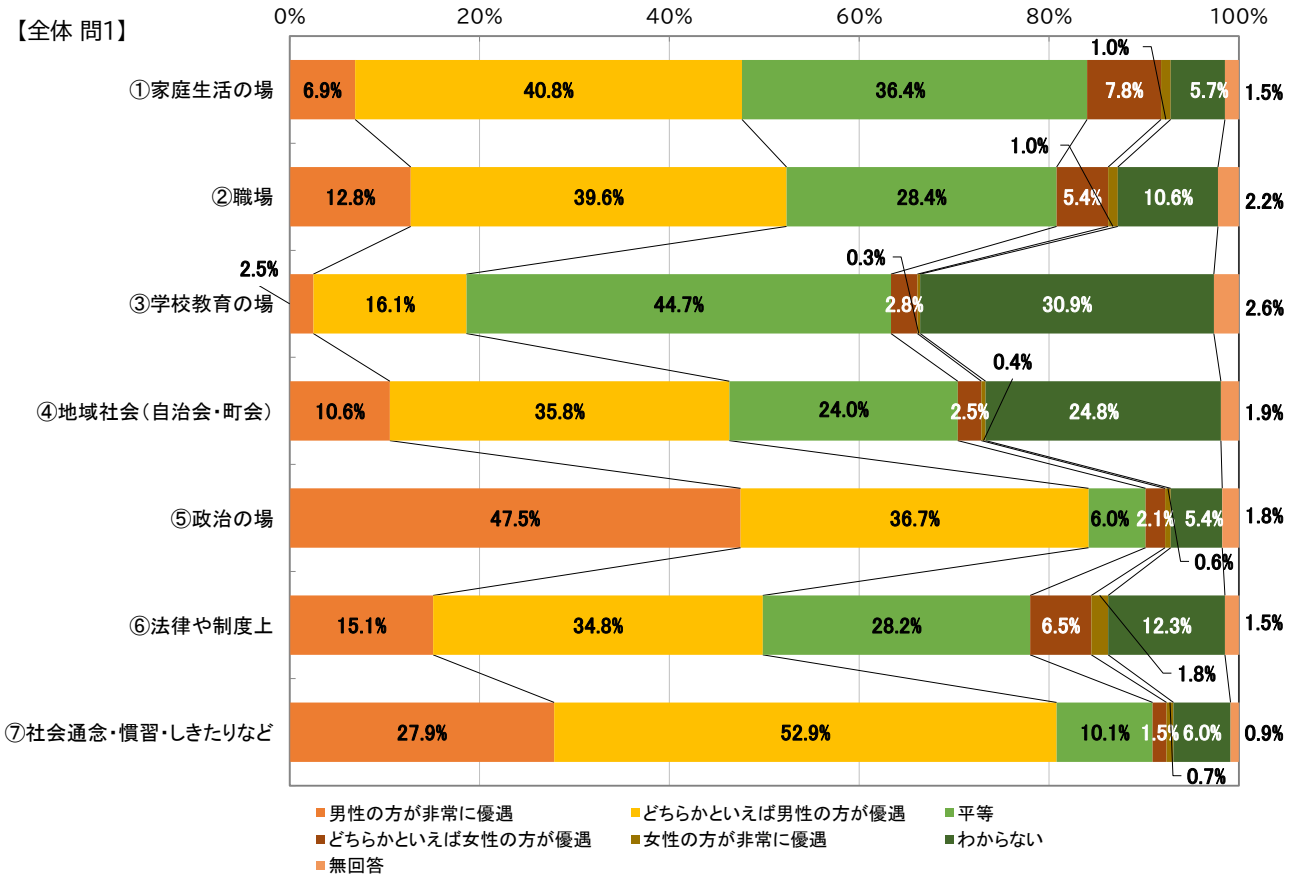
【女性】



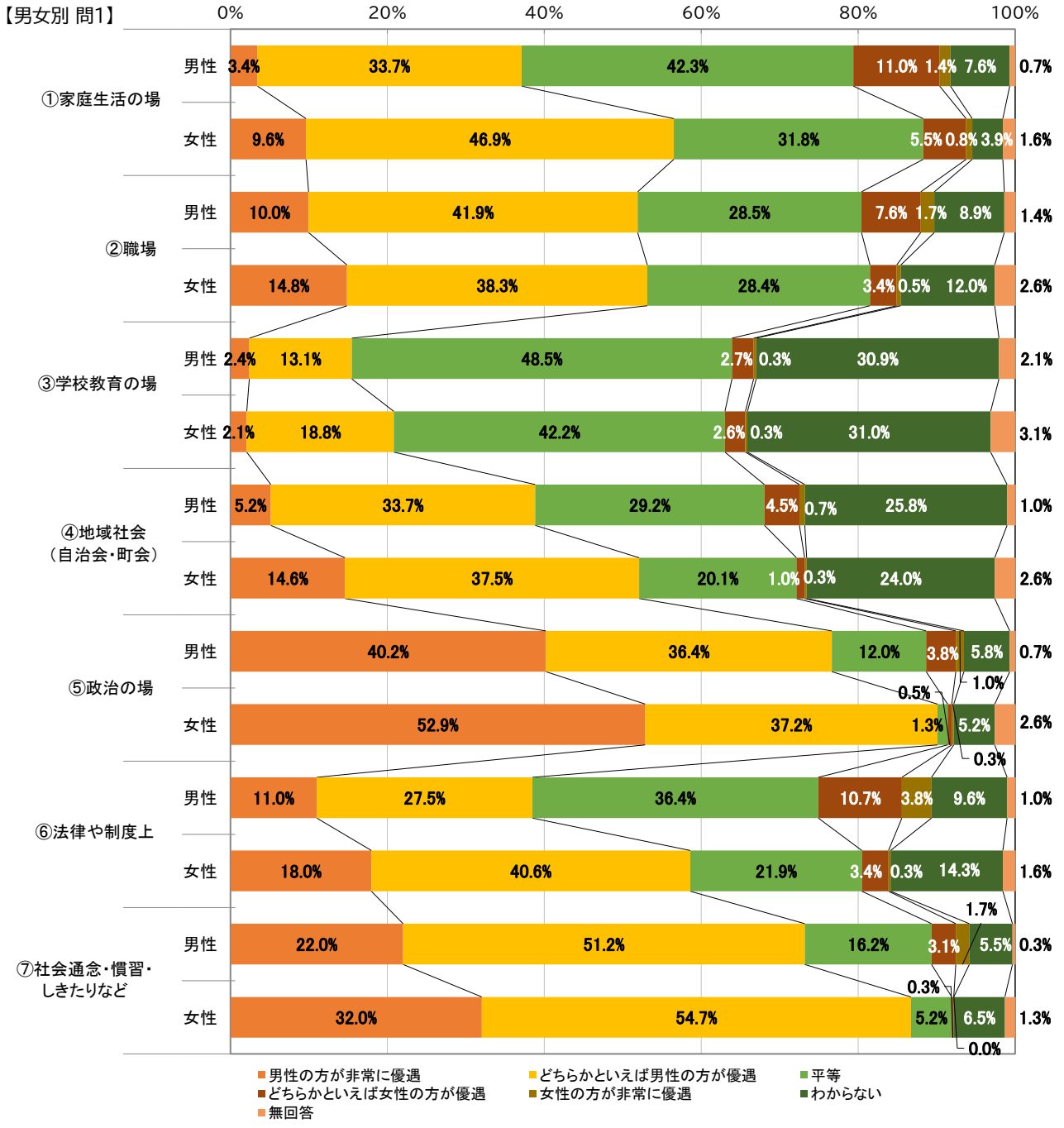
●あらゆる分野における男女共同参画について

問1　①～⑦の分野において男女の地位・立場は平等になっていると思うか[SA]

「男女の地位・立場は平等になっている」の割合が高いのは、「③学校教育の場で」が44.7%、「①家庭生活の場で」が36.4%、「②職場で」が28.4%である。
逆に最も低いのは「⑤政治の場で」の6.0%、2番目に低いのは「⑦社会通念・習慣・しきたりなどで」の10.1%となっている。
「⑤政治の場で」は「男性の方が非常に優遇されている」が47.5%と多くなっており、「⑤政治の場で」と「⑦社会通念・習慣・しきたりなどで」は「男性が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた「男性が優遇されている」割合は8割以上を占める。

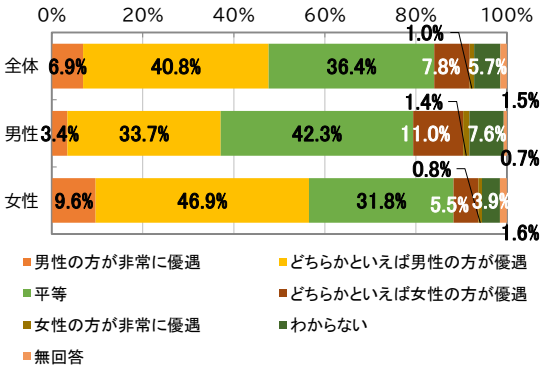


男女別では、「①家庭生活の場で」、「⑥法律や制度上で」で優遇に関する認識の差が明らかとなっている。
全体で平等が最も多かった「③学校教育の場」に続いて、男性は「①家庭生活の場」で平等と感じている割合が高く、女性よりも多くなっている。



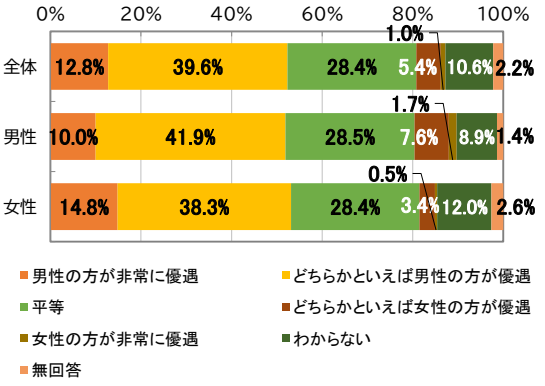
①家庭生活の場

		全体	%	男性	女性
1	男性の方が非常に優遇	47	6.9%	3.4%	9.6%
2	どちらかといえば男性の方が優遇	278	40.8%	33.7%	46.9%
3	平等	248	36.4%	42.3%	31.8%
4	どちらかといえば女性の方が優遇	53	7.8%	11.0%	5.5%
5	女性の方が非常に優遇	7	1.0%	1.4%	0.8%
6	わからない	39	5.7%	7.6%	3.9%
	無回答	10	1.5%	0.7%	1.6%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



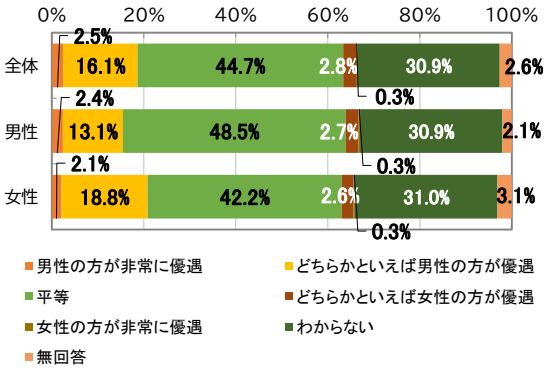
②職場

		全体	%	男性	女性
1	男性の方が非常に優遇	87	12.8%	10.0%	14.8%
2	どちらかといえば男性の方が優遇	270	39.6%	41.9%	38.3%
3	平等	194	28.4%	28.5%	28.4%
4	どちらかといえば女性の方が優遇	37	5.4%	7.6%	3.4%
5	女性の方が非常に優遇	7	1.0%	1.7%	0.5%
6	わからない	72	10.6%	8.9%	12.0%
	無回答	15	2.2%	1.4%	2.6%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



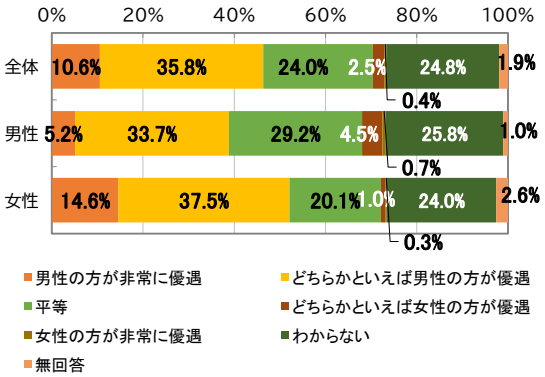
③学校教育の場

		全体	%	男性	女性
1	男性の方が非常に優遇	17	2.5%	2.4%	2.1%
2	どちらかといえば男性の方が優遇	110	16.1%	13.1%	18.8%
3	平等	305	44.7%	48.5%	42.2%
4	どちらかといえば女性の方が優遇	19	2.8%	2.7%	2.6%
5	女性の方が非常に優遇	2	0.3%	0.3%	0.3%
6	わからない	211	30.9%	30.9%	31.0%
	無回答	18	2.6%	2.1%	3.1%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



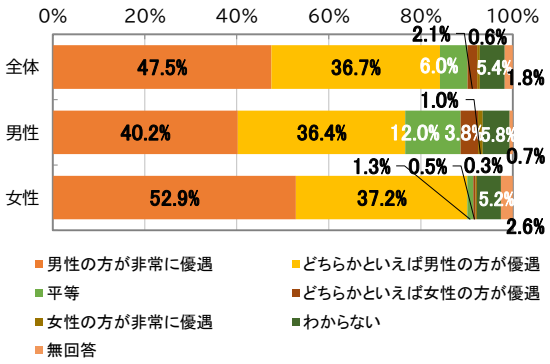
④地域社会(自治会・町会)

		全体	%	男性	女性
1	男性の方が非常に優遇	72	10.6%	5.2%	14.6%
2	どちらかといえば男性の方が優遇	244	35.8%	33.7%	37.5%
3	平等	164	24.0%	29.2%	20.1%
4	どちらかといえば女性の方が優遇	17	2.5%	4.5%	1.0%
5	女性の方が非常に優遇	3	0.4%	0.7%	0.3%
6	わからない	169	24.8%	25.8%	24.0%
	無回答	13	1.9%	1.0%	2.6%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



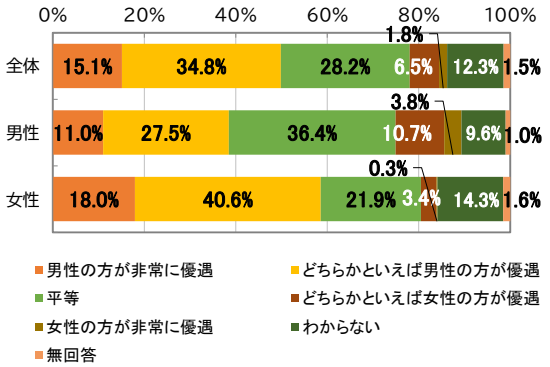
⑤政治

		全体	%	男性	女性
1	男性の方が非常に優遇	324	47.5%	40.2%	52.9%
2	どちらかといえば男性の方が優遇	250	36.7%	36.4%	37.2%
3	平等	41	6.0%	12.0%	1.3%
4	どちらかといえば女性の方が優遇	14	2.1%	3.8%	0.5%
5	女性の方が非常に優遇	4	0.6%	1.0%	0.3%
6	わからない	37	5.4%	5.8%	5.2%
	無回答	12	1.8%	0.7%	2.6%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



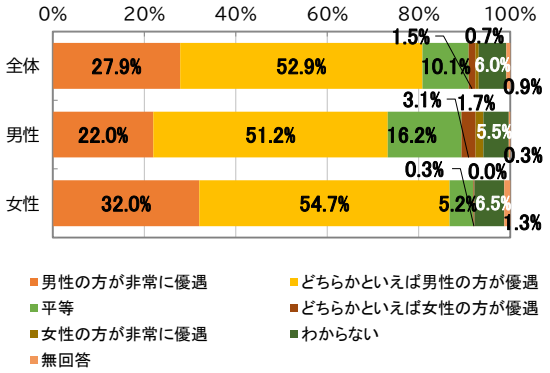
⑥法律や制度

		全体	%	男性	女性
1	男性の方が非常に優遇	103	15.1%	11.0%	18.0%
2	どちらかといえば男性の方が優遇	237	34.8%	27.5%	40.6%
3	平等	192	28.2%	36.4%	21.9%
4	どちらかといえば女性の方が優遇	44	6.5%	10.7%	3.4%
5	女性の方が非常に優遇	12	1.8%	3.8%	0.3%
6	わからない	84	12.3%	9.6%	14.3%
	無回答	10	1.5%	1.0%	1.6%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



⑦社会通念、慣習、しきたりなど

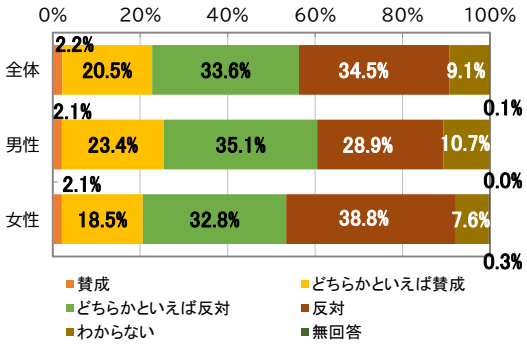
		全体	%	男性	女性
1	男性の方が非常に優遇	190	27.9%	22.0%	32.0%
2	どちらかといえば男性の方が優遇	361	52.9%	51.2%	54.7%
3	平等	69	10.1%	16.2%	5.2%
4	どちらかといえば女性の方が優遇	10	1.5%	3.1%	0.3%
5	女性の方が非常に優遇	5	0.7%	1.7%	0.0%
6	わからない	41	6.0%	5.5%	6.5%
	無回答	6	0.9%	0.3%	1.3%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



問2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について[SA]

「反対」(34.5%)と「どちらかといえば反対」(33.6%)を合わせると68.1%となり、「賛成」(2.2%)と「どちらかといえば賛成」(20.5%)を合わせた22.7%を大きく上回る。
男女別では、女性は「どちらかといえば反対」を含む「反対」が71.6%で、男性の63.9%よりも多くなっている。

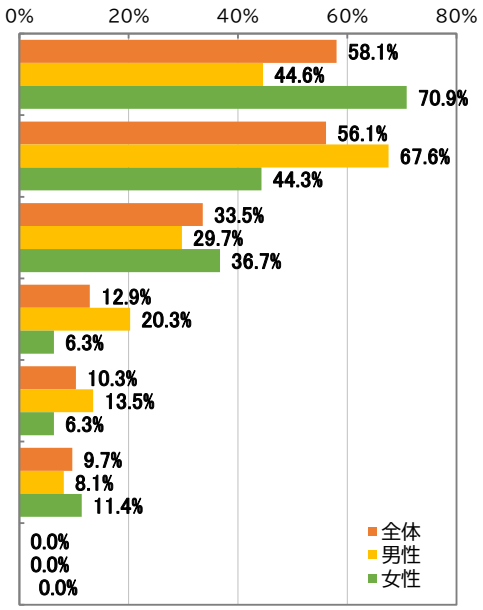
		全体	%	男性	女性
1	賛成	15	2.2%	2.1%	2.1%
2	どちらかといえば賛成	140	20.5%	23.4%	18.5%
3	どちらかといえば反対	229	33.6%	35.1%	32.8%
4	反対	235	34.5%	28.9%	38.8%
5	わからない	62	9.1%	10.7%	7.6%
	無回答	1	0.1%	0.0%	0.3%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n= 682		n=291	n=384



問2-1 【限定】問2で「1 賛成」または「2 どちらかと言えば賛成」と回答した方 賛成の理由[MA]

賛成の理由は、「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が58.1%、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が56.1%と続き、この2つが多くを占めている。
男女別では、男性は「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が67.6%で最も高く、女性は「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が70.9%と最も高くなっている。

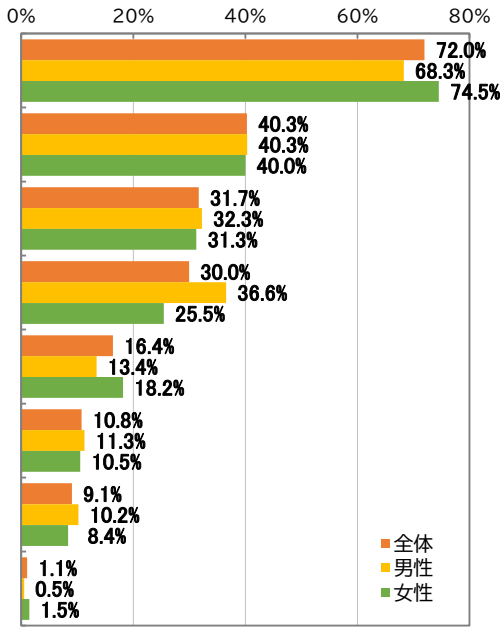
		全体	%	男性	女性
1	育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	90	58.1%	44.6%	70.9%
2	妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	87	56.1%	67.6%	44.3%
3	夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	52	33.5%	29.7%	36.7%
4	日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	20	12.9%	20.3%	6.3%
5	自分の両親も役割分担をしていたから	16	10.3%	13.5%	6.3%
6	その他	15	9.7%	8.1%	11.4%
	無回答	0	0.0%	0.0%	0.0%
	合計	280	180.6%	183.8%	175.9%
		n= 155		n=74	n=79



問2-2 【限定】問2で「3 どちらかと言えば反対」または「4 反対」と回答した方 反対の理由[MA]

反対の理由は、「固定的な夫と妻の役割分担意識を押し付けるべきではないから」が72.0%で最も高くなっており、7割以上を占める。次いで「男女平等に反すると思うから」が40.3%と続いている。
男女別では、全体の傾向と大きな差はみられないものの、「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」は男性が36.6%で、女性の25.5%を10ポイント以上上回っている。

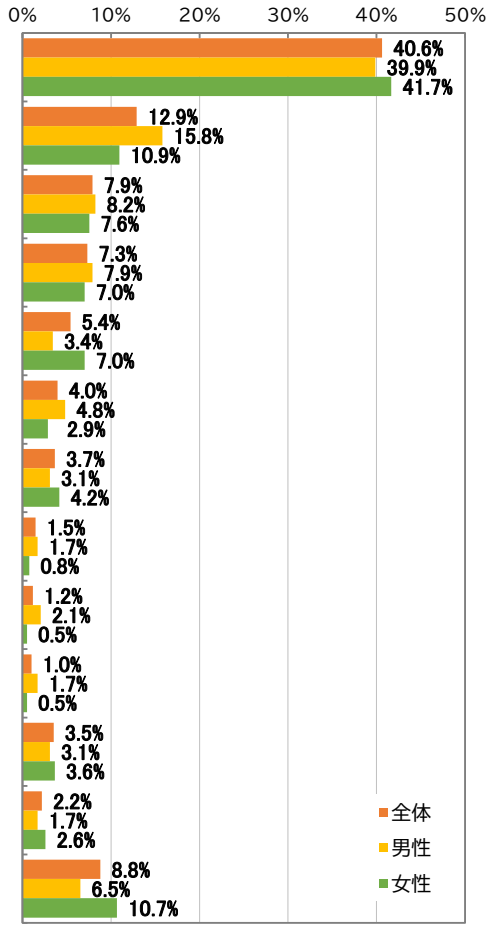
		全体	%	男性	女性
1	固定的な夫と妻の役割分担意識を押し付けるべきではないから	334	72.0%	68.3%	74.5%
2	男女平等に反すると思うから	187	40.3%	40.3%	40.0%
3	夫も妻も外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	147	31.7%	32.3%	31.3%
4	妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	139	30.0%	36.6%	25.5%
5	育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから	76	16.4%	13.4%	18.2%
6	自分の両親が外で働いていたから	50	10.8%	11.3%	10.5%
7	その他	42	9.1%	10.2%	8.4%
	無回答	5	1.1%	0.5%	1.5%
	合計	980	211.2%	212.9%	209.8%
		n＝ 464		n＝186	n＝275



問3　女性が長く働くうえでの支障[SA]

「家事・育児との両立が難しい」が40.6%と4割以上を占め、次いで「子どもを預ける施設の数やサービスが不足している」が12.9%と続いている。
男女別では、全体の傾向と大きな差はみられない。

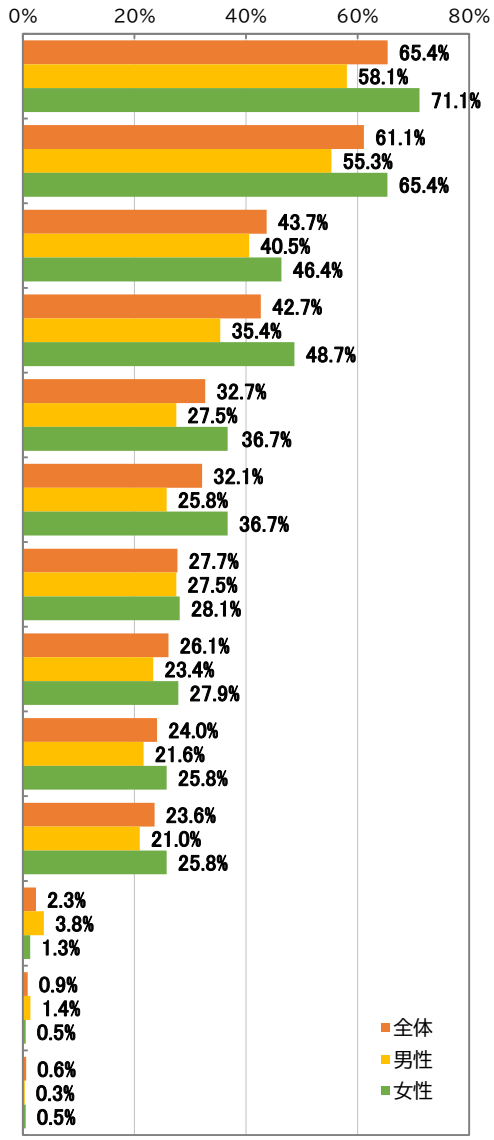
		全体	%	男性	女性
1	家事・育児との両立が難しい	277	40.6%	39.9%	41.7%
2	子どもを預ける施設の数やサービスが不足している	88	12.9%	15.8%	10.9%
3	職場での昇進・昇給や、教育制度に男女の不公平な取り扱いがある	54	7.9%	8.2%	7.6%
4	配偶者もしくはパートナーの理解や意識が不足している	50	7.3%	7.9%	7.0%
5	高齢者や障害者の介護がある	37	5.4%	3.4%	7.0%
6	育児・介護休業制度などを利用しにくい	27	4.0%	4.8%	2.9%
7	家族の理解や協力が得にくい	25	3.7%	3.1%	4.2%
8	働くことにメリットが感じられない	10	1.5%	1.7%	0.8%
9	配偶者もしくはパートナーの転勤がある	8	1.2%	2.1%	0.5%
10	職場に結婚・出産退職の慣行がある	7	1.0%	1.7%	0.5%
11	その他	24	3.5%	3.1%	3.6%
12	特にない	15	2.2%	1.7%	2.6%
	無回答	60	8.8%	6.5%	10.7%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



問4　児童生徒の男女参画意識を育成するために、学校教育で必要な取組[MA]

「性別にかかわらず、協力して物事を進める必要性を学ぶ」が65.4%と最も高く 、「ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶ」が61.1%、「家庭や家族の多様なありかたについて学ぶ」が 43.7%と続いて いる。
男女別では、「性別にかかわらず、協力して物事を進める必要性を学ぶ」「ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶ」「生活指導や進路指導において、性別にかかわらず能力を生かせるよう配慮する」「人権尊重の視点に立った性教育を充実させる」で男性より女性の方が10 ポイント以上上回っている。

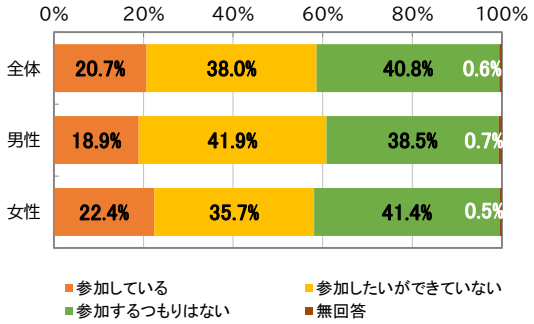
		全体	%	男性	女性
1	性別にかかわらず、協力して物事を進める必要性を学ぶ	446	65.4%	58.1%	71.1%
2	ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶ	417	61.1%	55.3%	65.4%
3	家庭や家族の多様なありかたについて学ぶ	298	43.7%	40.5%	46.4%
4	生活指導や進路指導において、性別にかかわらず能力を生かせるよう配慮する	291	42.7%	35.4%	48.7%
5	性犯罪の加害者や被害者になることを防いだり、性産業に巻き込まれないための教育や相談を行う	223	32.7%	27.5%	36.7%
6	人権尊重の視点に立った性教育を充実させる	219	32.1%	25.8%	36.7%
7	子どものメディア・リテラシー（※）を高める教育を行う	189	27.7%	27.5%	28.1%
8	DV（配偶者間での暴力）・デートDV（交際相手からの暴力）を防ぐための教育や相談を行う	178	26.1%	23.4%	27.9%
9	教員の男女比を同数にしたり、管理職（校長や副校長）に女性を増やしていく	164	24.0%	21.6%	25.8%
10	教職員を対象とした男女共同参画の研修を実施する	161	23.6%	21.0%	25.8%
11	その他	16	2.3%	3.8%	1.3%
12	どれも必要だとは思わない	6	0.9%	1.4%	0.5%
	無回答	4	0.6%	0.3%	0.5%
	合計	2,612	383.0%	341.6%	414.8%
		n＝	682	n＝291	n＝384



問5　現在の社会活動や地域活動への参加について[SA]

社会活動や地域活動へは「参加するつもりはない」が40.8%で最も高く、「参加したいができていない」が38.0%と続いており、これらを合わせた「参加していない」割合は7割以上となっている。
男女別では、男性は「参加したいができていない」が41.9%で最も高くなっており、女性の35.7%を5ポイント以上上回っている。

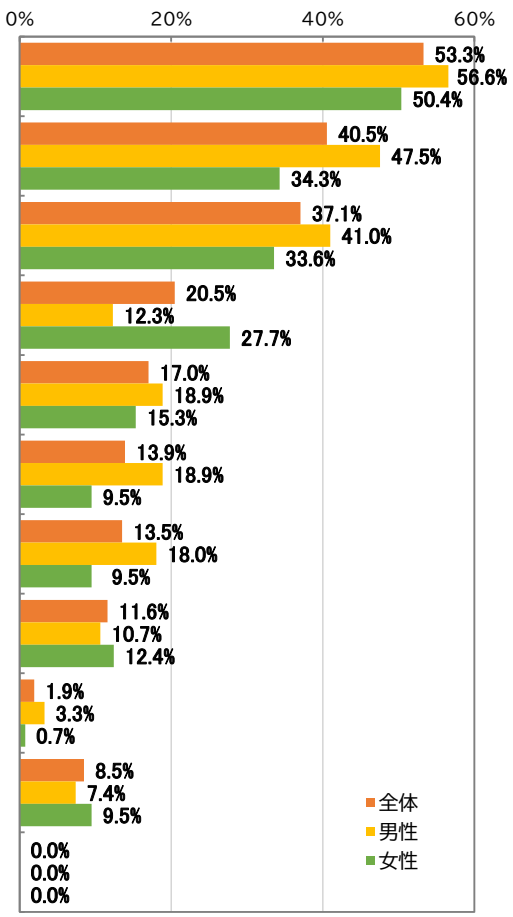
		全体	%	男性	女性
1	参加している	141	20.7%	18.9%	22.4%
2	参加したいができていない	259	38.0%	41.9%	35.7%
3	参加するつもりはない	278	40.8%	38.5%	41.4%
	無回答	4	0.6%	0.7%	0.5%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



問5-1 【限定】問5で「2　参加したいができていない」と回答した方　参加したいができていない理由[MA]

参加したいができていない理由として、「仕事が忙しいから」が53.3%と最も高く、次いで「参加方法がわからない、きっかけがないから」が40.5%と続いている。
男女別では、男性は「参加方法がわからない、きっかけがないから」が47.5%で、女性の34.3%を10ポイント以上上回っているほか、女性は「家事や育児・介護などが忙しいから」が27.7%で、男性の12.3%を10ポイント以上上回っている。

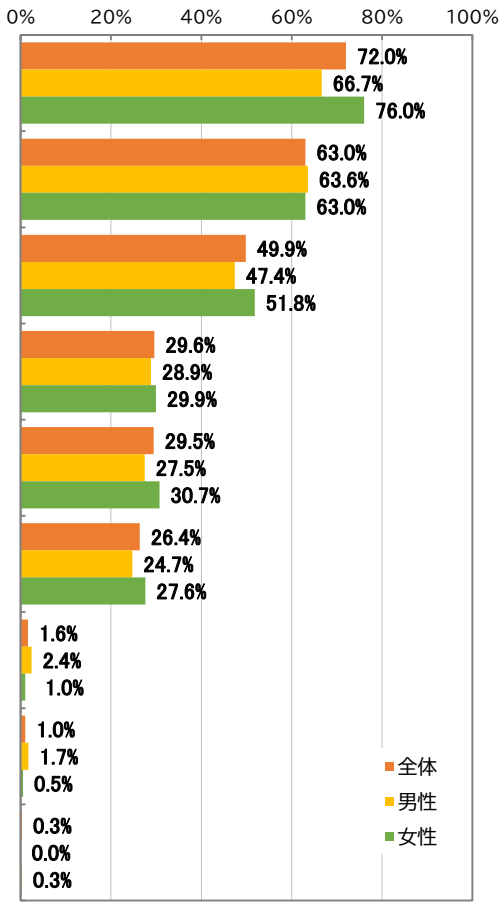
		全体	%	男性	女性
1	仕事が忙しいから	138	53.3%	56.6%	50.4%
2	参加方法がわからない、きっかけがないから	105	40.5%	47.5%	34.3%
3	どのような活動があるかわからないから	96	37.1%	41.0%	33.6%
4	家事や育児・介護などが忙しいから	53	20.5%	12.3%	27.7%
5	一緒に活動する仲間がいないから	44	17.0%	18.9%	15.3%
6	参加したいと思う活動がないから	36	13.9%	18.9%	9.5%
7	近くに活動の場がないから	35	13.5%	18.0%	9.5%
8	経済的余裕がないから	30	11.6%	10.7%	12.4%
9	家族の理解や協力がないから	5	1.9%	3.3%	0.7%
10	その他	22	8.5%	7.4%	9.5%
	無回答	0	0.0%	0.0%	0.0%
	合計	564	217.8%	234.4%	202.9%
		n＝ 259		n＝122	n＝137



問6　災害対策に男女双方の視点を生かすために重要なこと[MA]

「性別に応じてプライバシー（トイレ・更衣・授乳・就寝スペース等）が確保できる避難所運営を行えるようにする」が72.0%と最も高く、災害に関する各種対応マニュアルなどに男女双方の視点を入れる」が63.0%と続いている。
　男女別では、全体の傾向と大きな差はみられないものの、「性別に応じてプライバシー（トイレ・更衣・授乳・就寝スペース等）が確保できる避難所運営を行えるようにする」は女性が76.0%と男性の66.7%を10ポイント以上上回っている。

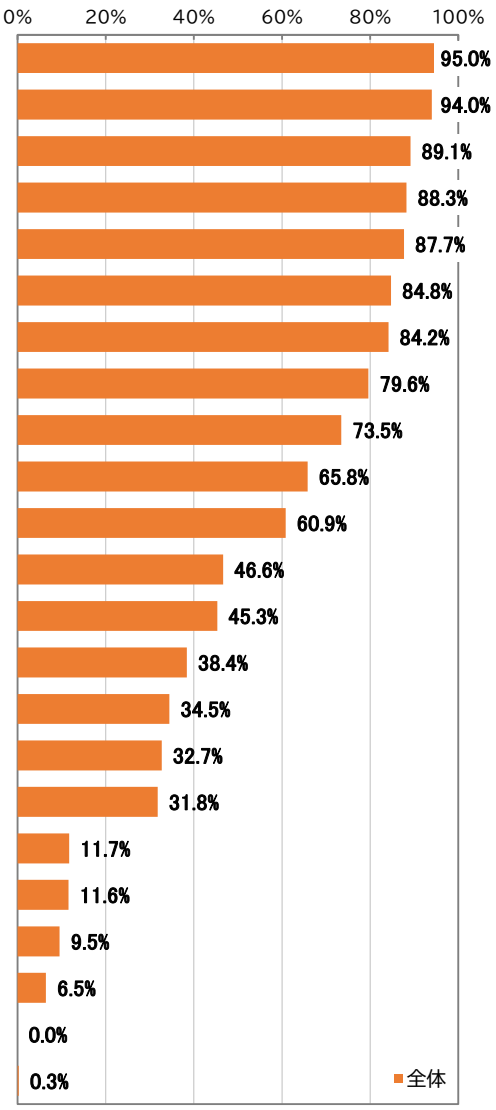
		全体	%	男性	女性
1	性別に応じてプライバシー（トイレ・更衣・授乳・就寝スペース等）が確保できる避難所運営を行えるようにする	491	72.0%	66.7%	76.0%
2	災害に関する各種対応マニュアルなどに男女双方の視点を入れる	430	63.0%	63.6%	63.0%
3	災害対応や復興において男女双方の視点が生かされるよう、災害現場の支援活動の中で男女のリーダーをバランスよく配置する	340	49.9%	47.4%	51.8%
4	防災分野の委員会や会議が、男女同数程度の構成になるようにする	202	29.6%	28.9%	29.9%
5	消防職員・警察官・自衛官・自治体職員などについて、防災担当に男女がバランスよく配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する	201	29.5%	27.5%	30.7%
6	災害時における配偶者やパートナー、子どもに対する暴力の防止策を講じたり、相談窓口を設置する	180	26.4%	24.7%	27.6%
7	その他	11	1.6%	2.4%	1.0%
8	どれも必要だとは思わない	7	1.0%	1.7%	0.5%
	無回答	2	0.3%	0.0%	0.3%
	合計	1,864	273.3%	262.9%	281.0%
		n＝	682	n＝291	n＝384



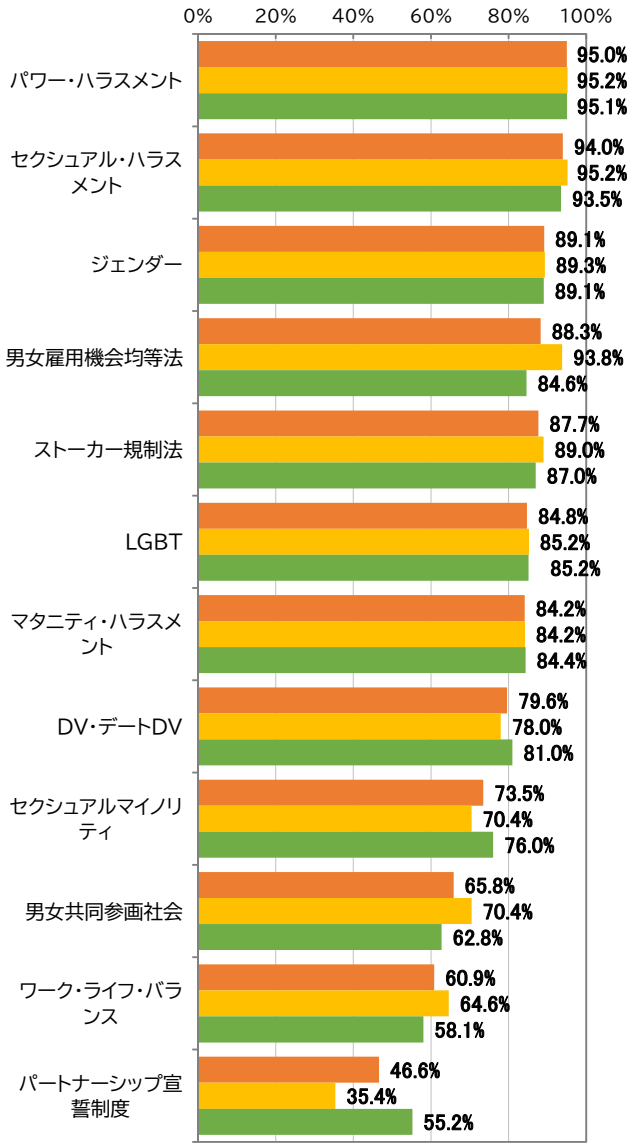
問7　見聞きしたことのある言葉[MA]

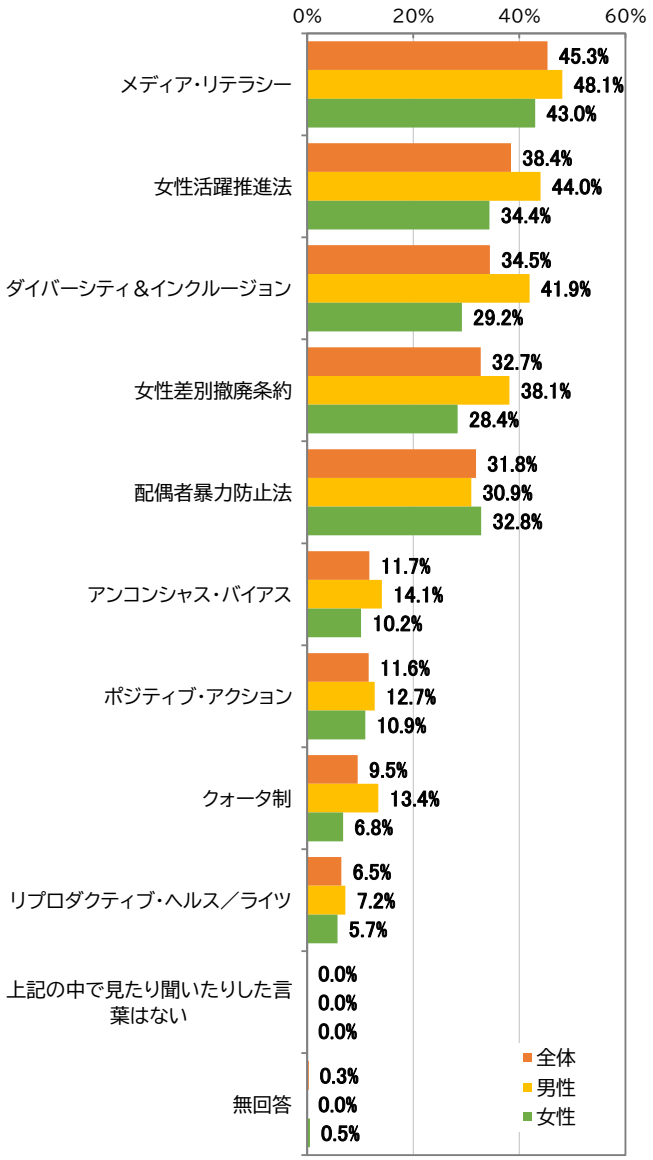
最も認知度が高い言葉は「パワーハラスメント」で95.0%となっており、「セクシュアル・ハラスメント」も94.0%と割合が高くなっている。また、「ジェンダー」、「男女雇用機会均等法」、「ストーカー規制法」、「LGBT」、「マタニティ・ハラスメント」の認知度も80%以上となっている。
一方、最も認知度が低い言葉は「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」で6.5%となっており、「クォータ制」も1割以下となっている。
また、男女共同参画に大きく関連する言葉として、「男女共同参画社会」は65.8%、「ワーク・ライフ・バランス」は60.9%と6割以上の認知度となっている。

		全体	%	男性	女性
1	パワー・ハラスメント	648	95.0%	95.2%	95.1%
2	セクシュアル・ハラスメント	641	94.0%	95.2%	93.5%
3	ジェンダー	608	89.1%	89.3%	89.1%
4	男女雇用機会均等法	602	88.3%	93.8%	84.6%
5	ストーカー規制法	598	87.7%	89.0%	87.0%
6	LGBT	578	84.8%	85.2%	85.2%
7	マタニティ・ハラスメント	574	84.2%	84.2%	84.4%
8	DV・デートDV	543	79.6%	78.0%	81.0%
9	セクシュアルマイノリティ	501	73.5%	70.4%	76.0%
10	男女共同参画社会	449	65.8%	70.4%	62.8%
11	ワーク・ライフ・バランス	415	60.9%	64.6%	58.1%
12	パートナーシップ宣誓制度	318	46.6%	35.4%	55.2%
13	メディア・リテラシー	309	45.3%	48.1%	43.0%
14	女性活躍推進法	262	38.4%	44.0%	34.4%
15	ダイバーシティ＆インクルージョン	235	34.5%	41.9%	29.2%
16	女性差別撤廃条約	223	32.7%	38.1%	28.4%
17	配偶者暴力防止法	217	31.8%	30.9%	32.8%
18	アンコンシャス・バイアス	80	11.7%	14.1%	10.2%
19	ポジティブ・アクション	79	11.6%	12.7%	10.9%
20	クォータ制	65	9.5%	13.4%	6.8%
21	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ	44	6.5%	7.2%	5.7%
22	上記の中で見たり聞いたりした言葉はない	0	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	2	0.3%	0.0%	0.5%
	合計	7,991	1171.7%	1201.4%	1153.6%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



男女別では、全体的に男性の認知度が高い傾向となっており、男性は「男女雇用機会均等法」(93.8%)、「女性活躍推進法」(44.0%)、「ダイバーシティ＆インクルージョン」(41.9%)、「女性差別撤廃条約」(38.1%)について女性よりも9ポイント以上上回っている。
一方、女性は「パートナーシップ宣誓制度」(55.2%)で男性の35.4%を19ポイント以上上回っている。



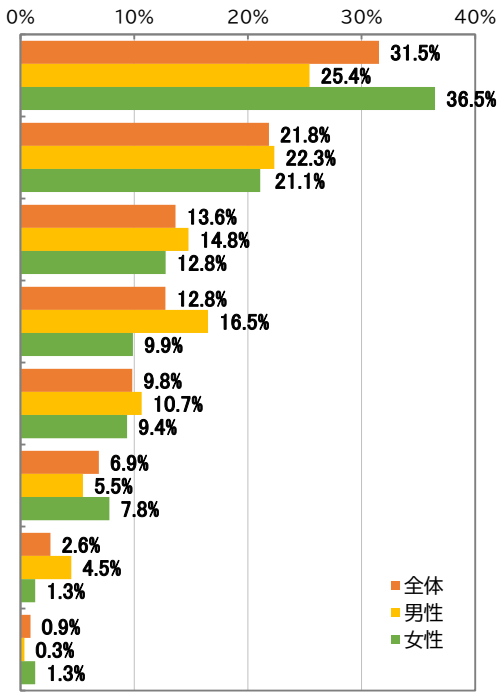


●仕事と生活の調和について

問8　生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「個人の時間」の優先度の希望[SA]

生活の中での優先度の希望としては、「『家庭生活』と『個人の時間』を優先したい」が31.5%で最も高く、次いで「『仕事』、『家庭生活』、『個人の時間』すべてを優先したい」が21.8%と続いている。
男女別では女性は「『家庭生活』と『個人の時間』を優先したい」が36.5%で男性の25.4%よりも10ポイント以上上回っている。また、男性は「『仕事』と『家庭生活』を優先したい」が16.5%で女性の9.9%よりも多くなっている。

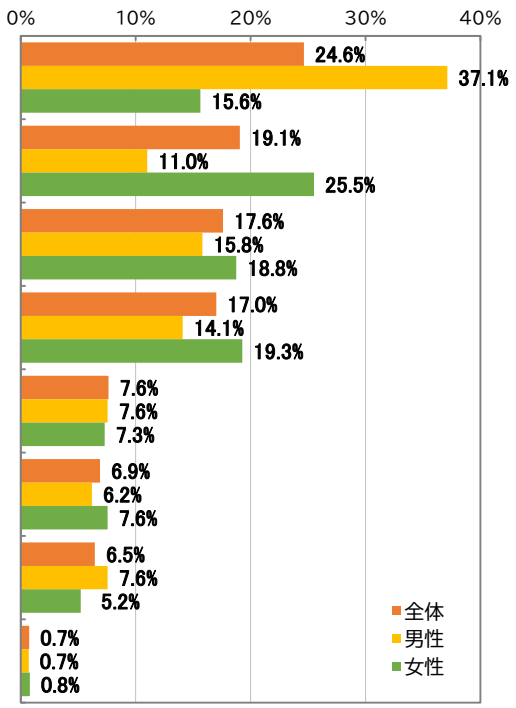
		全体	%	男性	女性
1	「家庭生活」と「個人の時間」を優先したい	215	31.5%	25.4%	36.5%
2	「仕事」、「家庭生活」、「個人の時間」すべてを優先したい	149	21.8%	22.3%	21.1%
3	「個人の時間」を優先したい	93	13.6%	14.8%	12.8%
4	「仕事」と「家庭生活」を優先したい	87	12.8%	16.5%	9.9%
5	「家庭生活」を優先したい	67	9.8%	10.7%	9.4%
6	「仕事」と「個人の時間」を優先したい	47	6.9%	5.5%	7.8%
7	「仕事」を優先したい	18	2.6%	4.5%	1.3%
	無回答	6	0.9%	0.3%	1.3%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝	682	n＝291	n＝384



問9　生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「個人の時間」の優先度の現状[SA]

生活の中での優先度の現状（現実）としては、「『仕事』を優先している」が24.6%で最も高く、次いで「『家庭生活』を優先している」が19.1%と続いている。
男女別では男性は「『仕事』を優先している」が37.1%で女性の15.6%よりも20ポイント以上上回り、女性は「『家庭生活』を優先している」が25.5%で男性の11.0%よりも15ポイント以上上回っている。

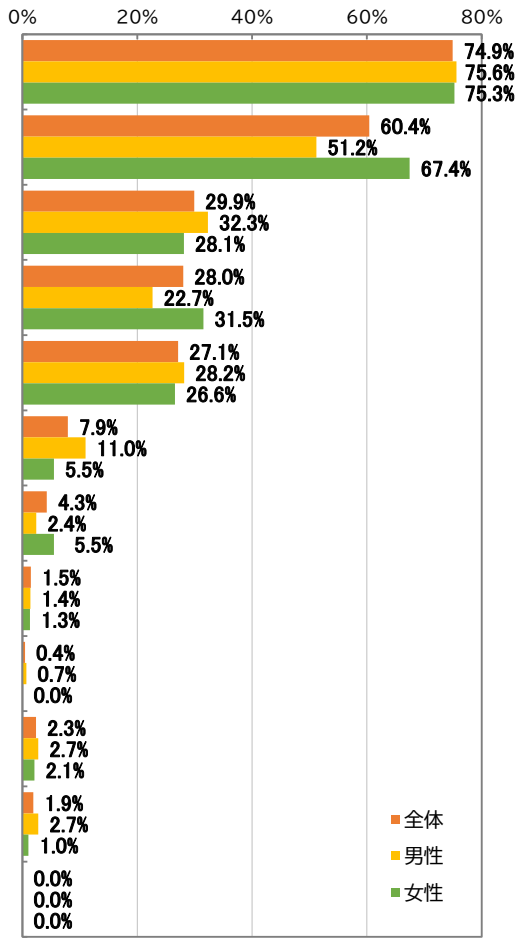
		全体	%	男性	女性
1	「仕事」を優先している	168	24.6%	37.1%	15.6%
2	「家庭生活」を優先している	130	19.1%	11.0%	25.5%
3	「家庭生活」と「個人の時間」を優先している	120	17.6%	15.8%	18.8%
4	「仕事」と「家庭生活」を優先している	116	17.0%	14.1%	19.3%
5	「個人の時間」を優先している	52	7.6%	7.6%	7.3%
6	「仕事」と「個人の時間」を優先している	47	6.9%	6.2%	7.6%
7	「仕事」、「家庭生活」、「個人の時間」すべてを優先している	44	6.5%	7.6%	5.2%
	無回答	5	0.7%	0.7%	0.8%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



問10　男性が育児・家事を行うことに対するイメージ[MA]

「男性も家事・育児を行うことは、当然である」が74.9%で最も高く、次いで「子どもにいい影響を与える」が60.4%と続いている。
男女別では、女性は「子どもにいい影響を与える」が67.4%となっており、男性の51.2%より15ポイント以上上回っている。

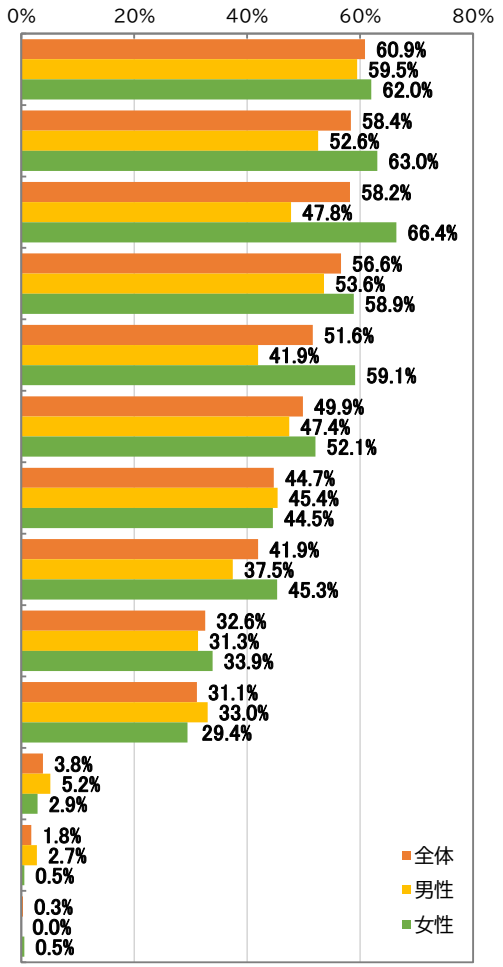
		全体	%	男性	女性
1	男性も家事・育児を行うことは、当然である	511	74.9%	75.6%	75.3%
2	子どもにいい影響を与える	412	60.4%	51.2%	67.4%
3	男性自身も充実感が得られる	204	29.9%	32.3%	28.1%
4	家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる	191	28.0%	22.7%	31.5%
5	仕事と両立させることは、現実として難しい	185	27.1%	28.2%	26.6%
6	家事・育児は女性の方が向いている	54	7.9%	11.0%	5.5%
7	妻が家事・育児をしていないと誤解される	29	4.3%	2.4%	5.5%
8	周囲から冷たい目で見られる	10	1.5%	1.4%	1.3%
9	男性は、家事・育児を行うべきではない	3	0.4%	0.7%	0.0%
10	その他	16	2.3%	2.7%	2.1%
11	特にない	13	1.9%	2.7%	1.0%
	無回答	0	0.0%	0.0%	0.0%
	合計	1,628	238.7%	230.9%	244.3%
		n＝	682	n＝291	n＝384



問11　ワーク･ライフ･バランス実現のために有効だと思う取組[MA]

「長時間労働の削減」が60.9%と最も高く、「フレックスタイム、短時間勤務制度、週休3日制の導入など柔軟な働き方の導入」が58.4%、「仕事と育児の両立支援」が58.2%となっている。
男女別では全体的に女性の回答割合が多く、女性では「仕事と育児の両立支援」が66.4%と最も高くなっている。また、「仕事と育児の両立支援」と「仕事と介護の両立支援」（59.1%）は男性よりも15ポイント以上上回っている。

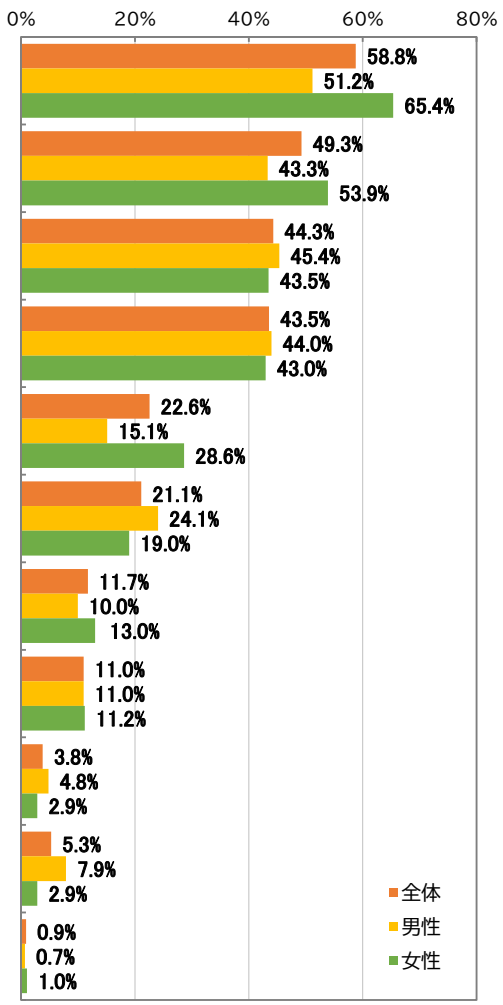
		全体	%	男性	女性
1	長時間労働の削減	415	60.9%	59.5%	62.0%
2	フレックスタイム、短時間勤務制度、週休3日制の導入など柔軟な働き方の導入	398	58.4%	52.6%	63.0%
3	仕事と育児の両立支援	397	58.2%	47.8%	66.4%
4	有給休暇の取得促進	386	56.6%	53.6%	58.9%
5	仕事と介護の両立支援	352	51.6%	41.9%	59.1%
6	テレワーク（在宅勤務等）、副業･兼業の促進など多様な働き方の導入	340	49.9%	47.4%	52.1%
7	管理職の意識啓発	305	44.7%	45.4%	44.5%
8	男性の育児休業、出産時育児休業取得の促進	286	41.9%	37.5%	45.3%
9	福利厚生制度の充実など、休暇の過ごし方の支援	222	32.6%	31.3%	33.9%
10	従業員の意識啓発	212	31.1%	33.0%	29.4%
11	その他	26	3.8%	5.2%	2.9%
12	特にない	12	1.8%	2.7%	0.5%
	無回答	2	0.3%	0.0%	0.5%
	合計	3,353	491.6%	457.7%	518.5%
		n＝	682	n＝291	n＝384



問12　ワーク・ライフ・バランス実現のために府中市に望むこと[MA]

「高齢者・障害者等を家庭で介護する人の負担を軽減するための情報提供等を行う」が58.8%と最も高く、次いで「男女とも仕事と生活を両立できるようにするため、企業、事業所に対して環境整備を働きかける」が49.3%、「一時預かり等の保育サービスの充実を図る」が44.3%で続いている。
男女別では、男性は「一時預かり等の保育サービスの充実を図る」が45.4%で2番目に高くなっている。また、女性は「高齢者・障害者等を家庭で介護する人の負担を軽減するための情報提供等を行う」が65.4%で男性の51.2%を10ポイント以上上回り、「性や年代別のニーズに応じた健康支援に関する情報提供等を行う」も女性が28.6%、男性が15.1%と10ポイント以上の差が見られる。

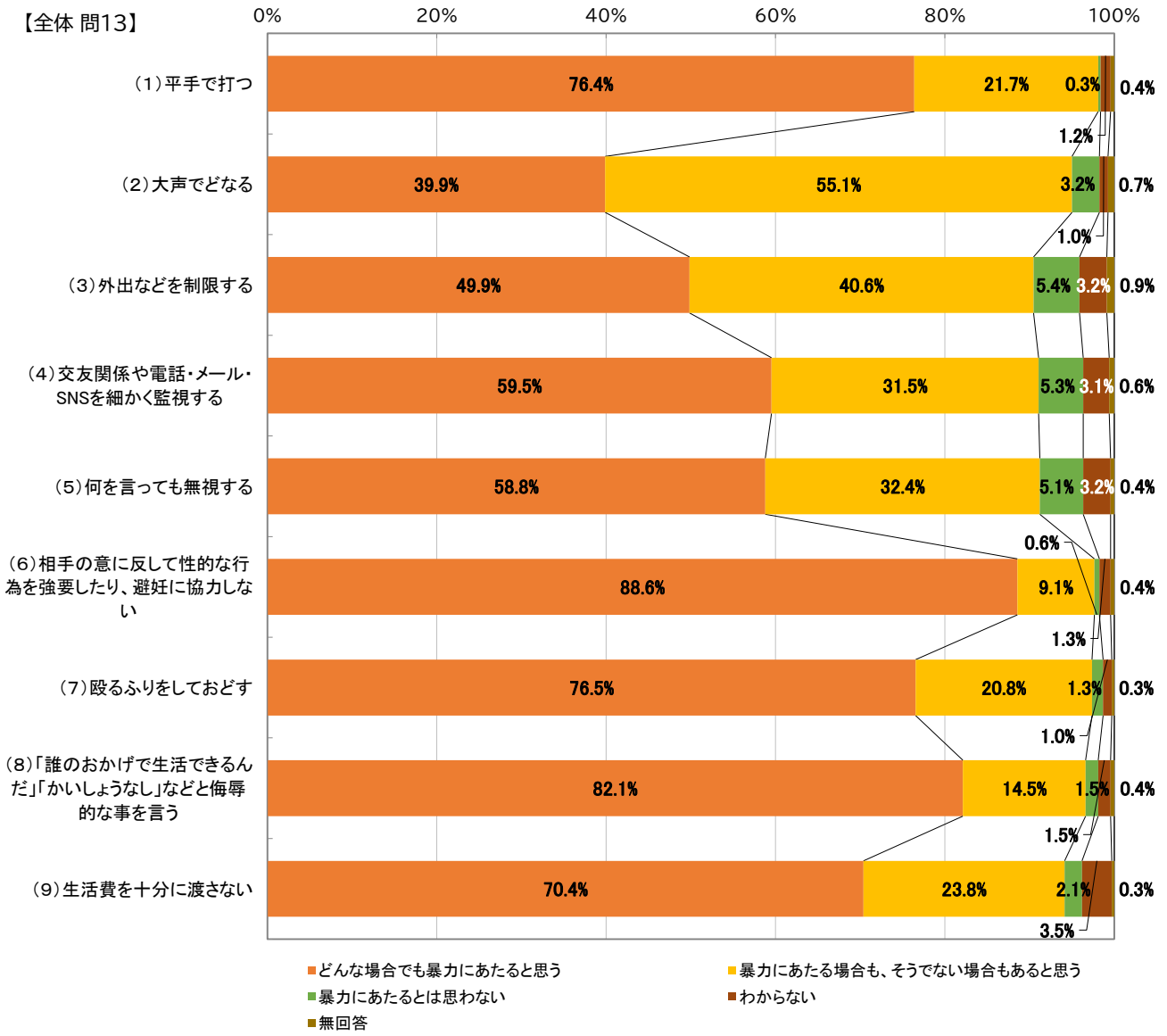
		全体	%	男性	女性
1	高齢者・障害者等を家庭で介護する人の負担を軽減するための情報提供等を行う	401	58.8%	51.2%	65.4%
2	男女とも仕事と生活を両立できるようにするため、企業、事業所に対して環境整備を働きかける	336	49.3%	43.3%	53.9%
3	一時預かり等の保育サービスの充実を図る	302	44.3%	45.4%	43.5%
4	地域全体で子育て支援に取り組めるよう仕組みづくりを進める	297	43.5%	44.0%	43.0%
5	性や年代別のニーズに応じた健康支援に関する情報提供等を行う	154	22.6%	15.1%	28.6%
6	身近な就労環境（コワーキングスペース等）の整備を行う	144	21.1%	24.1%	19.0%
7	ワーク・ライフ・バランスへの意識啓発に関する講座等を実施する	80	11.7%	10.0%	13.0%
8	パンフレットやポスターの配布・掲示等により、事業者・労働者双方への情報提供等を行う	75	11.0%	11.0%	11.2%
9	その他	26	3.8%	4.8%	2.9%
10	特にない	36	5.3%	7.9%	2.9%
	無回答	6	0.9%	0.7%	1.0%
	合計	1,857	272.3%	257.4%	284.4%
		n＝	682	n＝291	n＝384



●人権が尊重される社会の形成について

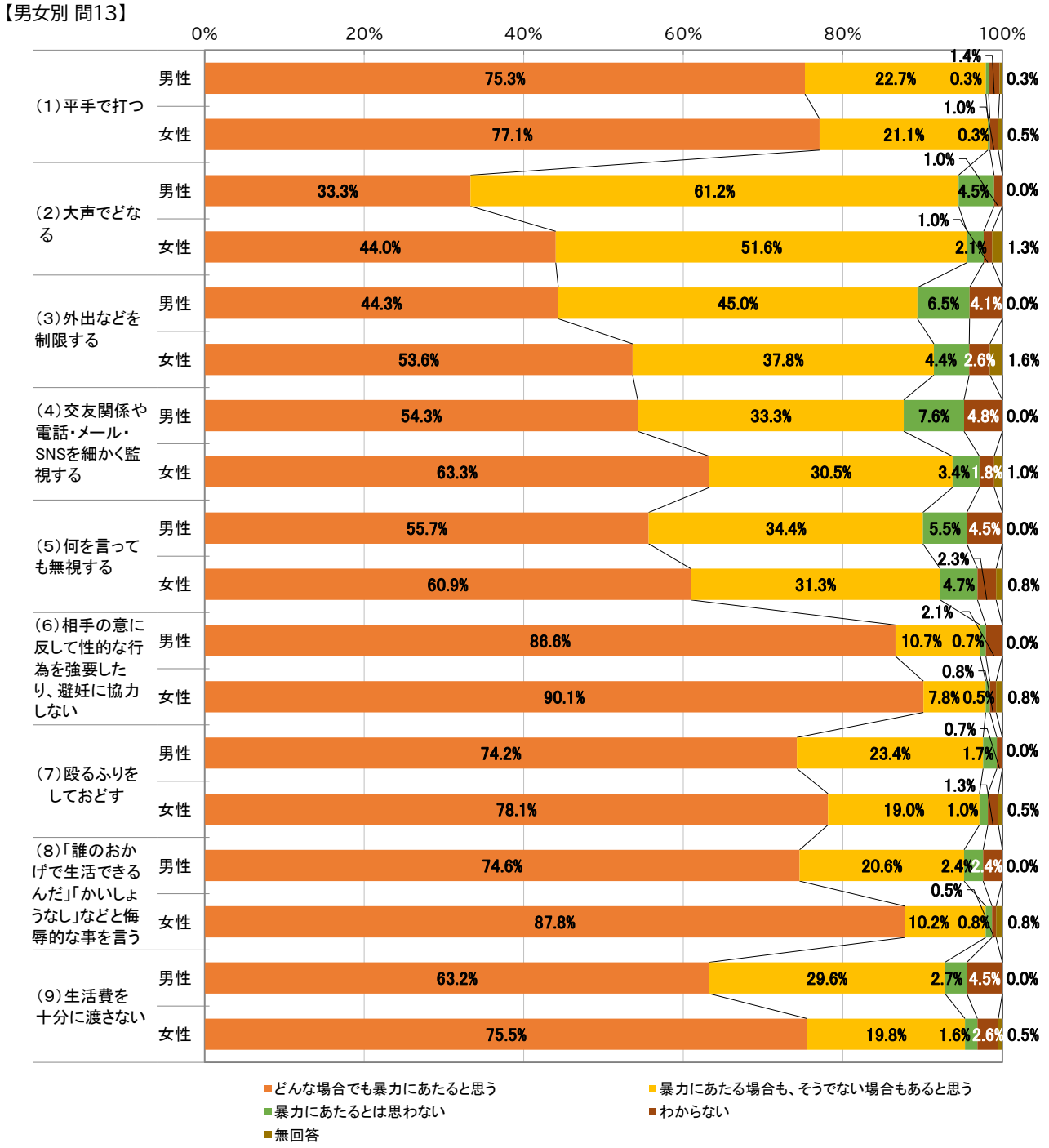
問13 （1）～（9）の各行為は暴力だと思うか[SA]

各行為について、「（6）相手の意に反して性的な行為を強要したり、避妊に協力しない」は「どんな場合でも暴力にあたると思う」が88.6%と最も高く、次いで「（8）『誰のおかげで生活できるんだ』『かいしょうなし』などと侮辱的な事を言う」が82.1%と続いている。
「（2）大声でどなる」は 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が39.9%で割合が低いものの、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が55.1%と高くなっている。
一方、「暴力にあたるとは思わない」の割合が高かったのは、「（3）外出などを制限する（5.4%）」、「（4）交友関係や電話・メール・SNSを細かく監視する（5.3%）」、「（5）何を言っても無視する（5.1%）」となっている。



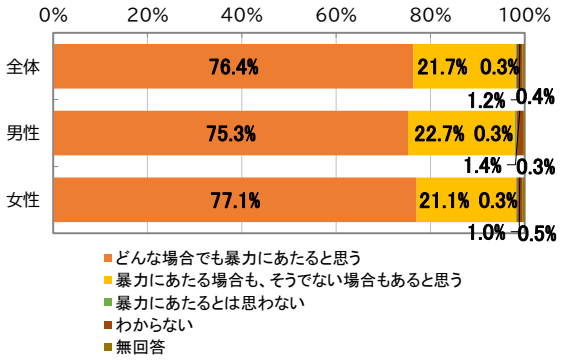
男女別では、「(2)大声でどなる」、「(8)『誰のおかげで生活できるんだ』『かいしょうなし』などと侮辱的な事を言う」で暴力に関する認識の差が明らかとなっている。また、「(4)交友関係や電話・メール・SNSを細かく監視する」については、男性の方が「暴力にあたるとは思わない」(7.6%)と感じている割合が高い。

【男女別 問13】



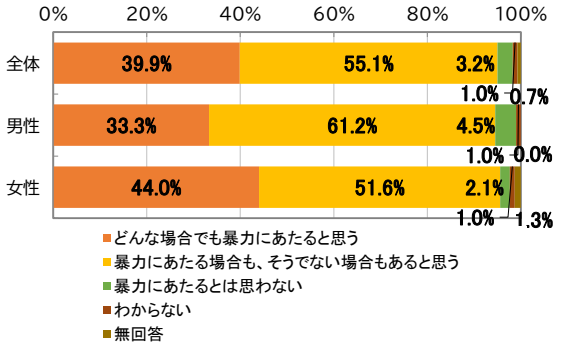
(1)平手で打つ

		全体	%	男性	女性
1	どんな場合でも暴力にあたると思う	521	76.4%	75.3%	77.1%
2	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	148	21.7%	22.7%	21.1%
3	暴力にあたるとは思わない	2	0.3%	0.3%	0.3%
4	わからない	8	1.2%	1.4%	1.0%
	無回答	3	0.4%	0.3%	0.5%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



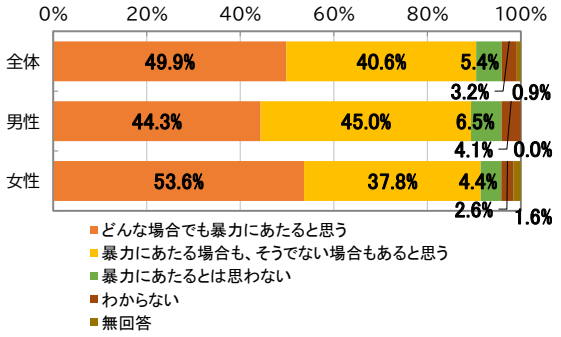
(2)大声でどなる

		全体	%	男性	女性
1	どんな場合でも暴力にあたると思う	272	39.9%	33.3%	44.0%
2	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	376	55.1%	61.2%	51.6%
3	暴力にあたるとは思わない	22	3.2%	4.5%	2.1%
4	わからない	7	1.0%	1.0%	1.0%
	無回答	5	0.7%	0.0%	1.3%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



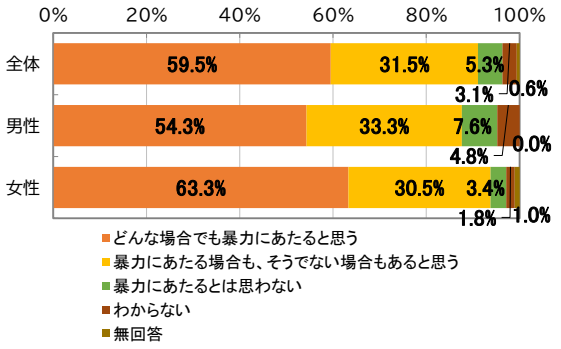
(3)外出などを制限する

		全体	%	男性	女性
1	どんな場合でも暴力にあたると思う	340	49.9%	44.3%	53.6%
2	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	277	40.6%	45.0%	37.8%
3	暴力にあたるとは思わない	37	5.4%	6.5%	4.4%
4	わからない	22	3.2%	4.1%	2.6%
	無回答	6	0.9%	0.0%	1.6%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



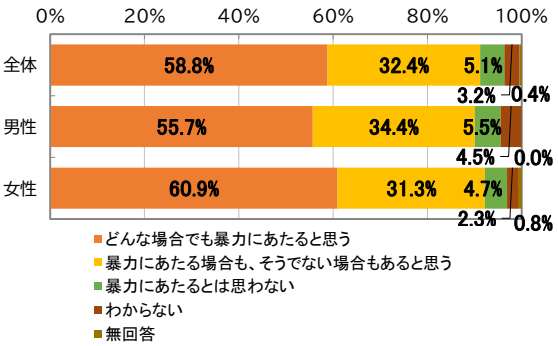
(4)交友関係や電話・メール・SNSを細かく監視する

		全体	%	男性	女性
1	どんな場合でも暴力にあたると思う	406	59.5%	54.3%	63.3%
2	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	215	31.5%	33.3%	30.5%
3	暴力にあたるとは思わない	36	5.3%	7.6%	3.4%
4	わからない	21	3.1%	4.8%	1.8%
	無回答	4	0.6%	0.0%	1.0%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



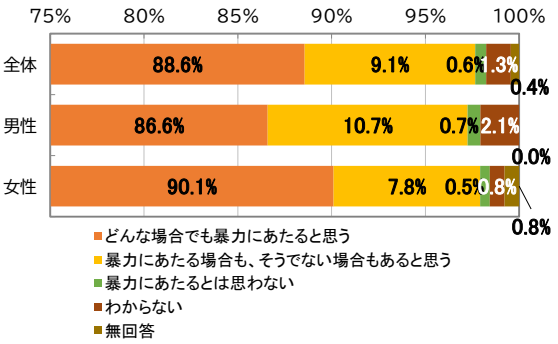
(5)何を言っても無視する

		全体	%	男性	女性
1	どんな場合でも暴力にあたると思う	401	58.8%	55.7%	60.9%
2	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	221	32.4%	34.4%	31.3%
3	暴力にあたるとは思わない	35	5.1%	5.5%	4.7%
4	わからない	22	3.2%	4.5%	2.3%
	無回答	3	0.4%	0.0%	0.8%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



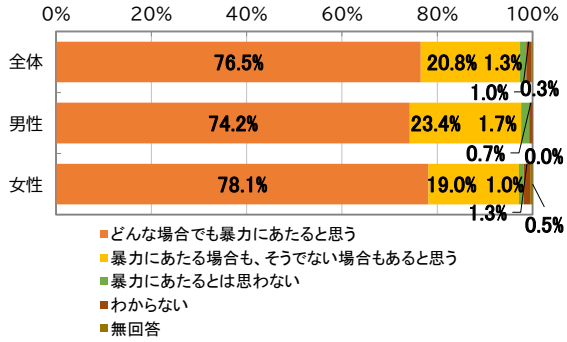
(6)相手の意に反して性的な行為を強要したり、避妊に協力しない

		全体	%	男性	女性
1	どんな場合でも暴力にあたると思う	604	88.6%	86.6%	90.1%
2	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	62	9.1%	10.7%	7.8%
3	暴力にあたるとは思わない	4	0.6%	0.7%	0.5%
4	わからない	9	1.3%	2.1%	0.8%
	無回答	3	0.4%	0.0%	0.8%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



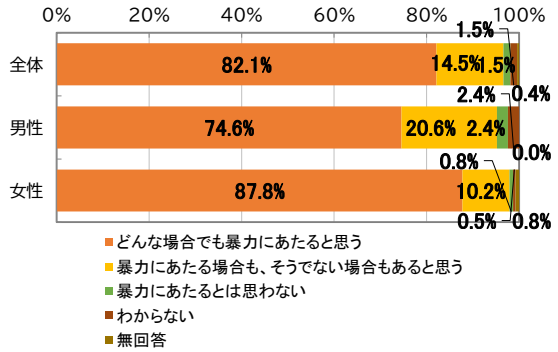
(7)殴るふりをしておどす

		全体	%	男性	女性
1	どんな場合でも暴力にあたると思う	522	76.5%	74.2%	78.1%
2	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	142	20.8%	23.4%	19.0%
3	暴力にあたるとは思わない	9	1.3%	1.7%	1.0%
4	わからない	7	1.0%	0.7%	1.3%
	無回答	2	0.3%	0.0%	0.5%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



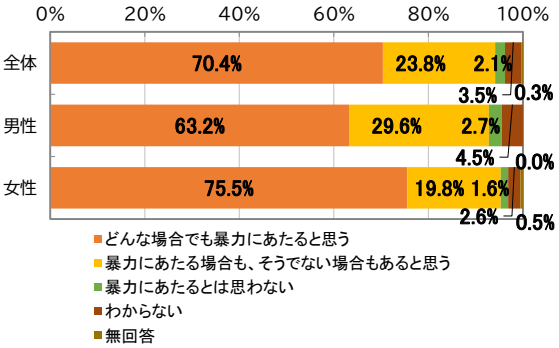
(8)「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと侮辱的な事を言う

		全体	%	男性	女性
1	どんな場合でも暴力にあたると思う	560	82.1%	74.6%	87.8%
2	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	99	14.5%	20.6%	10.2%
3	暴力にあたるとは思わない	10	1.5%	2.4%	0.8%
4	わからない	10	1.5%	2.4%	0.5%
	無回答	3	0.4%	0.0%	0.8%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



(9)生活費を十分に渡さない

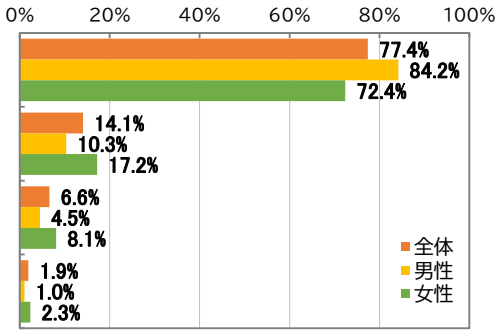
		全体	%	男性	女性
1	どんな場合でも暴力にあたると思う	480	70.4%	63.2%	75.5%
2	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	162	23.8%	29.6%	19.8%
3	暴力にあたるとは思わない	14	2.1%	2.7%	1.6%
4	わからない	24	3.5%	4.5%	2.6%
	無回答	2	0.3%	0.0%	0.5%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n= 682		n=291	n=384



問14 自身がパートナーから暴力を受けたこと、または身近な人がパートナーから暴力を受けていることに気づいたことはあるか[SA]

「まったくない」が77.4%で最も高く、次いで「1・2度あった」が14.1%と続いている。
男女別では、女性は「1・2度あった」(17.2%)と「何度もあった」(8.1%)の本人及び身近な人の暴力の体験割合が男性よりも高くなっている。
また、「1・2度あった」と「何度もあった」割合を合わせると、男性は14.8%、女性は25.3%となっている。

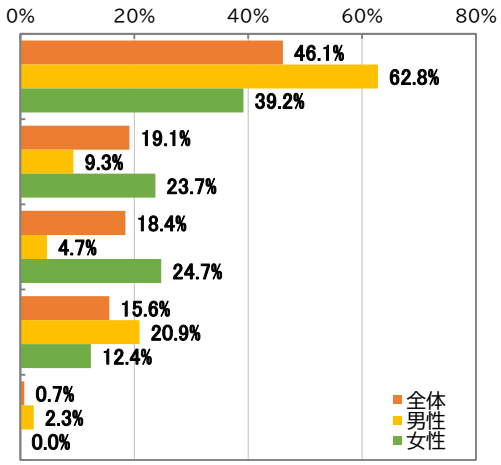
		全体	%	男性	女性
1	まったくない	528	77.4%	84.2%	72.4%
2	1・2度あった	96	14.1%	10.3%	17.2%
3	何度もあった	45	6.6%	4.5%	8.1%
	無回答	13	1.9%	1.0%	2.3%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n= 682		n=291	n=384



問14-1 【限定】問14で「1 何度もあった」または「2 1・2度あった」と回答した方 誰(どこ)かに相談したか[SA]

「相談しようと思わなかった」が46.1%で最も高く、次いで「相談した」が19.1%となっている。
「相談しようと思わなかった」、「相談したかったが、相談しなかった」、「相談したかったが、相談先を知らなかった」を合わせた、相談していない割合は80.1%となっている。
男女別では「相談した」は男性9.3%、女性23.7%と男女差がみられるとともに、「相談しようと思わなかった」も男性が62.8%、女性が39.2%と大きな差がみられる。

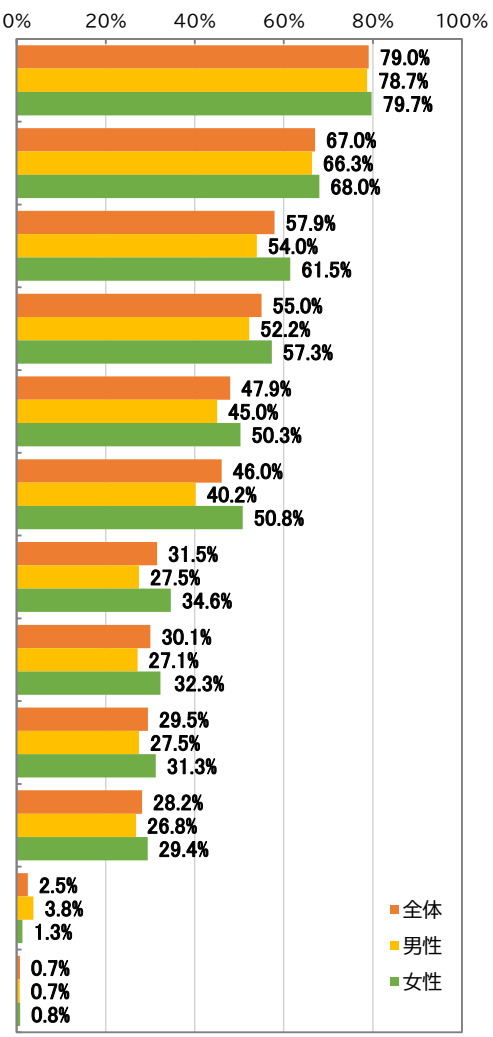
		全体	%	男性	女性
1	相談しようと思わなかった	65	46.1%	62.8%	39.2%
2	相談した	27	19.1%	9.3%	23.7%
3	相談したかったが、相談しなかった	26	18.4%	4.7%	24.7%
4	相談したかったが、相談先を知らなかった	22	15.6%	20.9%	12.4%
	無回答	1	0.7%	2.3%	0.0%
	合計	141	100.0%	100.0%	100.0%
		n= 141		n=43	n=97



問15　DVやデートDVの対策や防止のため、府中市にて必要な施策[MA]

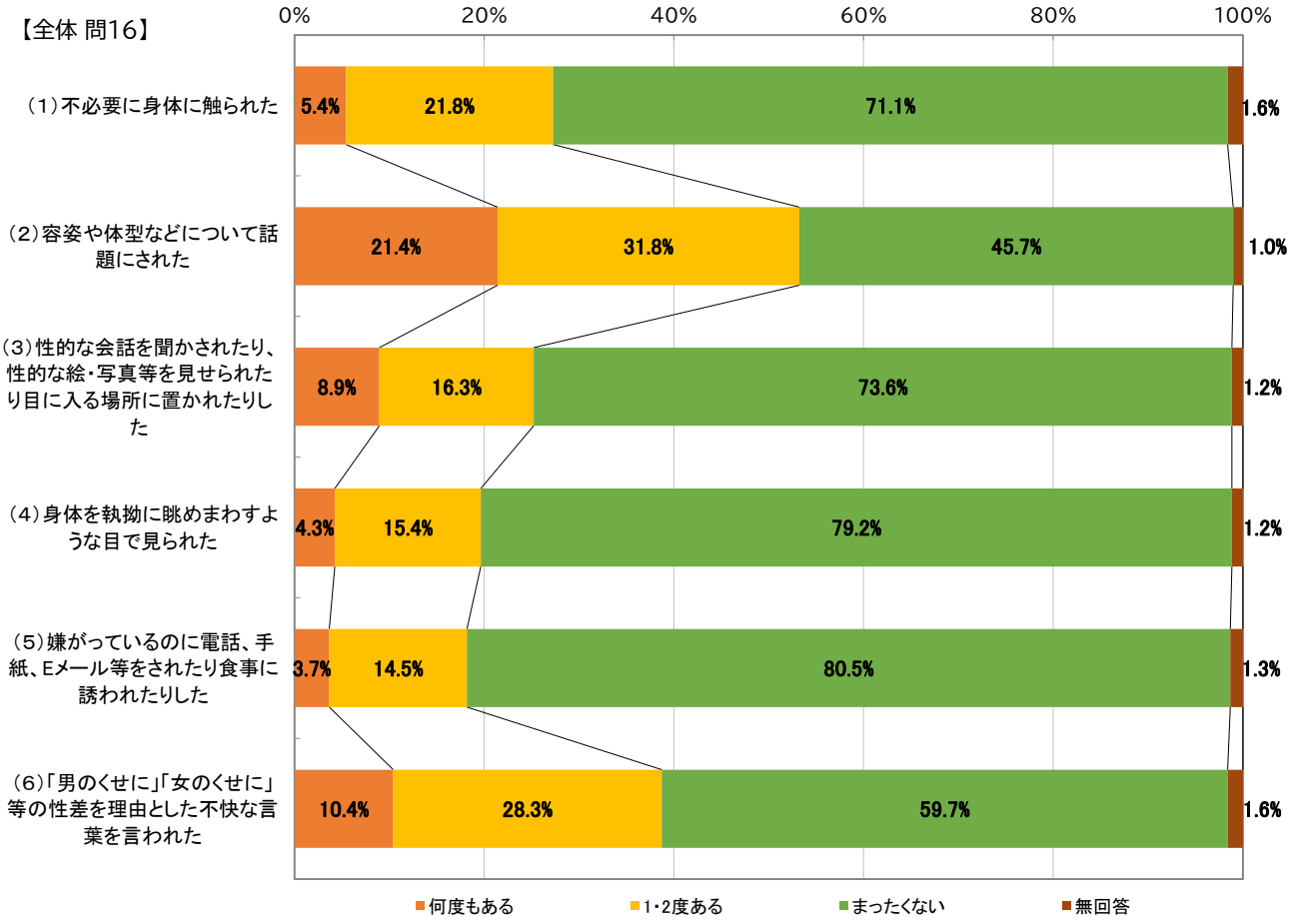
「相談しやすい環境・相談方法を整備する」が79.0%と最も高く、次いで「被害者の安全を守る体制を確立する」が67.0%、「被害者を一時的に保護する施設（シェルター）と連携する」が57.9%、「被害者に対する自立支援（子どもの養育、住宅の確保、就労支援など）を行う」が55.0%と続いている。
男女別では、全体の傾向と大きな差はみられないが、「親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする」は女性は50.8%、男性は40.2%となっており、女性が10ポイント以上上回っている。

		全体	%	男性	女性
1	相談しやすい環境・相談方法を整備する	539	79.0%	78.7%	79.7%
2	被害者の安全を守る体制を確立する	457	67.0%	66.3%	68.0%
3	被害者を一時的に保護する施設（シェルター）と連携する	395	57.9%	54.0%	61.5%
4	被害者に対する自立支援（子どもの養育、住宅の確保、就労支援など）を行う	375	55.0%	52.2%	57.3%
5	学校で人権やDV、デートDVに関する理解が深まるような授業を実施する	327	47.9%	45.0%	50.3%
6	親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする	314	46.0%	40.2%	50.8%
7	加害者にならないための啓発事業を実施する	215	31.5%	27.5%	34.6%
8	被害者支援に携わる人（相談機関職員など）の意識向上を図る	205	30.1%	27.1%	32.3%
9	DVに関する相談や支援策を多言語で市民に広く知らせる	201	29.5%	27.5%	31.3%
10	相談先や相談方法を記載したカードを、公共施設のひとりで手にとり、読みやすいところに配布する	192	28.2%	26.8%	29.4%
11	その他	17	2.5%	3.8%	1.3%
	無回答	5	0.7%	0.7%	0.8%
	合計	3,242	475.4%	449.8%	497.1%
		n＝	682	n＝291	n＝384



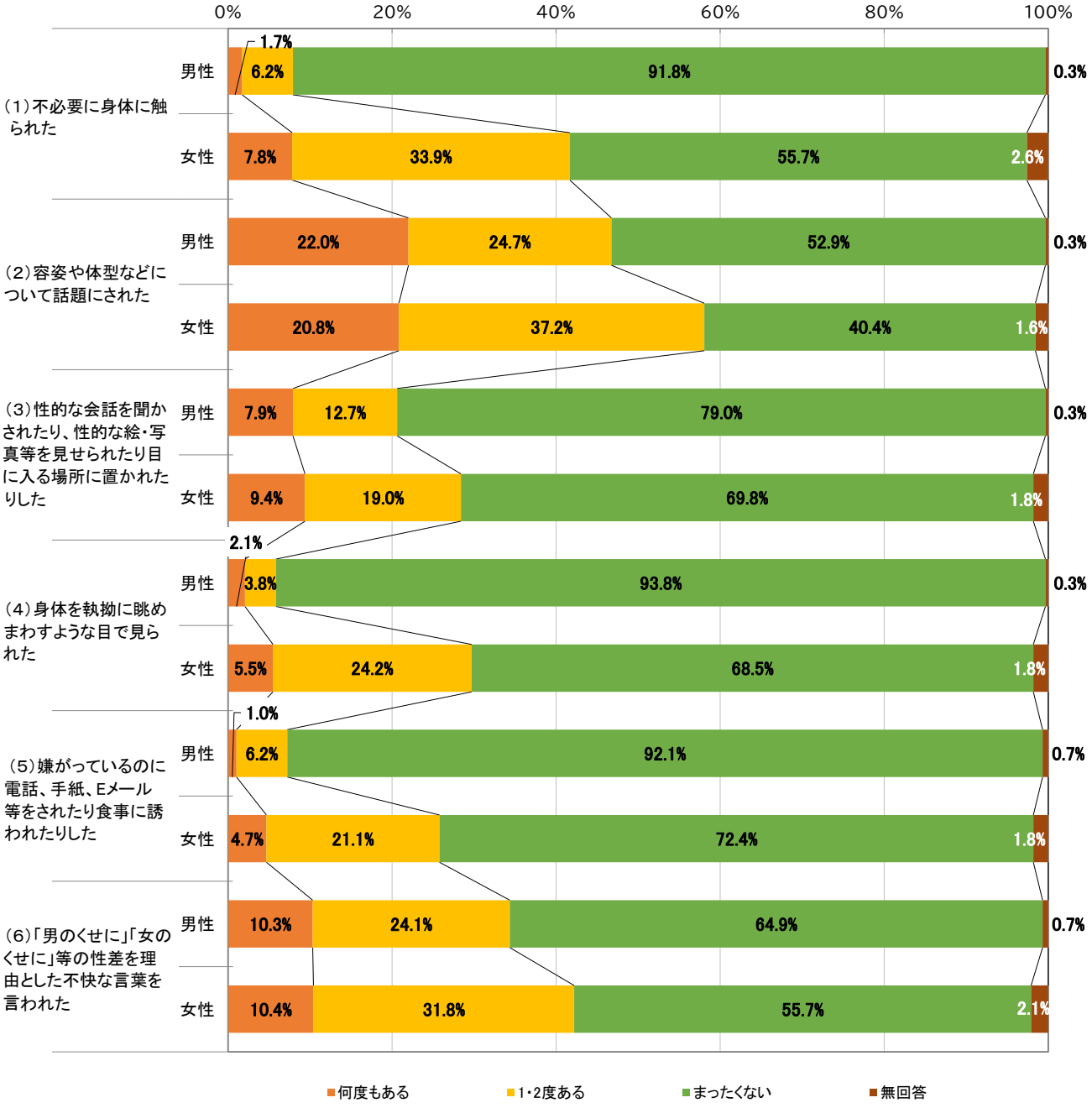
問16 （1）～（6）の行為を日常生活で受けたことがあるか[SA]

各行為について、概ねの項目で「まったくない」の割合が高い。
一方、「（2）容姿や体型などについて話題にされた」では「何度もある」が21.4%、「1・2度ある」が31.8%と他の項目よりも高くなっている。次いで「（6）『男のくせに』『女のくせに』等の性差を理由とした不快な言葉を言われた」も「何度もある」が10.4%、「1・2度ある」が28.3%と高くなっている。



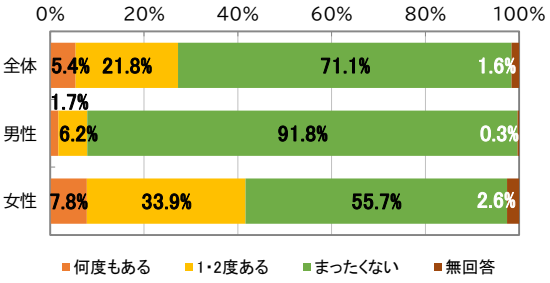
男女別では、「（1）不必要に身体に触られた」、「（4）身体を執拗に眺めまわすような目で見られた」、「（5）嫌がっているのに電話、手紙、Eメール等をされたり食事に誘われたりした」で男性と女性の受けた回数に差が出ている。

【男女別 問16】



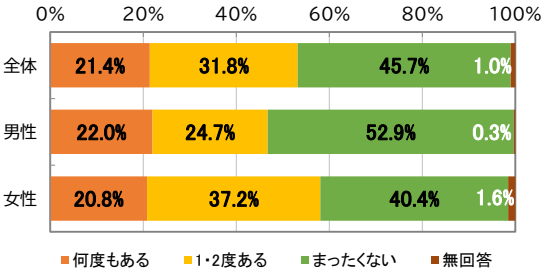
（1）不必要に身体に触られた

		全体	%	男性	女性
1	何度もある	37	5.4%	1.7%	7.8%
2	1・2度ある	149	21.8%	6.2%	33.9%
3	まったくない	485	71.1%	91.8%	55.7%
	無回答	11	1.6%	0.3%	2.6%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



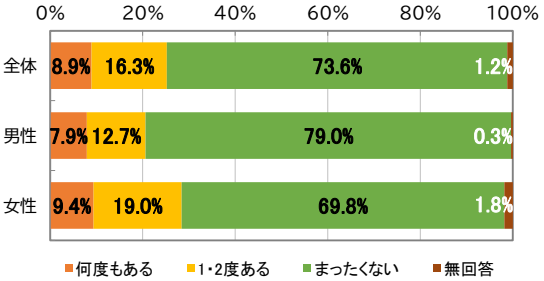
（2）容姿や体型などについて話題にされた

		全体	%	男性	女性
1	何度もある	146	21.4%	22.0%	20.8%
2	1・2度ある	217	31.8%	24.7%	37.2%
3	まったくない	312	45.7%	52.9%	40.4%
	無回答	7	1.0%	0.3%	1.6%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



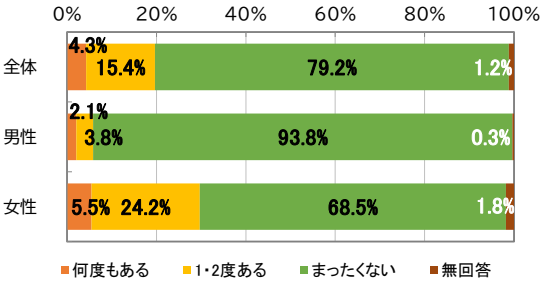
（3）性的な会話を聞かされたり、性的な絵・写真等を見せられたり目に入る場所に置かれたりした

		全体	%	男性	女性
1	何度もある	61	8.9%	7.9%	9.4%
2	1・2度ある	111	16.3%	12.7%	19.0%
3	まったくない	502	73.6%	79.0%	69.8%
	無回答	8	1.2%	0.3%	1.8%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



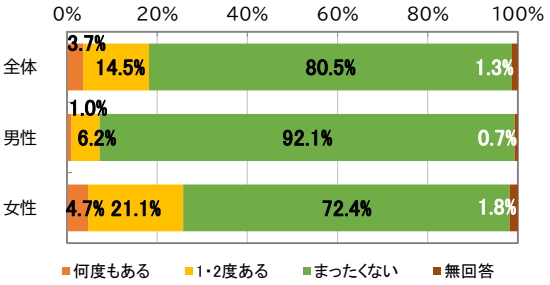
（4）身体を執拗に眺めまわすような目で見られた

		全体	%	男性	女性
1	何度もある	29	4.3%	2.1%	5.5%
2	1・2度ある	105	15.4%	3.8%	24.2%
3	まったくない	540	79.2%	93.8%	68.5%
	無回答	8	1.2%	0.3%	1.8%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



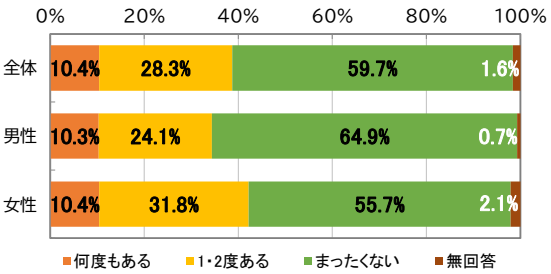
(5)嫌がっているのに電話、手紙、Eメール等をされたり食事に誘われたりした

		全体	%	男性	女性
1	何度もある	25	3.7%	1.0%	4.7%
2	1・2度ある	99	14.5%	6.2%	21.1%
3	まったくない	549	80.5%	92.1%	72.4%
	無回答	9	1.3%	0.7%	1.8%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



(6)「男のくせに」「女のくせに」等の性差を理由とした不快な言葉を言われた

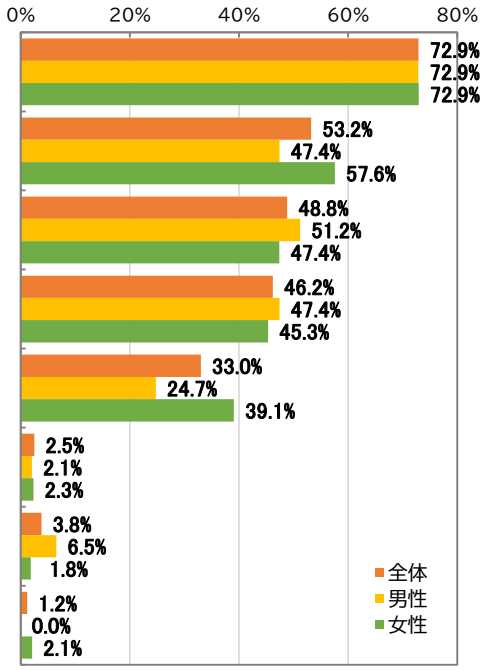
		全体	%	男性	女性
1	何度もある	71	10.4%	10.3%	10.4%
2	1・2度ある	193	28.3%	24.1%	31.8%
3	まったくない	407	59.7%	64.9%	55.7%
	無回答	11	1.6%	0.7%	2.1%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



問17　セクシュアルマイノリティの人権を守るために必要な方策[MA]

「正しい知識の習得と、理解を深めるための教育を学校で行う」が72.9%と最も多く、「セクシュアルマイノリティであっても不当な差別を受けないよう法律や制度を整備する」が53.2%、「相談・支援体制を充実させる」が48.8%で続いている。
男女別では、「セクシュアルマイノリティであっても不当な差別を受けないよう法律や制度を整備する」が女性は57.6%、男性は47.4%で、女性が10ポイント以上上回っている。また、「パートナーシップ宣誓制度の周知や支援の充実」も女性が39.1%、男性が24.7%と10ポイント以上上回っており、これら2項目で差がみえる。

		全体	%	男性	女性
1	正しい知識の習得と、理解を深めるための教育を学校で行う	497	72.9%	72.9%	72.9%
2	セクシュアルマイノリティであっても不当な差別を受けないよう法律や制度を整備する	363	53.2%	47.4%	57.6%
3	相談・支援体制を充実させる	333	48.8%	51.2%	47.4%
4	正しい知識の習得と、理解を深めるための啓発活動を行政が行う	315	46.2%	47.4%	45.3%
5	パートナーシップ宣誓制度の周知や支援の充実	225	33.0%	24.7%	39.1%
6	その他	17	2.5%	2.1%	2.3%
7	特に必要なことはない	26	3.8%	6.5%	1.8%
	無回答	8	1.2%	0.0%	2.1%
	合計	1,784	261.6%	252.2%	268.5%
		n＝ 682		n＝291	n＝384

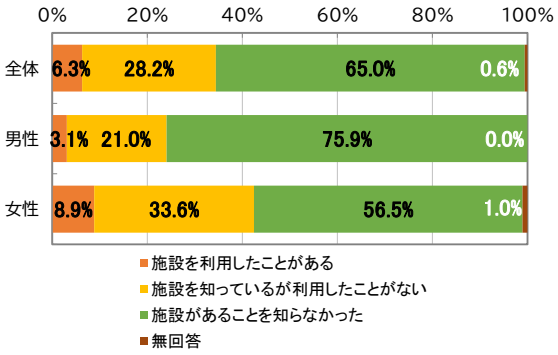


●男女共同参画社会づくりに向けた府中市の施策について

問18 「府中市男女共同参画センター フチュール」を知っているか[SA]

「施設があることを知らなかった」が65.0%で最も高く、次いで「施設を知っているが利用したことがない」が28.2%と続いている。また、「施設を利用したことがある」は6.3%で1割にも満たない。「施設を知っているが利用したことがない」と「施設を利用したことがある」を合わせた施設の認知度は34.5%となっている。
男女別では、女性では「施設を利用したことがある」は8.9%、男性は3.1%と女性の方が利用率は高い。また、「施設があることを知らなかった」は女性が56.5%に対し、男性は75.9%となっており、男性の方が認知度は低い。

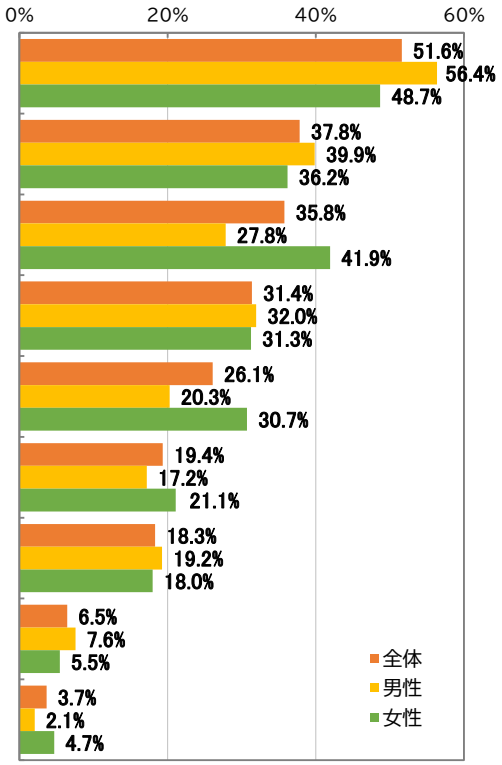
		全体	%	男性	女性
1	施設を利用したことがある	43	6.3%	3.1%	8.9%
2	施設を知っているが利用したことがない	192	28.2%	21.0%	33.6%
3	施設があることを知らなかった	443	65.0%	75.9%	56.5%
	無回答	4	0.6%	0.0%	1.0%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



問19 「府中市男女共同参画センター フチュール」にどのような機能があれば良いか[MA]

機能の要望としては「男女共同参画に関する意識啓発講座や情報提供」が51.6%と最も高く、次いで「男女共同参画センターの事業紹介等に関する情報提供」が37.8%、「女性の就労支援、デジタルスキルアップ等に関する講座や情報提供」が35.8%と続いている。
男女別では、女性は「女性の就労支援、デジタルスキルアップ等に関する講座や情報提供」が41.9%と2番目に高い割合となっており、男性の27.8%を10ポイント以上上回っている。また、「女性の人権に関する意識啓発講座や情報提供」も女性が30.7%、男性が20.3%と10ポイント以上回っており、差がみえる。

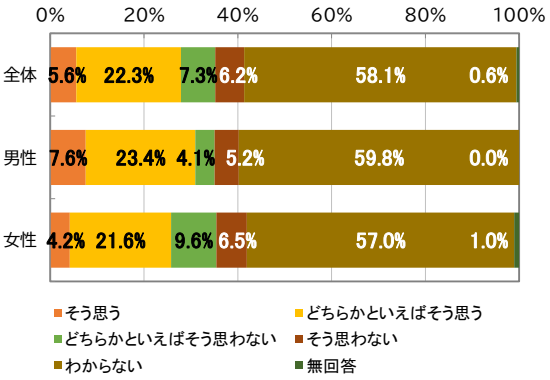
		全体	%	男性	女性
1	男女共同参画に関する意識啓発講座や情報提供	352	51.6%	56.4%	48.7%
2	男女共同参画センターの事業紹介等に関する情報提供	258	37.8%	39.9%	36.2%
3	女性の就労支援、デジタルスキルアップ等に関する講座や情報提供	244	35.8%	27.8%	41.9%
4	多様な働き方を推進するコワーキングスペース等の設備	214	31.4%	32.0%	31.3%
5	女性の人権に関する意識啓発講座や情報提供	178	26.1%	20.3%	30.7%
6	図書・資料の閲覧（貸出）	132	19.4%	17.2%	21.1%
7	男女共同参画センター登録団体等への活動支援	125	18.3%	19.2%	18.0%
8	その他	44	6.5%	7.6%	5.5%
	無回答	25	3.7%	2.1%	4.7%
	合計	1,572	230.5%	222.3%	238.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



問20　府中市は女性が活躍できる都市だと思うか[SA]

「わからない」が58.1%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が22.3%と続いている。
「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、活躍できると思う割合は27.9%となっており、一方「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた活躍できないと思う割合は13.5%となっている。
男女別では、男性の方が「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた活躍できると思う割合が30.9%と高くなっており、女性の25.8%より5ポイント以上上回っている。

		全体	%	男性	女性
1	そう思う	38	5.6%	7.6%	4.2%
2	どちらかといえばそう思う	152	22.3%	23.4%	21.6%
3	どちらかといえばそう思わない	50	7.3%	4.1%	9.6%
4	そう思わない	42	6.2%	5.2%	6.5%
5	わからない	396	58.1%	59.8%	57.0%
	無回答	4	0.6%	0.0%	1.0%
	合計	682	100.0%	100.0%	100.0%
		n＝ 682		n＝291	n＝384



問20-1 【限定】問20で「1　そう思う」、「2　どちらかと言えばそう思う」、「3　どちらかと言えばそう思わない」または「4　そう思わない」と回答した方　そのように回答した理由[FA]

【そう思う】

1. そう思う理由（計28件）

（意見一部抜粋）
・地域に差別が少なく、住みやすい。
・女性が活躍している職場が多く、公共施設が充実している。
・育児支援が手厚いが、改善の余地あり。
・地域活動で女性の参加が多く、性別に関わらずスキルを重視している。
・女性の英知や優しさが必要とされる時代のため。

2. どちらかといえばそう思う理由（計88件）

（意見一部抜粋）
・男女が適材適所で活躍。
・行政の前向きな姿勢、啓発拠点の存在。
・子育てしやすい環境、市役所で女性が生き生きと働いている。
・他県からの引越し経験者が感じる利用しやすい公共施設と治安。
・市政に女性の声が反映されているとの感じ。

【そう思わない】

3. どちらかと言えばそう思わない理由（計40件）

（意見一部抜粋）
・市役所内の女性管理職が少ない。
・女性が活躍している様子が見えにくい。
・保守的な市民意識と情報の不足。
・保育所の入所困難、育児負担。

4. そう思わない理由（計34件）

（意見一部抜粋）
・市役所や地域活動での男性優位。
・女性活躍の具体的な取組が見えない。
・歴史や伝統が男性中心の活動を支持。
・地域の古い慣習と保守的な思考。

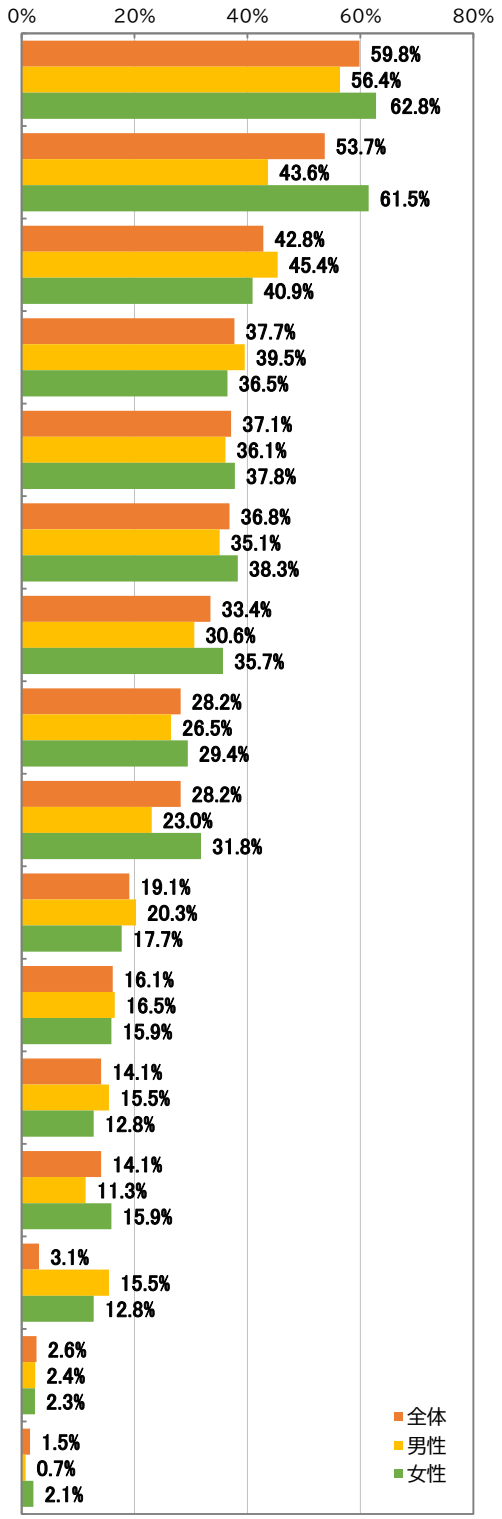
【全体として】

女性が活躍できる環境について女性の活躍を支持し、一部肯定的な意見が見られるが、保守的な市民意識や男性優位の構造、情報不足など、改善が必要な面も指摘されている。
市の施策や公共施設の充実、育児支援などは評価されているものの、女性の管理職や意思決定における役割の拡大が望まれている。

問21　自分らしく豊かに生きることのできる社会を実現させるため、市に力を入れてほしいこと[MA]

「男女ともにライフスタイルやライフステージに応じて柔軟な働き方を選択できる環境を整備する」が59.8%で最も高く、次いで「育児や介護をする人の負担軽減を行う」が53.7%、「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」が42.8%で続いている。
男女別では「育児や介護をする人の負担軽減を行う」では女性は61.5%、男性は43.6%で、女性が17ポイント以上上回っており、差がみられる。

		全体	%	男性	女性
1	男女ともにライフスタイルやライフステージに応じて柔軟な働き方を選択できる環境を整備する	408	59.8%	56.4%	62.8%
2	育児や介護をする人の負担軽減を行う	366	53.7%	43.6%	61.5%
3	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う	292	42.8%	45.4%	40.9%
4	学校で男女平等教育を推進する	257	37.7%	39.5%	36.5%
5	職場における男女平等について周知徹底を行う	253	37.1%	36.1%	37.8%
6	女性を意思決定の場に積極的に登用する	251	36.8%	35.1%	38.3%
7	女性を取り巻く社会的通念や習慣の中の偏見や差別を改める広報活動を充実する	228	33.4%	30.6%	35.7%
8	男女共同参画に関する情報提供や交流の場、相談、教育などを充実する	192	28.2%	26.5%	29.4%
9	女性の就労機会を増やすことや、職業教育・訓練を充実する	192	28.2%	23.0%	31.8%
10	各国の男女共同参画に関する取組について、先進事例を紹介する	130	19.1%	20.3%	17.7%
11	各種団体の女性のリーダーを養成する	110	16.1%	16.5%	15.9%
12	市内在住の外国人の男女共同参画に関する取組について、情報発信等を充実する	96	14.1%	15.5%	12.8%
13	セクシュアルマイノリティへの意識啓発に関する講座やセミナー等を実施する	96	14.1%	11.3%	15.9%
14	その他	21	3.1%	15.5%	12.8%
15	特にない	18	2.6%	2.4%	2.3%
	無回答	10	1.5%	0.7%	2.1%
	合計	2,920	428.2%	418.2%	453.9%
		n＝	682	n＝291	n＝384

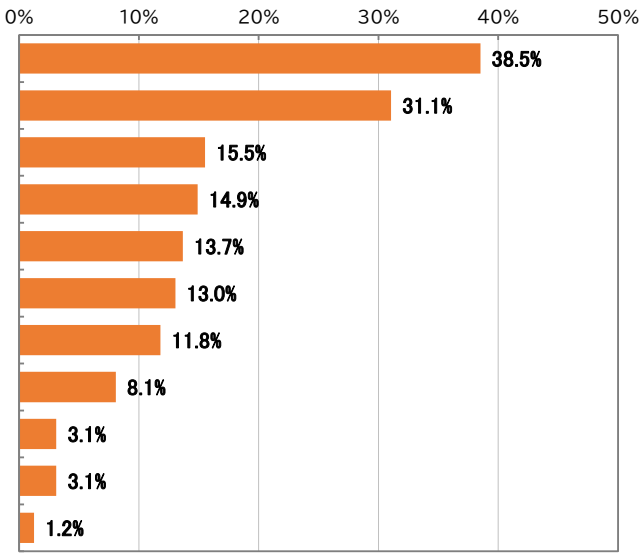


問22　自由意見[FA]

自由意見については、内容を以下の10項目及びその他に分類し、集計した。
意見によっては複数の項目に及ぶものもあるため、それぞれの件数に入れている。（再掲）

		全体	%
1	男女平等意識と社会認識	62	38.5%
2	政策や行政の取組	50	31.1%
3	子育て・介護と仕事の両立や働き方	25	15.5%
4	社会進出・キャリア形成	24	14.9%
5	情報発信や啓発	22	13.7%
6	世代間の違いや長期的視点	21	13.0%
7	家庭・教育の役割	19	11.8%
8	男性の役割・意識改革	13	8.1%
9	ジェンダー多様性とマイノリティ	5	3.1%
10	アンケートについて	5	3.1%
11	その他	2	1.2%
	合計	248	154.0%

n＝　161



【全体として】

男女共同参画、男女平等に対する意識の多様な意見が見られた。以下は主な意見を抜粋する。
・昔からの男女の役割意識も残っている一方で、社会進出する女性の増加と、それに伴う役割変化に対する肯定的な意見もみられた。
・男女共同参画社会のためには、特に行政の取組や啓発、教育などによる意識改革の必要性、若い世代への教育が重要であるとの認識が共通の意見として多くみられた。
・長期的な視点を持ち、世代間の意識差を埋める努力も必要との意見もあった。
・行政の取組として、子育て・仕事の両立支援等による環境づくりが重要との意見も多くみられた。

本　編

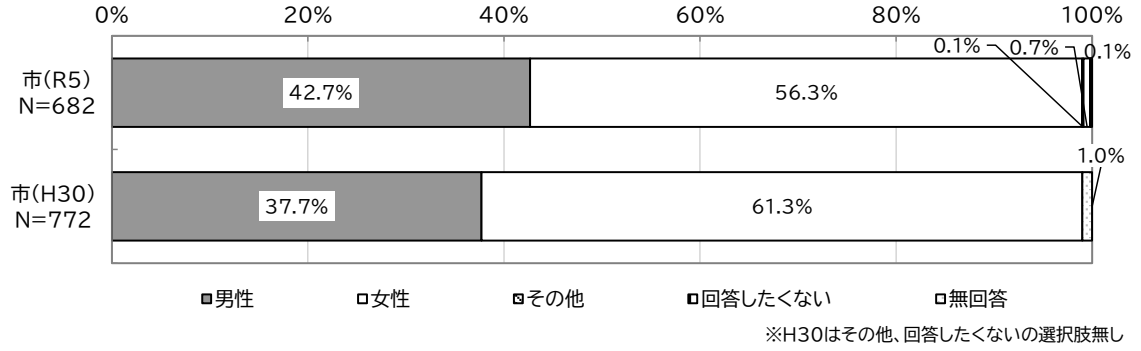
Ⅲ　経年等比較結果

調査別･経年別･年代別等の比較

● あなたご自身について

F1 性別について[SA]

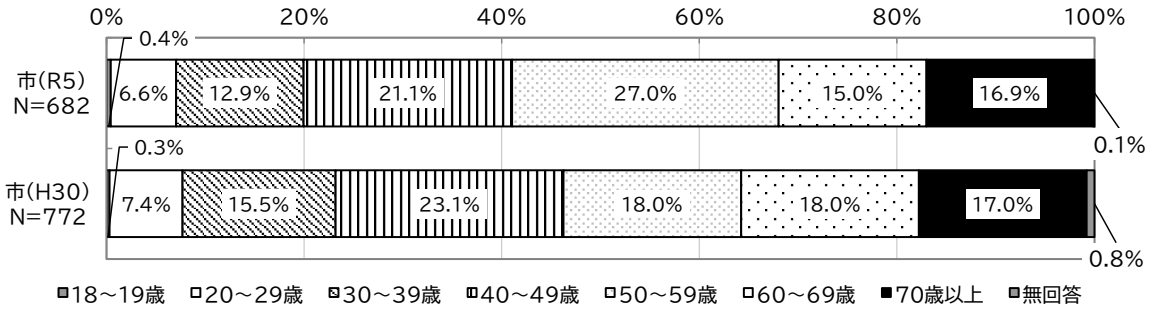
・市（R5）では男性の回答者が増加し、よりバランスが取れた比率となった。



※H30はその他、回答したくないの選択肢無し

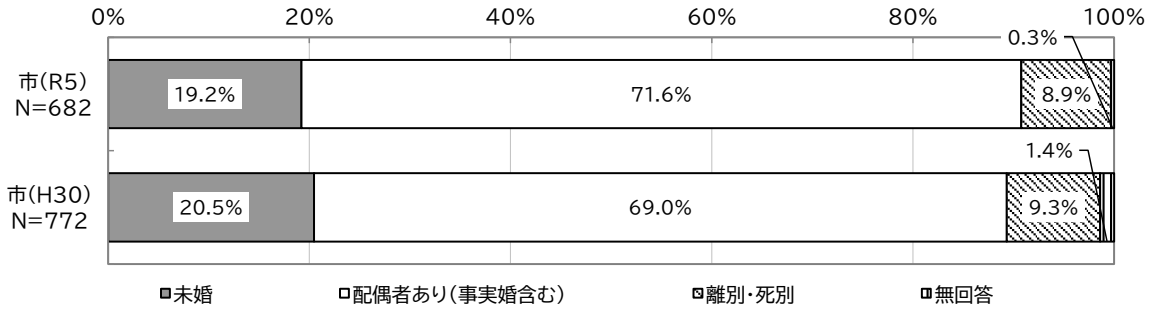
F2 年齢について[SA]

・特徴的な経年変化はみられないが、20～29歳がやや減り、50～59歳が増加した。



F4 婚姻の有無について[SA]

・婚姻状況について特徴的な経年変化はみられない。

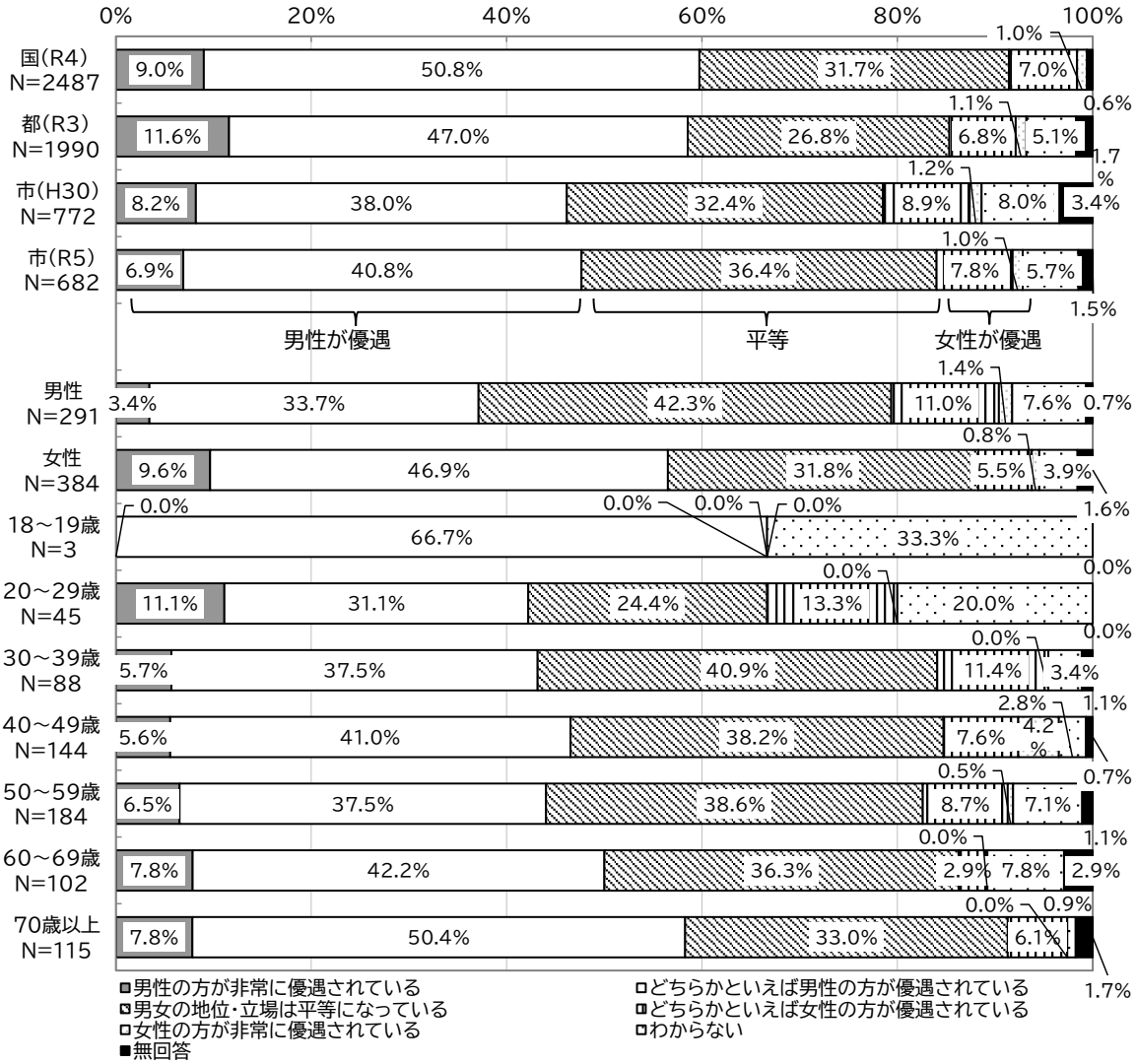


● 男女平等や家庭生活などに関する意識について

問1 ①～⑦の分野において男女の地位・立場は平等になっていると思うか[SA]

・国(R4)と都(R3)に比べて市(R5)では平等と考えている割合が高い。
・市(H30)と比べて平等の割合はやや増加した。
・男性は女性に比べて、平等と考えている割合が高い。
・18歳～19歳では平等と感じておらず、それ以降は年代が上がるにつれ、「男性が優遇」と考える割合が高い。

①家庭生活の場で



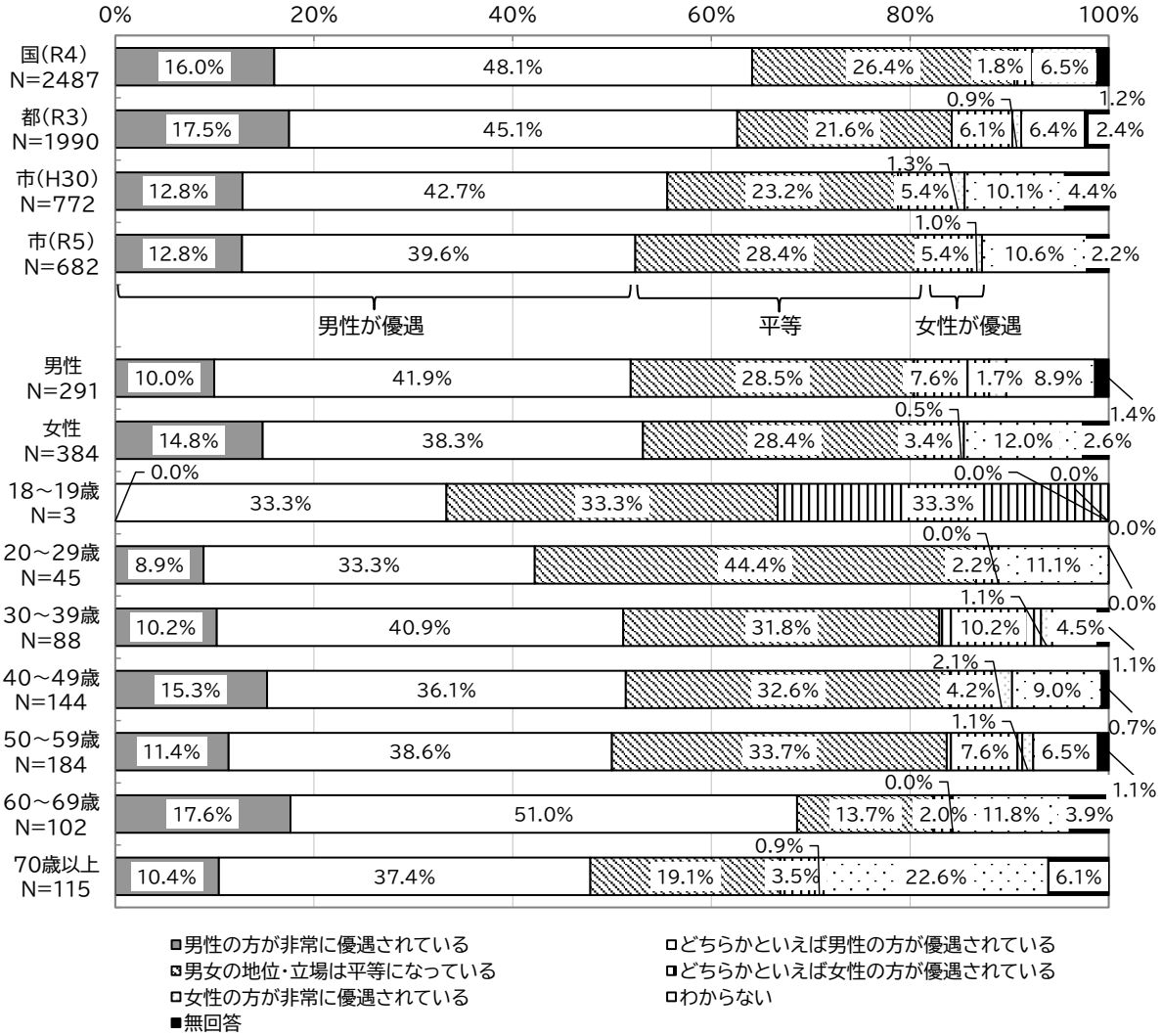
※国(R4)では「わからない」の選択肢無し
※18歳～19歳については母数が少数のため特定の意向が強く出るおそれがある事に以後留意

● あらゆる分野における男女共同参画について

問1 ①～⑦の分野において男女の地位・立場は平等になっていると思うか[SA]

・国(R4)と都(R3)に比べて市(R5)では平等と考えている割合がやや高い。
・市(H30)と比べて平等の割合はやや増加した。
・男性と女性で大きな差はみられない。
・60～69歳、70歳以上では平等と考えている割合が他の年代に比べて低い。

②職場で

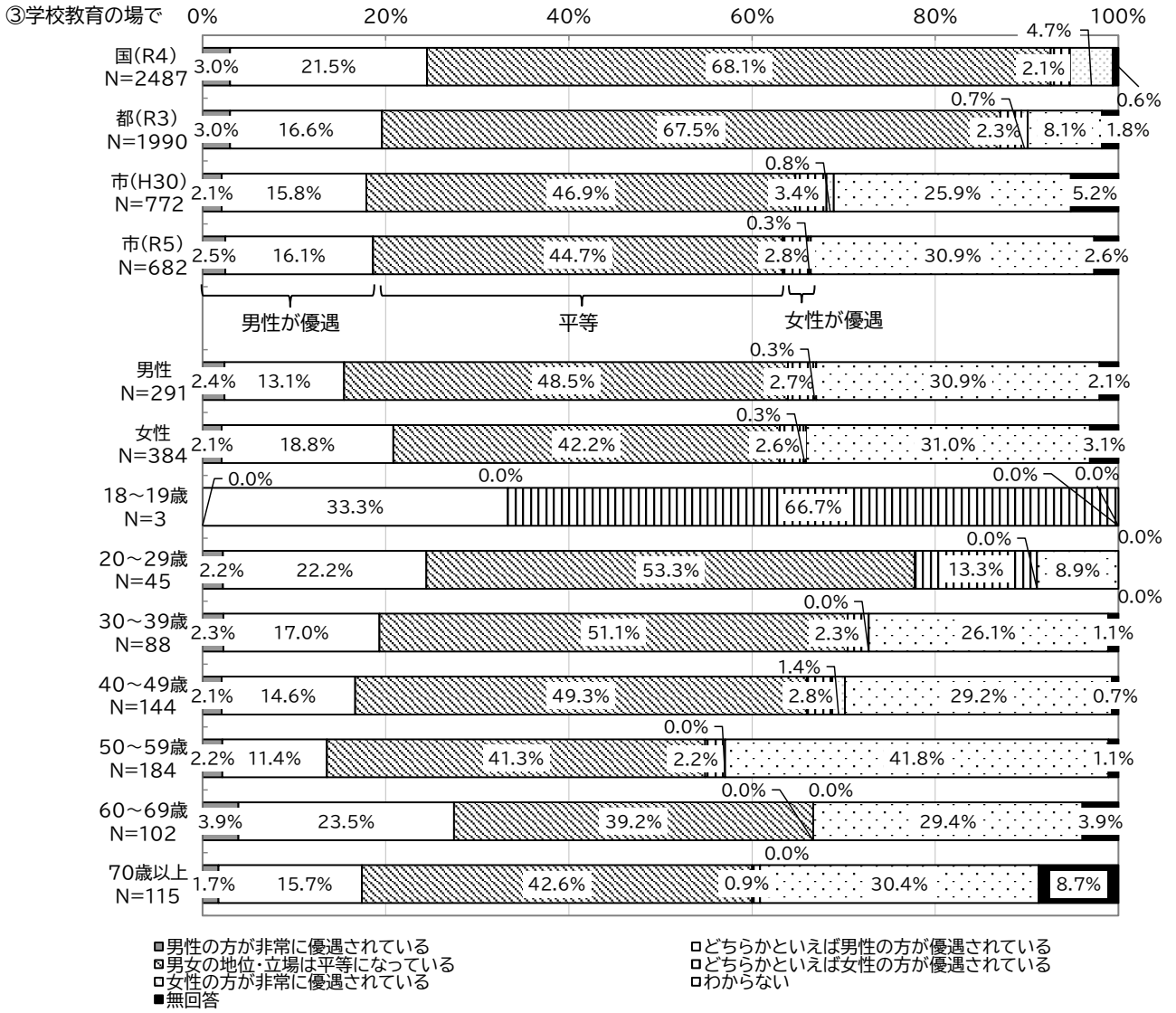


※国(R4)では「わからない」の選択肢無し

● あらゆる分野における男女共同参画について

問1 ①～⑦の分野において男女の地位・立場は平等になっていると思うか[SA]

・全体的に平等の割合が高いが、国（R4）と都（R3）に比べて市（R5）では平等と考えている割合が低い。
・市（H30）と比べて平等の割合はやや減少した。
・男性は女性に比べて、平等と考えている割合が高い。
・18歳～19歳では平等と感じておらず「女性が優遇」と感じている。20～29歳、30～39歳では平等と考えている割合が半数以上で高い。



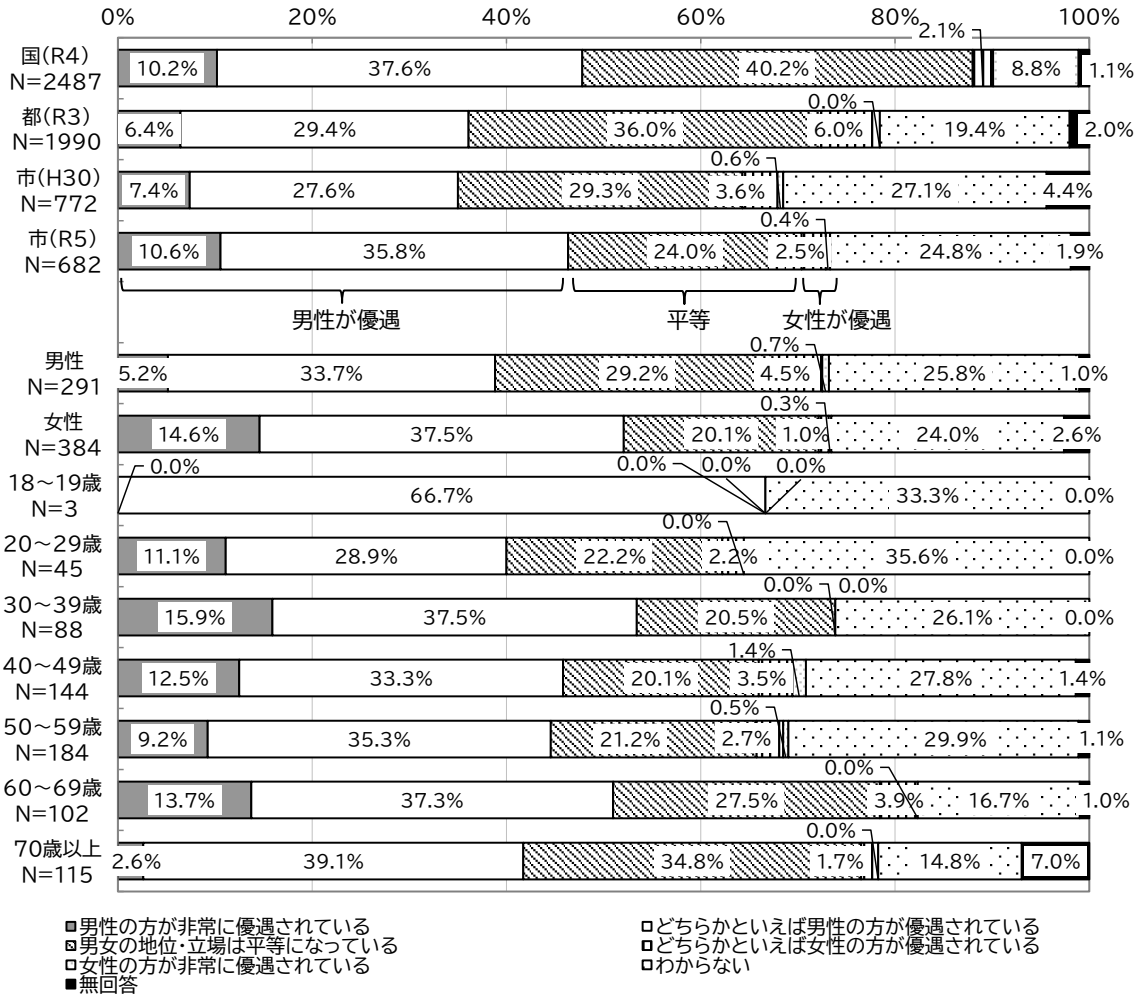
※国（R4）では「わからない」の選択肢無し

● あらゆる分野における男女共同参画について

問1 ①～⑦の分野において男女の地位・立場は平等になっていると思うか[SA]

・国（R4）と都（R3）に比べて市（R5）では平等と考えている割合が非常に低い。
・市（H30）と比べて平等の割合は減少し、「男性が優遇」と考えている割合が増加した。
・男性は女性に比べて、平等と考えている割合が高い。
・60歳～69歳、70歳以上は平等と考えている割合が他の年代に比べて高い。

④地域社会の場で



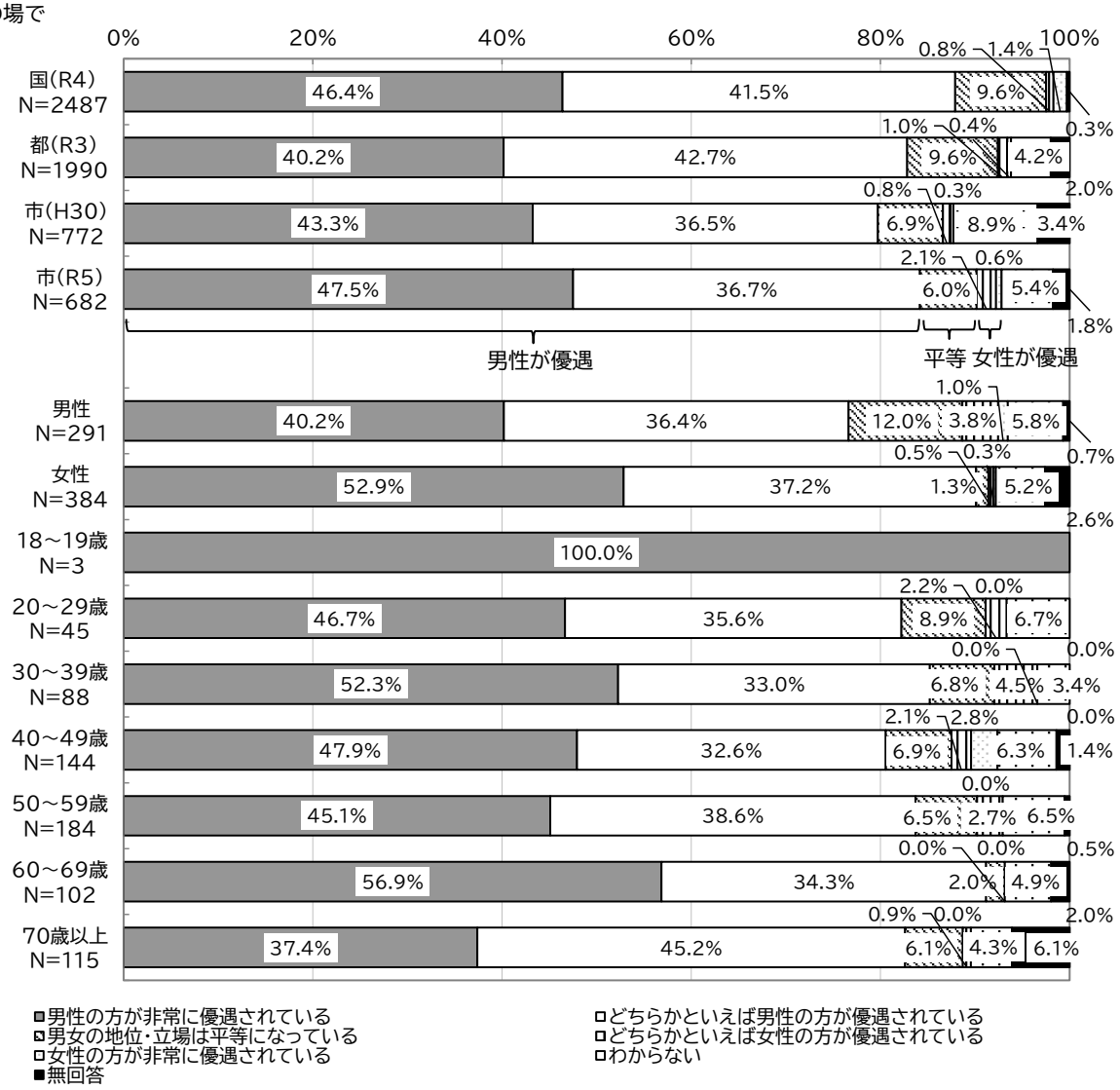
※国（R4）では「わからない」の選択肢無し、「自治会やPTAなどの地域活動の場」として聴取
※都（R3）では「自治会やNPOなどの地域活動の場」として聴取

● あらゆる分野における男女共同参画について

問1 ①～⑦の分野において男女の地位・立場は平等になっていると思うか[SA]

・国（R4）、都(R3)、市の結果（男女別・年代別含む）を見ても、「男性が優遇」が非常に高い。
・市（H30）と比べて「男性が優遇」が増加し、平等が減少している。
・男性は女性に比べて、平等と考えている割合が高く、女性は「男性が優遇」と考えている割合が高い。
・60～69歳で「男性が優遇」と考えている割合が9割を超え、他の年代に比べて高い。

⑤政治の場で



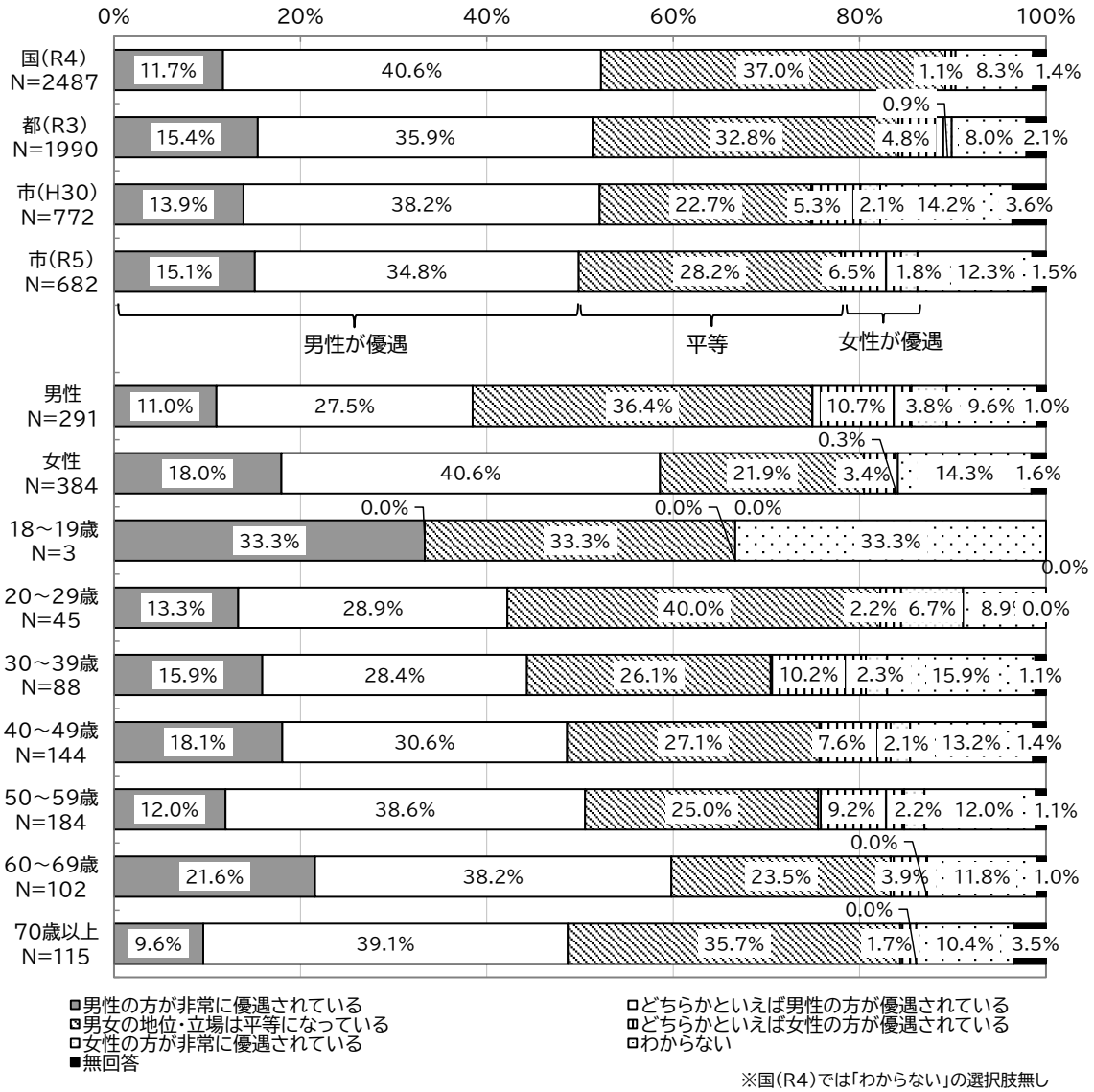
※国（R4）では「わからない」の選択肢無し

● あらゆる分野における男女共同参画について

問1 ①～⑦の分野において男女の地位・立場は平等になっていると思うか[SA]

・国（R4）と比べて市（R5）では平等と考えている割合が低い。
・市（H30）と比べて平等と考えている割合が増加した。
・男性は女性に比べて、平等と考えている割合が高く、女性は「男性が優遇」と考えている割合が高い。
・20～29歳で平等と考えている割合が他の年代に比べて高い。また、20歳～29歳以降、年代があがるにつれて「男性が優遇」と考える割合が高くなっている。

⑥法律や制度の上で



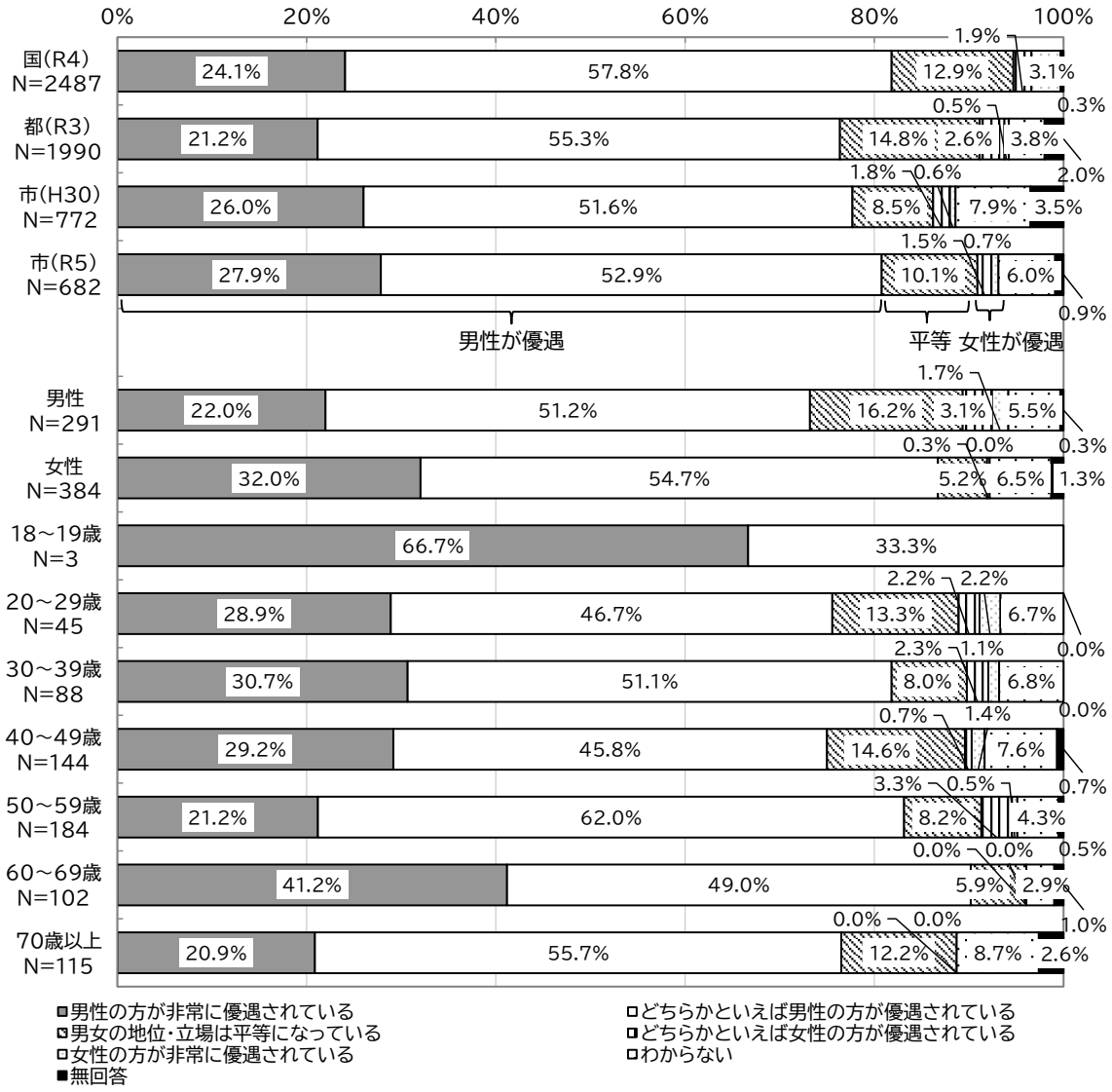
※国（R4）では「わからない」の選択肢無し

● あらゆる分野における男女共同参画について

問1 ①～⑦の分野において男女の地位・立場は平等になっていると思うか[SA]

・国（R4）や都（R3）と比べて市（R5）は平等と考えている割合が低い。
・市（H30）と比べて平等と考えている割合がやや増加した。
・男性も女性も「男性が優遇」と考えている割合が高く、特に女性は8割以上を占める。
・60歳～69歳では「非常に男性が優遇」と考えている割合が高く、「男性が優遇」で9割を占める。

⑦社会通念・習慣・しきたりなどで

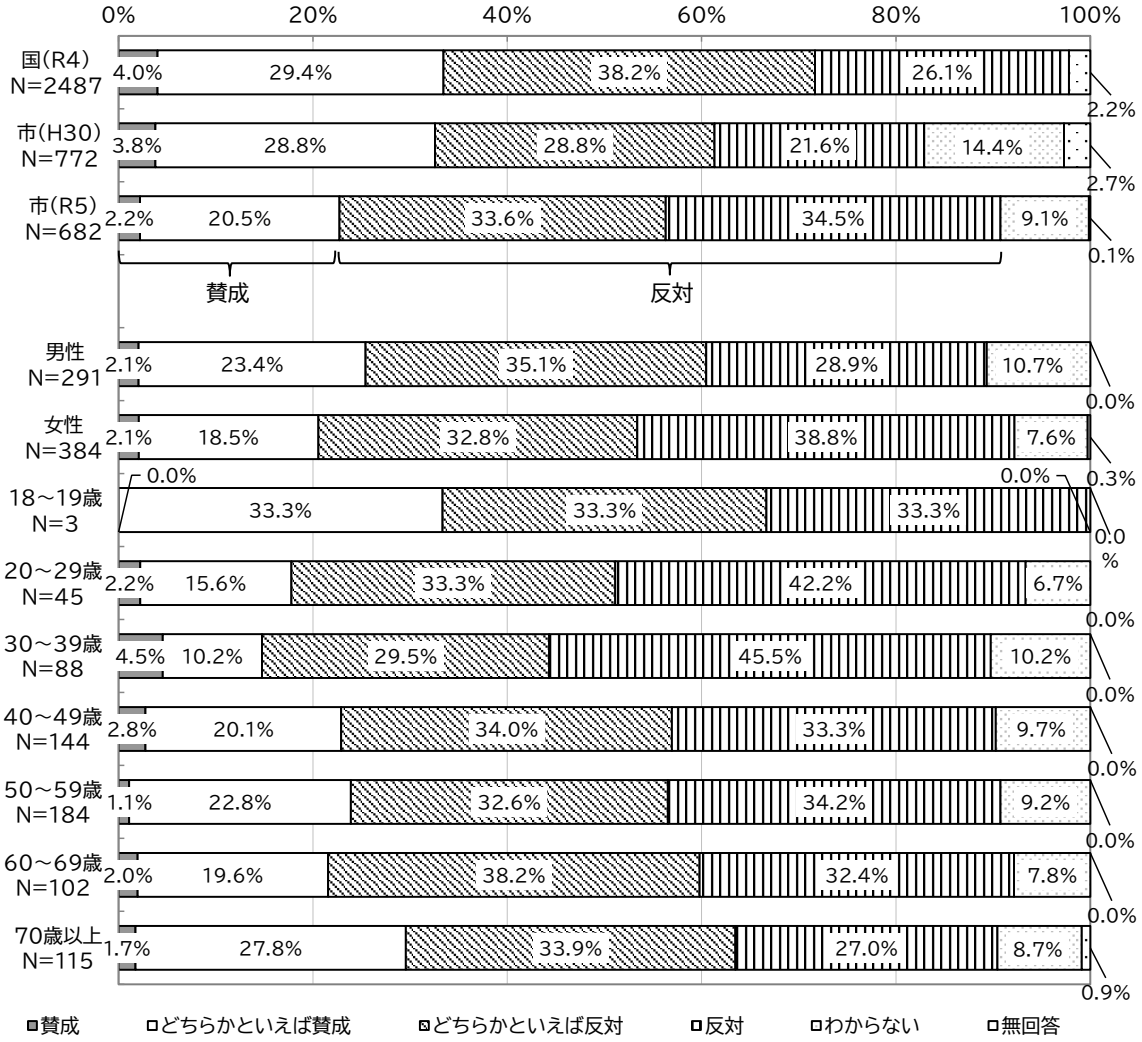


※国（R4）では「わからない」の選択肢無し

● あらゆる分野における男女共同参画について

問2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について[SA]

・国（R4）に比べて市（R5）では「反対」と考えている割合が高い。
・市（H30）と比べて考え方に「反対」の割合が増加した。
・男性は女性に比べて「賛成」と考えている割合が高い。
・30～39歳で「賛成」と考えている割合が最も低く、以降の年代で増減はあるものの「賛成」の割合が増加傾向となっている。



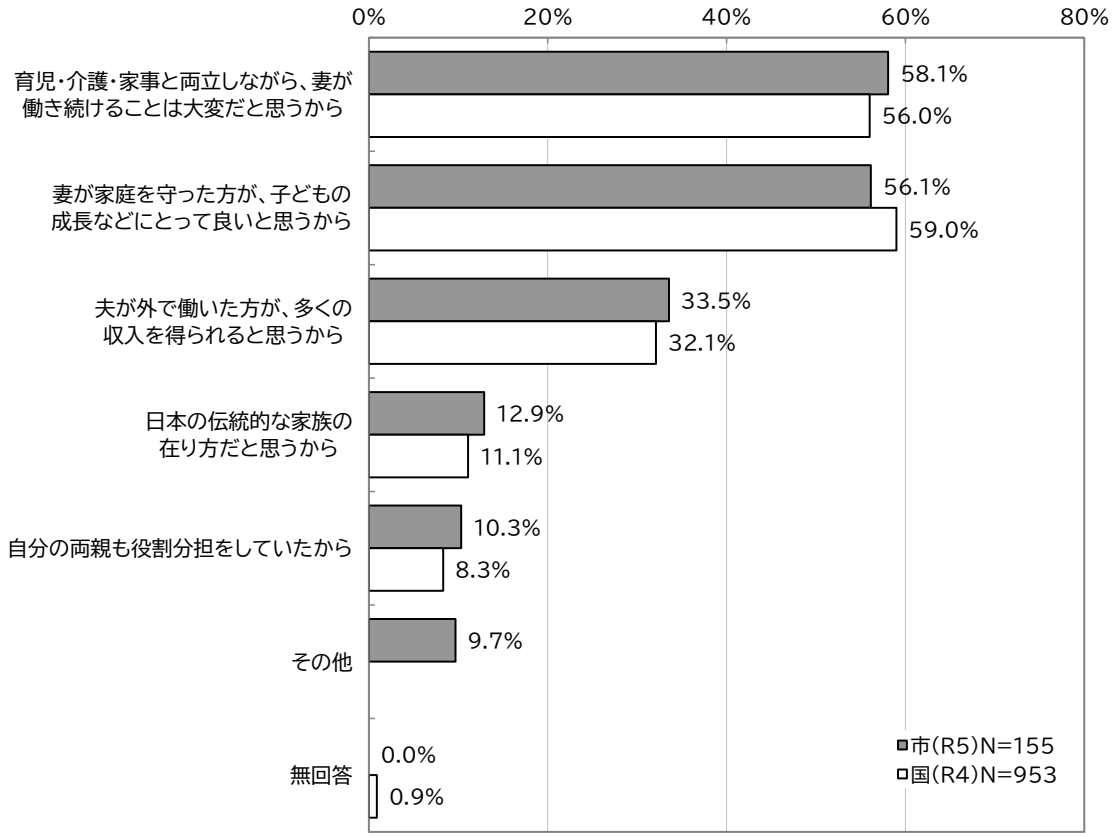
※都（R3）では非聴取
※国（R5）では「わからない」の選択肢無し

● あらゆる分野における男女共同参画について

問2-1【限定】問2で賛成の理由[MA]

・賛成の理由として、国(R4)では「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が最も高く、市(R5)では「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が最も高い。その他に市(R5)と国(R4)で大きな差はみられない。

賛成の理由



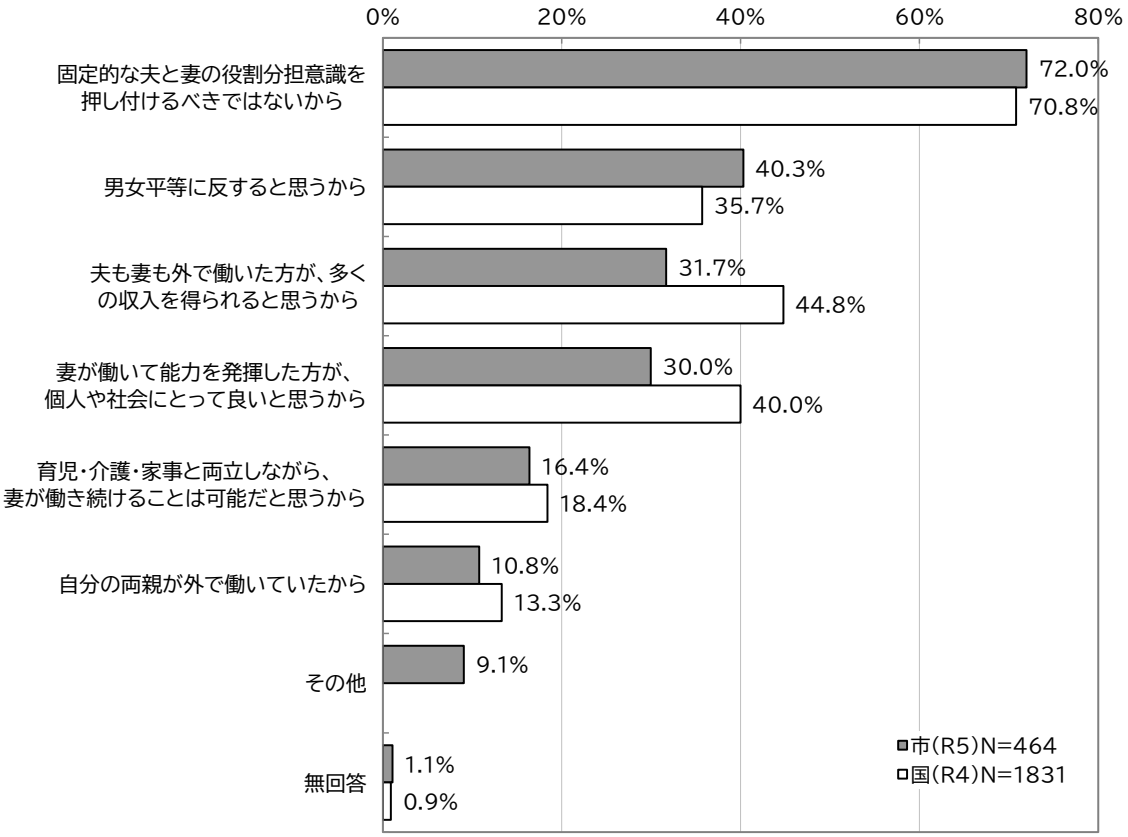
※国(R4)はその他なし
※都(R3)では非聴取
※市(R5)新規設問

● あらゆる分野における男女共同参画について

問2-2【限定】問2で反対の理由[MA]

・反対の理由として、国（R4）と市（R5）どちらも「固定的な夫と妻の役割分担意識を押し付けるべきではないから」が最も高いが、市（R5）では「男女平等に反すると思うから」と続いている。一方、国(R4）では「夫も妻も外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」、「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」と続いており、「男女平等に反する」は4番目に高くなっている。

反対の理由

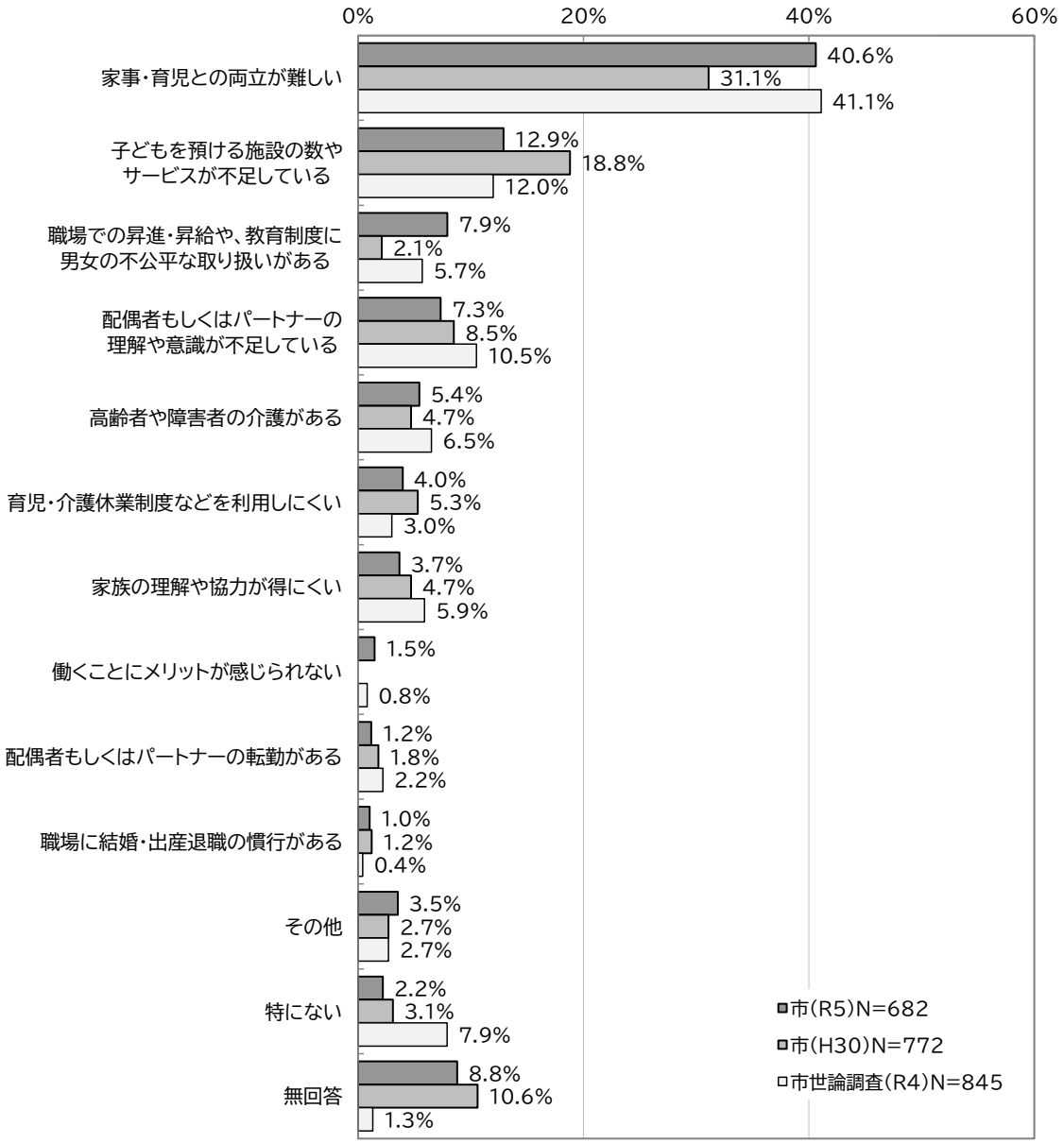


※国（R4）はその他なし
※都（R3）では非聴取
※市（R5）新規設問

● あらゆる分野における男女共同参画について

問3　女性が長く働くうえで、支障をきたしているとあなたが思うもの[SA]

・市（H30）と市世論調査（R4）と比べて、「職場での昇進・昇給や、教育制度に男女の不公平な取り扱いがある」と考える割合が高い。また、「家事・育児との両立が難しい」が市(H30)よりも高くなっている。その他に大きな差はみられない。

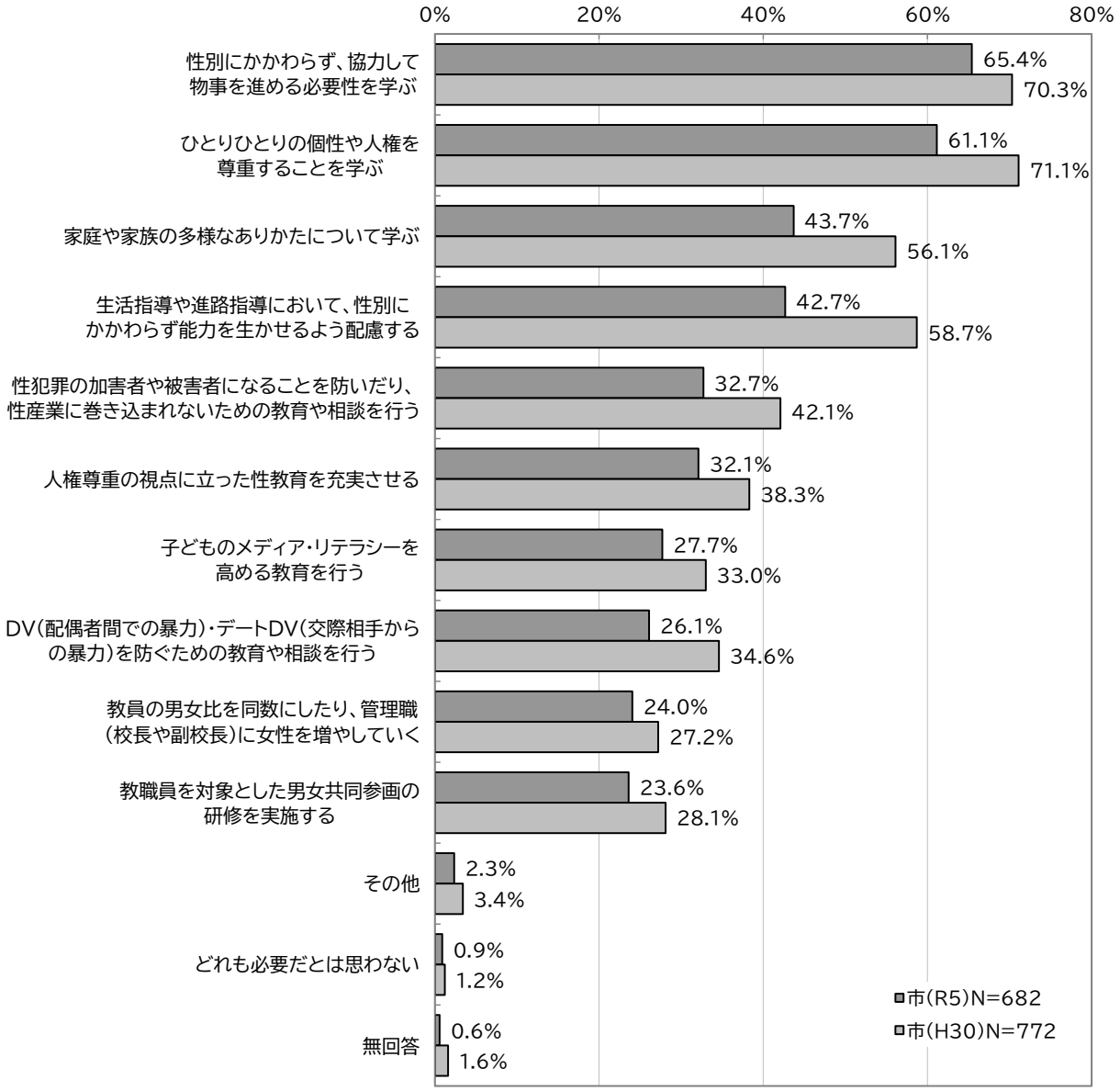


※市(H30)と一部選択肢が異なっており、比較できるもののみ比較している

● あらゆる分野における男女共同参画について

問4 児童生徒の男女共同参画の意識を育てるために、学校教育で特に必要な取組[MA]

・市（R5）では、「性別にかかわらず、協力して物事を進める必要性を学ぶ」と考える割合が最も高く、「ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶ」、「家庭や家族の多様なありかたについて学ぶ」と続いている。
一方、市（H30）では「ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶ」の割合が最も高く、「生活指導や進路指導において、性別にかかわらず能力を生かせるよう配慮する」も高い割合となっている。

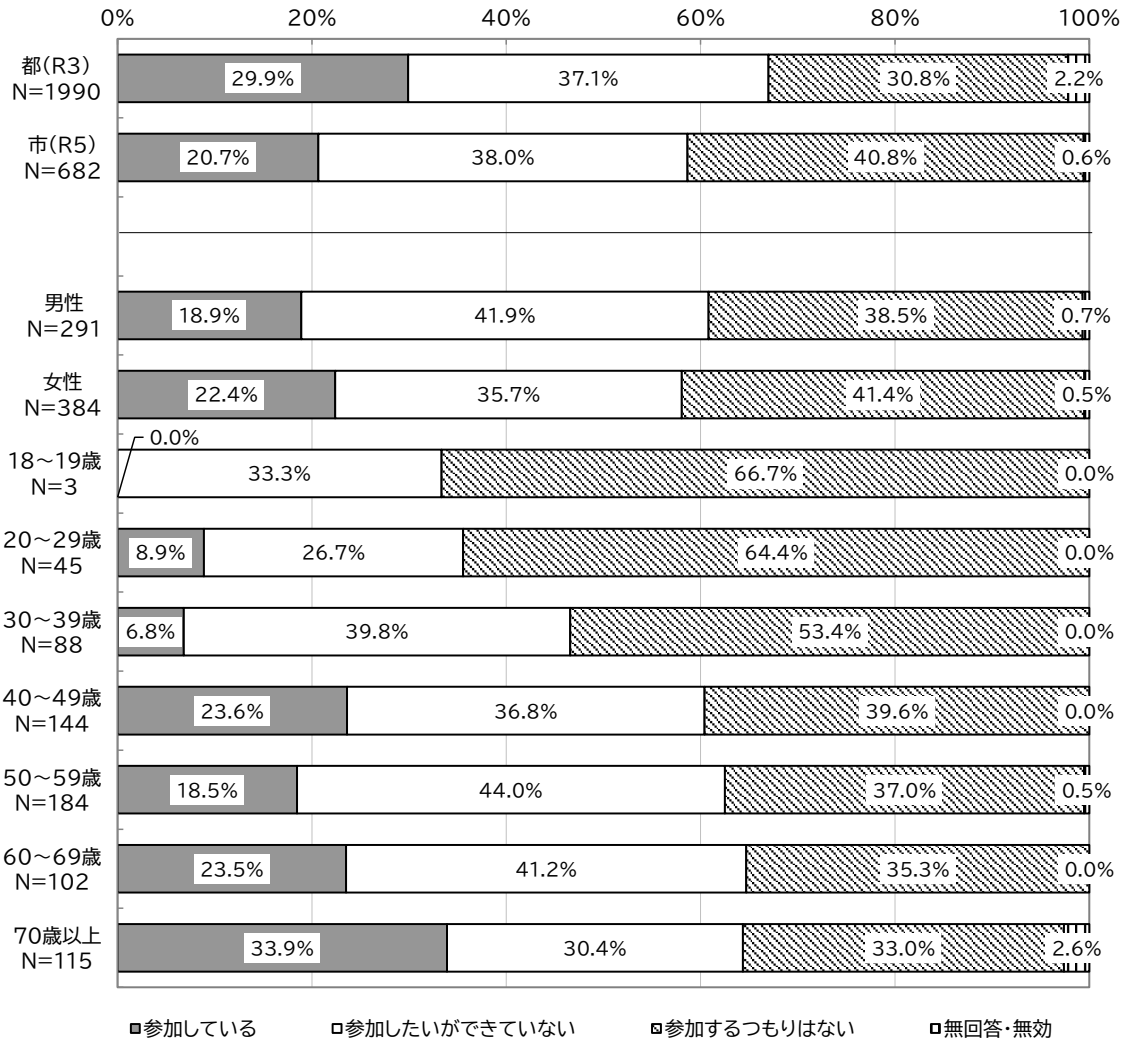


※市（H30）と一部選択肢が異なっており、比較できるもののみ比較している

● あらゆる分野における男女共同参画について

問5　現在、職業以外の社会活動や地域活動に参加しているか[SA]

・都（R3）と比べて現在「参加している」割合は低いが、「参加したいができていない」割合はやや高くなっている。
・男性は女性より「参加したいができていない」割合が高い。
・年代が上がるにつれて、参加割合や参加意欲の割合が高い傾向となっている。

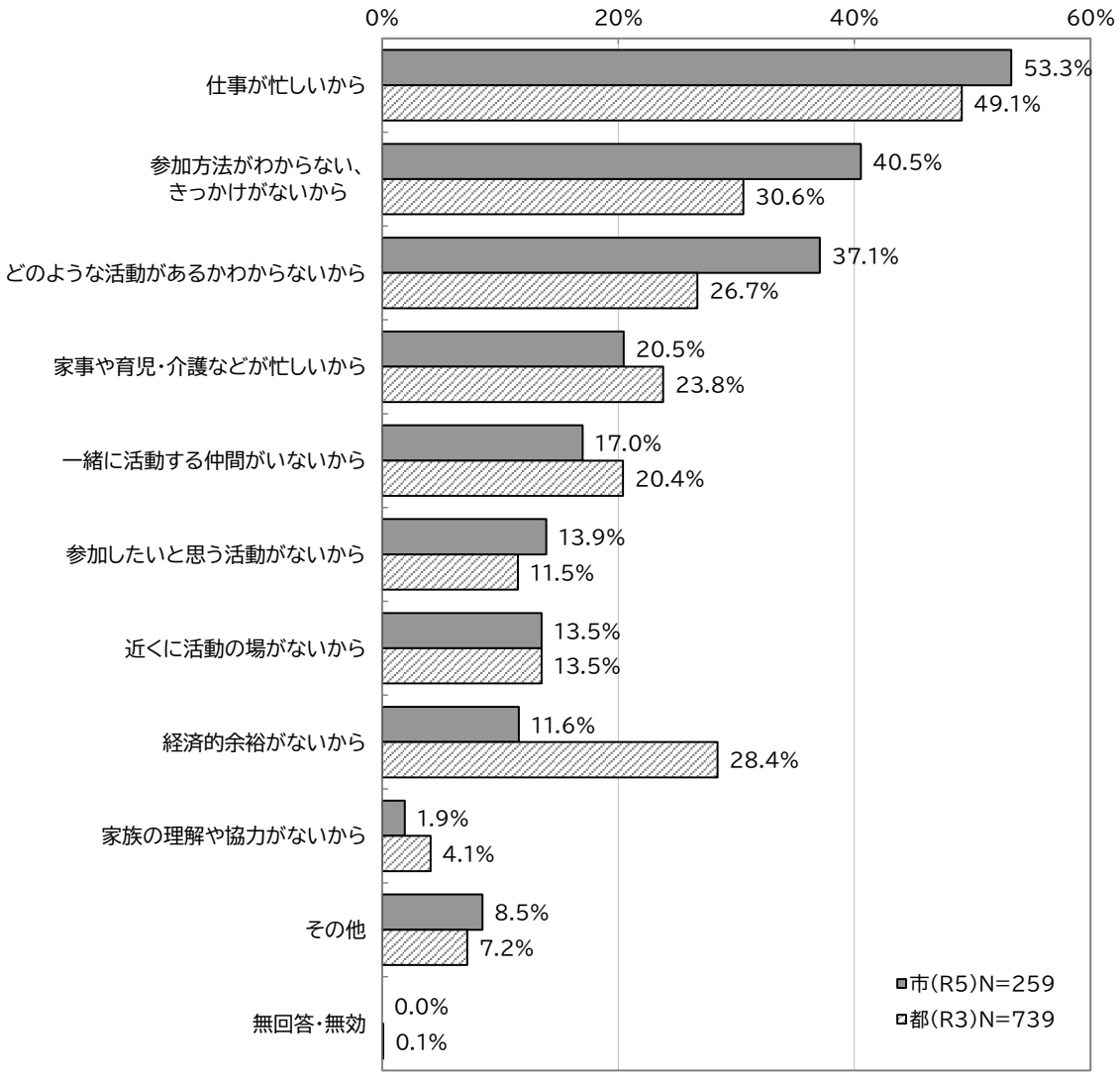


※市（H30）では選択肢が大きく異なるため比較対象外

● あらゆる分野における男女共同参画について

問5-1【限定】問5で「参加したいができていない」理由[MA]

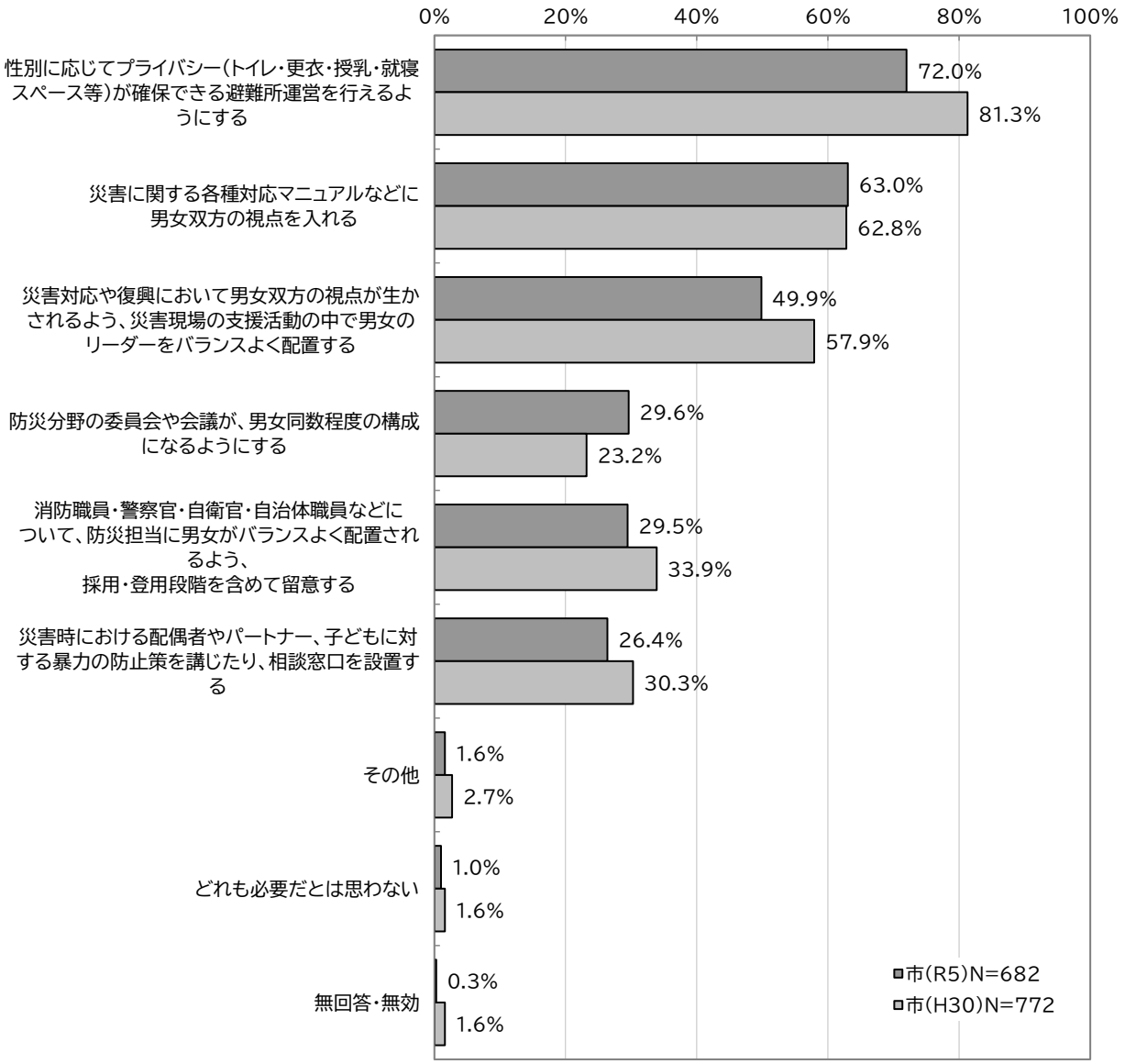
・都（R3）では「経済的余裕がないから」の割合が高くなっている。
・市（R5）では「参加方法がわからない、きっかけがないから」、「どのような活動があるかわからないから」の割合が都（R3）よりも高くなっている。その他大きな差はみられない。



● あらゆる分野における男女共同参画について

問6　災害対策に男女双方の視点を生かすためには、特にどのようなことが重要だと思うか［MA］

・市（R5）では「防災分野の委員会や会議が、男女同数程度の構成になるようにする」の割合が市（H30）よりも増加している。また、「性別に応じてプライバシー（トイレ・更衣・授乳・就寝スペース等）が確保できる避難所運営を行えるようにする」は市(H30）よりも減少した。その他大きな差はみられない。



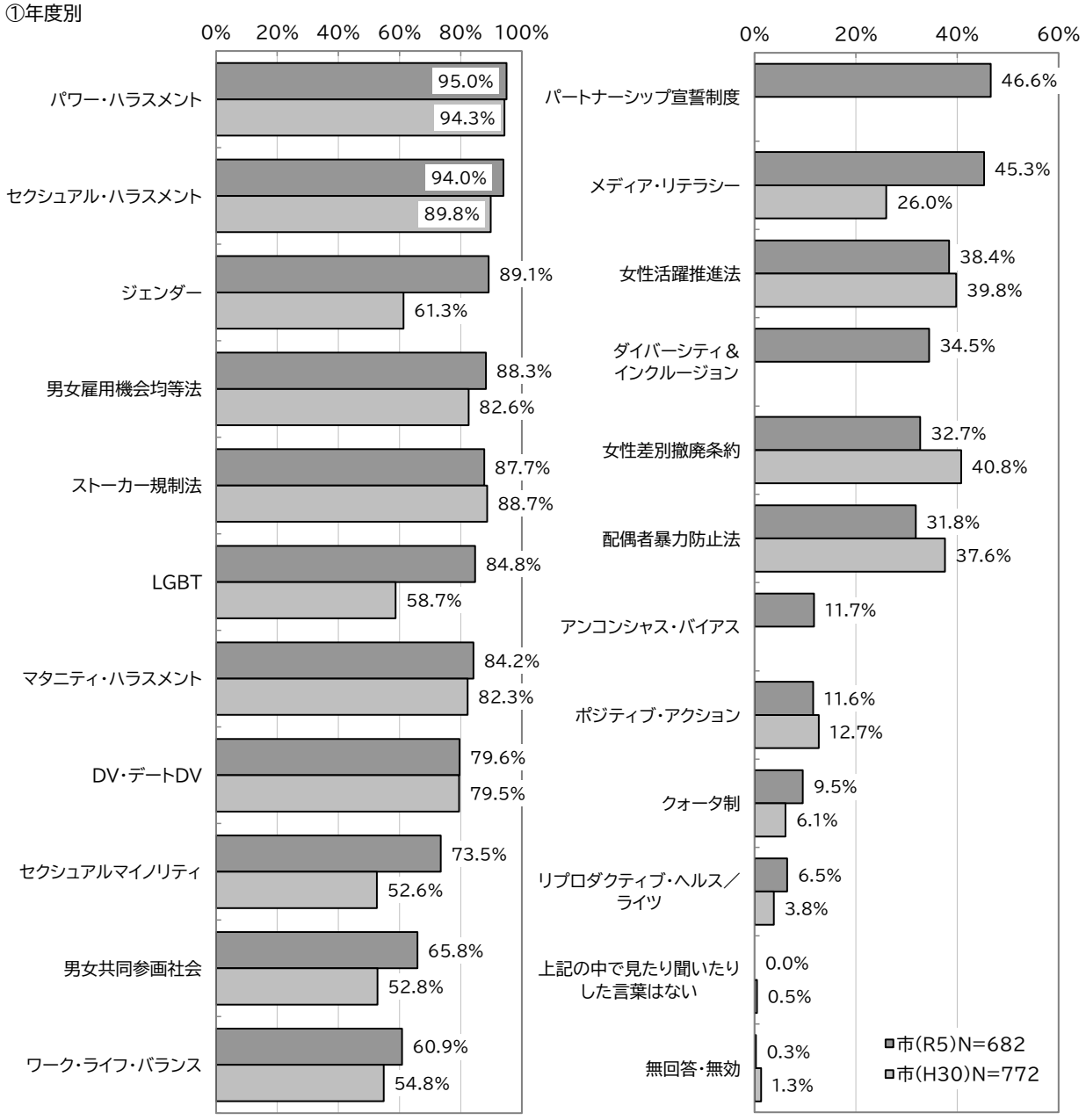
※市（H30）と一部選択肢が異なっており、比較できるもののみ比較している

● あらゆる分野における男女共同参画について

問7　以下の言葉のうち見たり聞いたりしたことがあるもの＜年度別＞[MA]

・市（R5）では多くの項目で見聞きした割合が市（H30）よりも増加しており、特に「ジェンダー」や「LGBT」、「セクシュアルマイノリティ」は20%以上増加している。その一方で、「女性差別撤廃条約」、「配偶者暴力防止法」は5%以上減少している。

①年度別



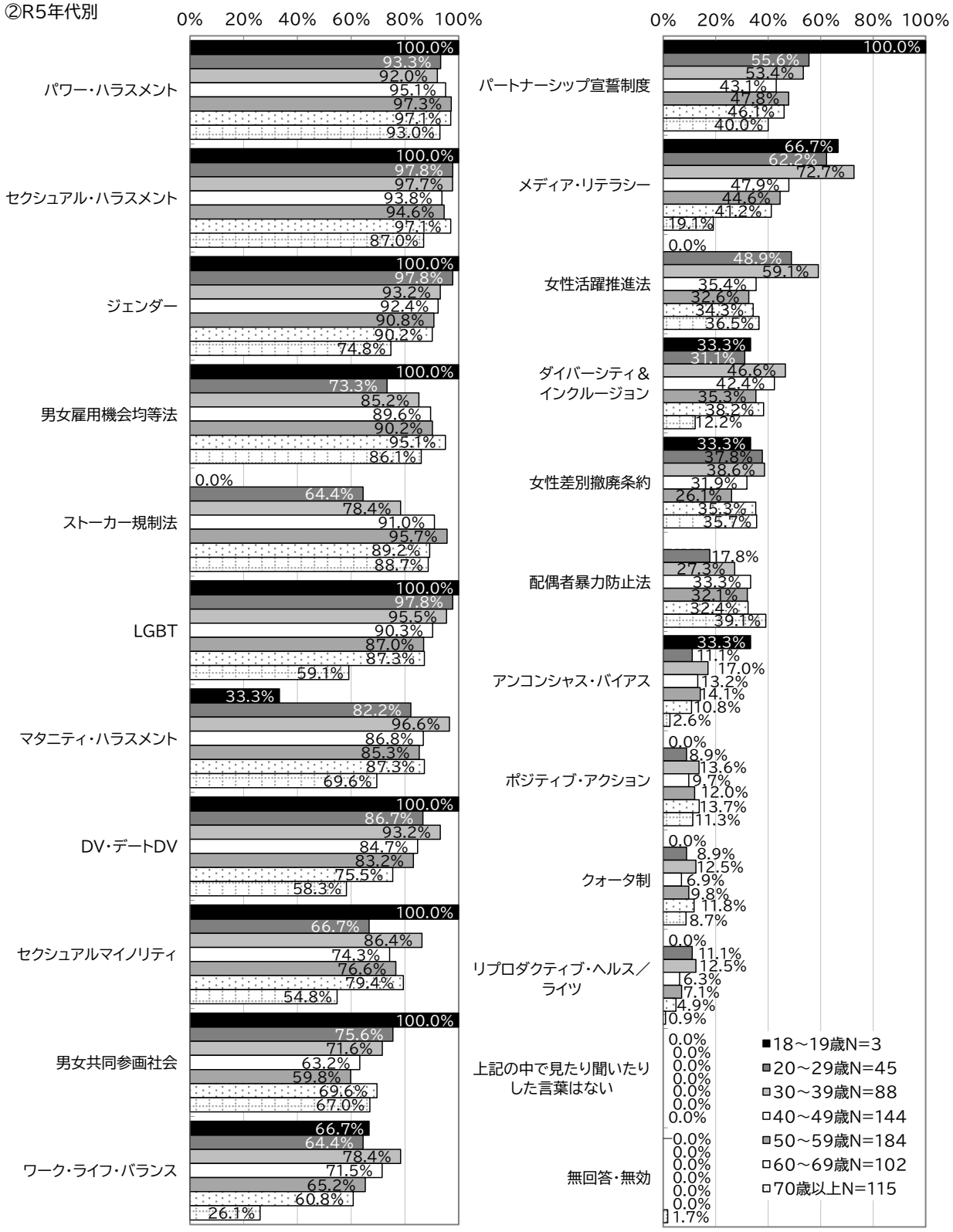
※市（H30）では「パートナーシップ宣誓制度」、「ダイバーシティ＆インクルージョン」、「アンコンシャス・バイアス」は非聴取

● あらゆる分野における男女共同参画について

問7　以下の言葉のうち見たり聞いたりしたことがあるもの<年代別>［MA］

・以前から使われている用語についてはどの年代も認知度が定着しつつあるが、最近の用語は70歳以上の認知度が低い傾向にある。特に、「ワーク・ライフ・バランス」はほとんどの年代で60%以上を超える認知度だが、70歳以上では26%にとどまっている。18～19歳では「ストーカー規制法」や「女性活躍推進法」などいくつかの用語の認知度が0.0%となっている。

②R5年代別



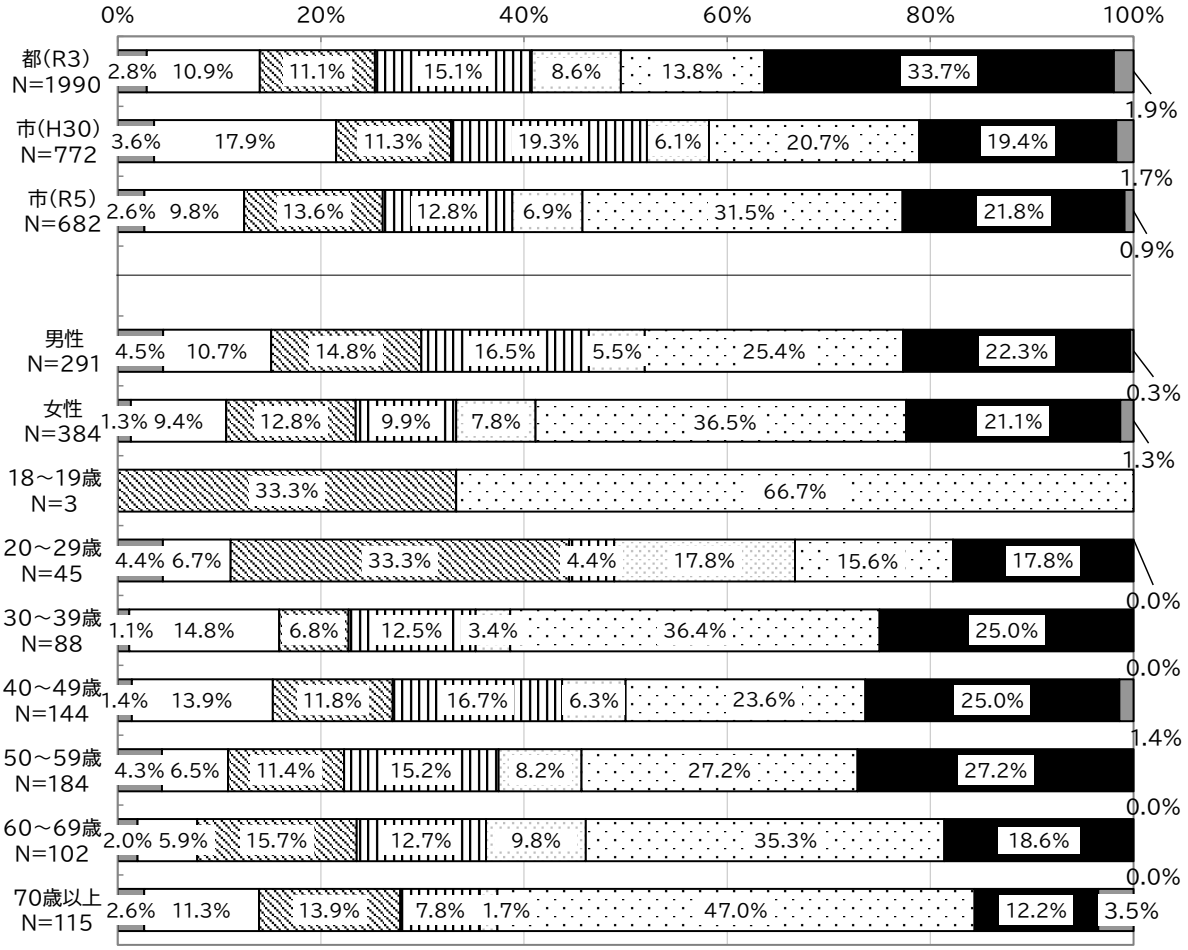
※市（H30）では「パートナーシップ宣誓制度」、「ダイバーシティ＆インクルージョン」、「アンコンシャス・バイアス」は非聴取

● 仕事と生活の調和について

問8　生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「個人の時間（地域活動、趣味・学習等）」の優先度について【希望】[SA]

・希望として、都（R3）では「『仕事』、『家庭生活』、『個人の時間』すべてを優先したい」、市（R5）では「『家庭生活』と『個人の時間』を優先したい」と考えている割合が最も高くなっている。
・市（H30）と比べて「『家庭生活』と『個人の時間』を優先したい」と考えている割合が増加した。
・男性と女性を比べて、男性は「『仕事』と『家庭生活』を優先したい」、女性は「『家庭生活』と『個人の時間』を優先したい」と考えている割合が高い。
・20～29歳では「『個人の時間』を優先したい」と考えている割合が他の年代に比べて高い。

生活の優先度の「希望」



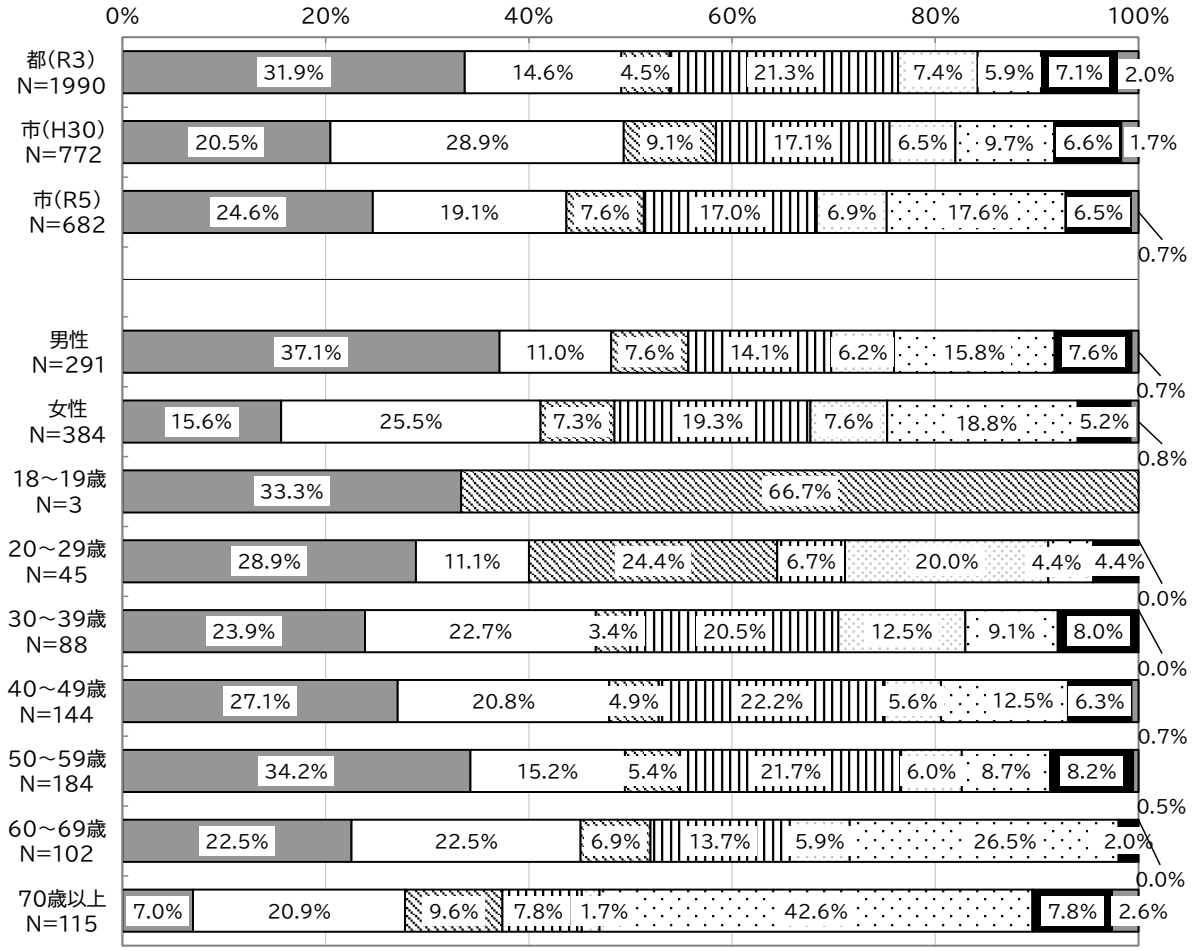
※国（R4）では非聴取

● 仕事と生活の調和について

問9　生活の中での優先度について【現実】[SA]

・現実として、都（R3）も市（R5）も「『仕事』を優先している」と考えている割合が最も高い。
・市（H30）と比べて「『家庭生活』を優先している」と考えている割合が減少し、「『仕事』を優先している」と考えている割合が増加した。
・男性は女性に比べて、「『仕事』を優先している」と考えている割合が非常に高い。
・20～29歳から50～59歳の働き盛り世代では、「『仕事』を優先している」と考えている割合が高い。

生活の優先度の「現実」

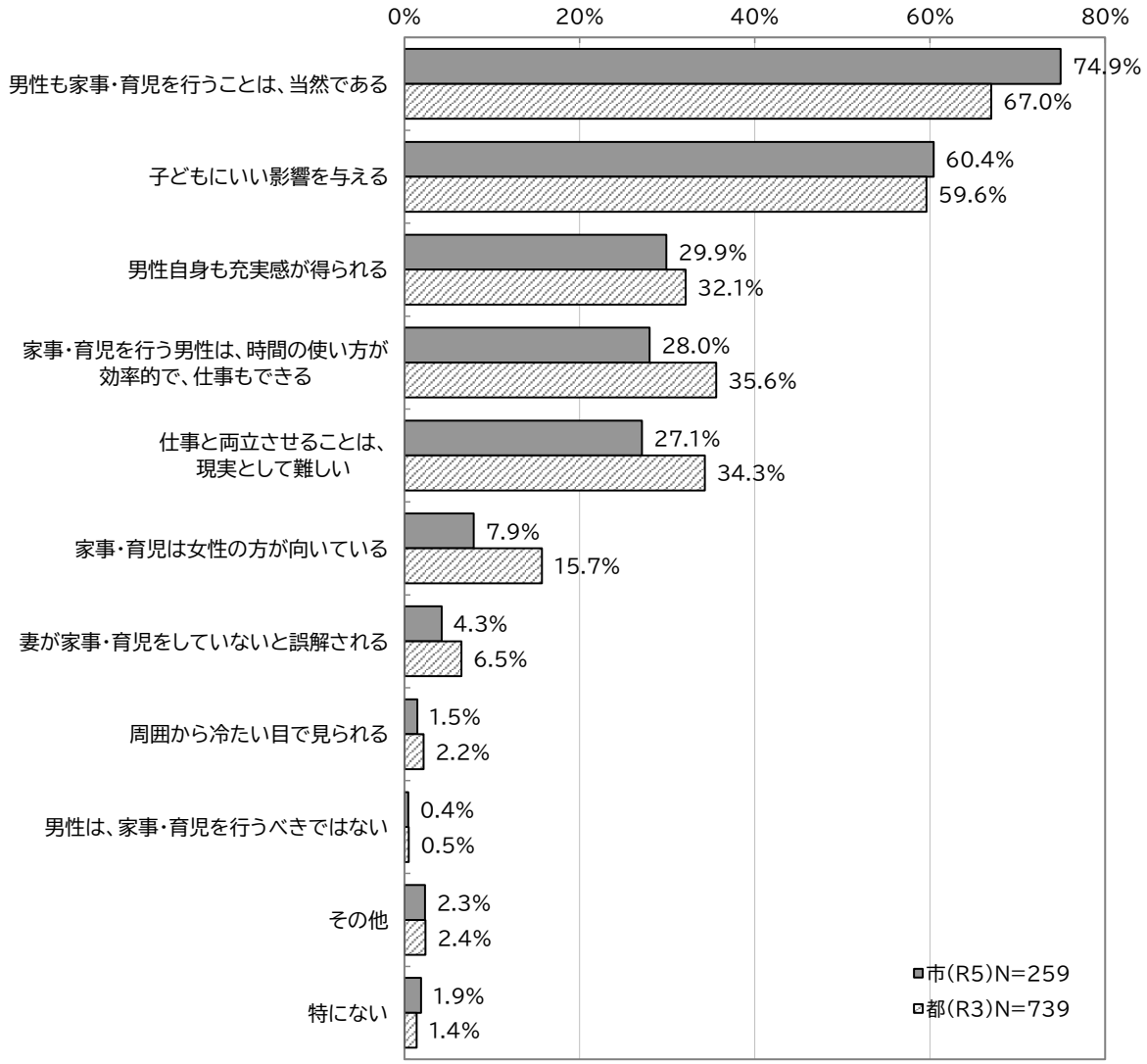


※国（R4）では非聴取

● 仕事と生活の調和について

問10　男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージを持っているか[MA]

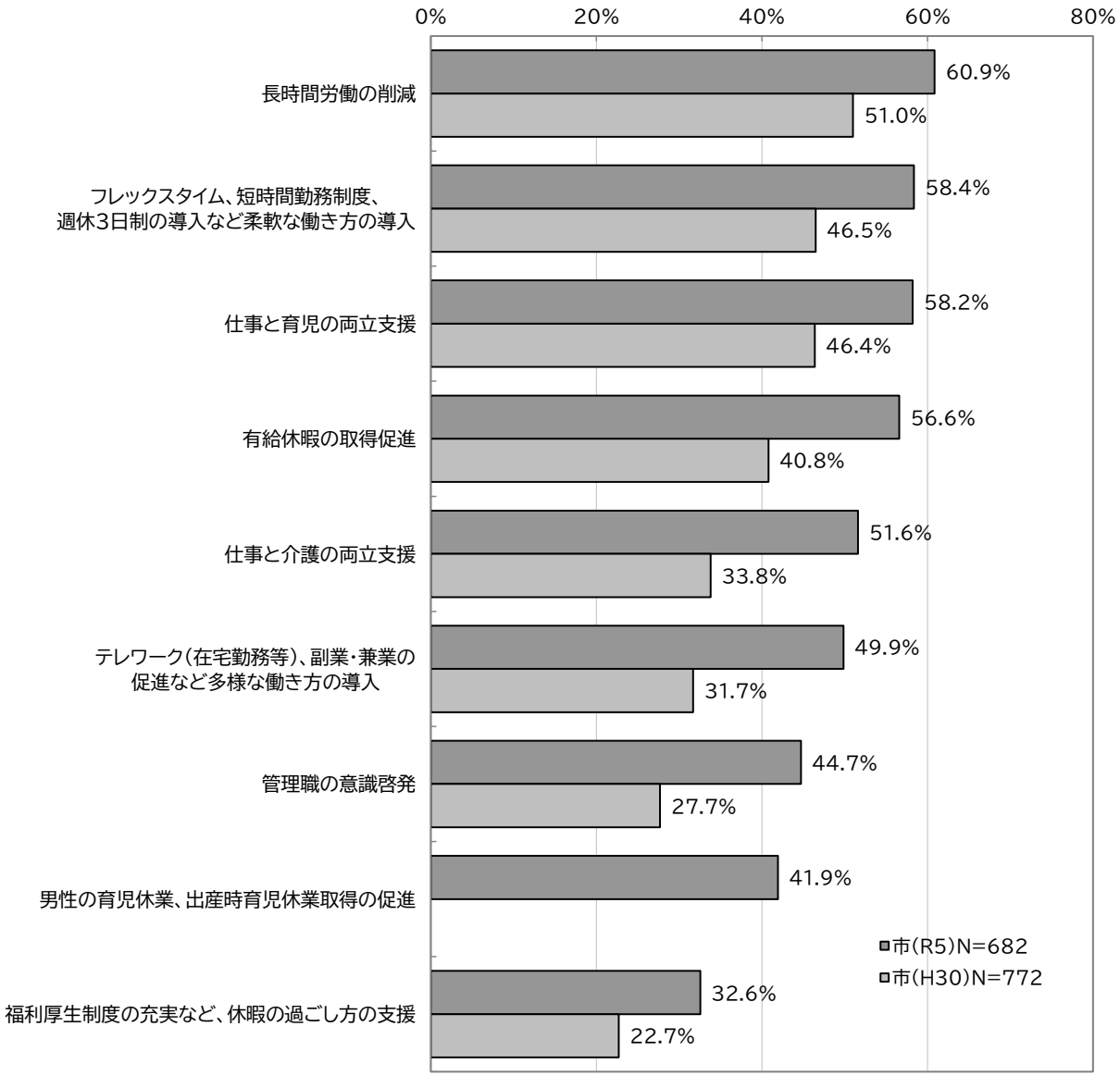
・「男性も家事・育児を行うことは、当然である」は市（R5）は都（R3）よりもやや高くなっており、また「家事・育児は女性の方が向いている」は市（R5）は都（R3）よりも半数近く低くなっている。



● 仕事と生活の調和について

問11　ワーク・ライフ・バランス実現のために有効だと思う取組[MA]

・市（R5）も市（H30）ではどちらも「長時間労働の削減」が最も高い。また、市(H30）よりも項目全体の割合が増加しているが、その他大きな差はみられない。

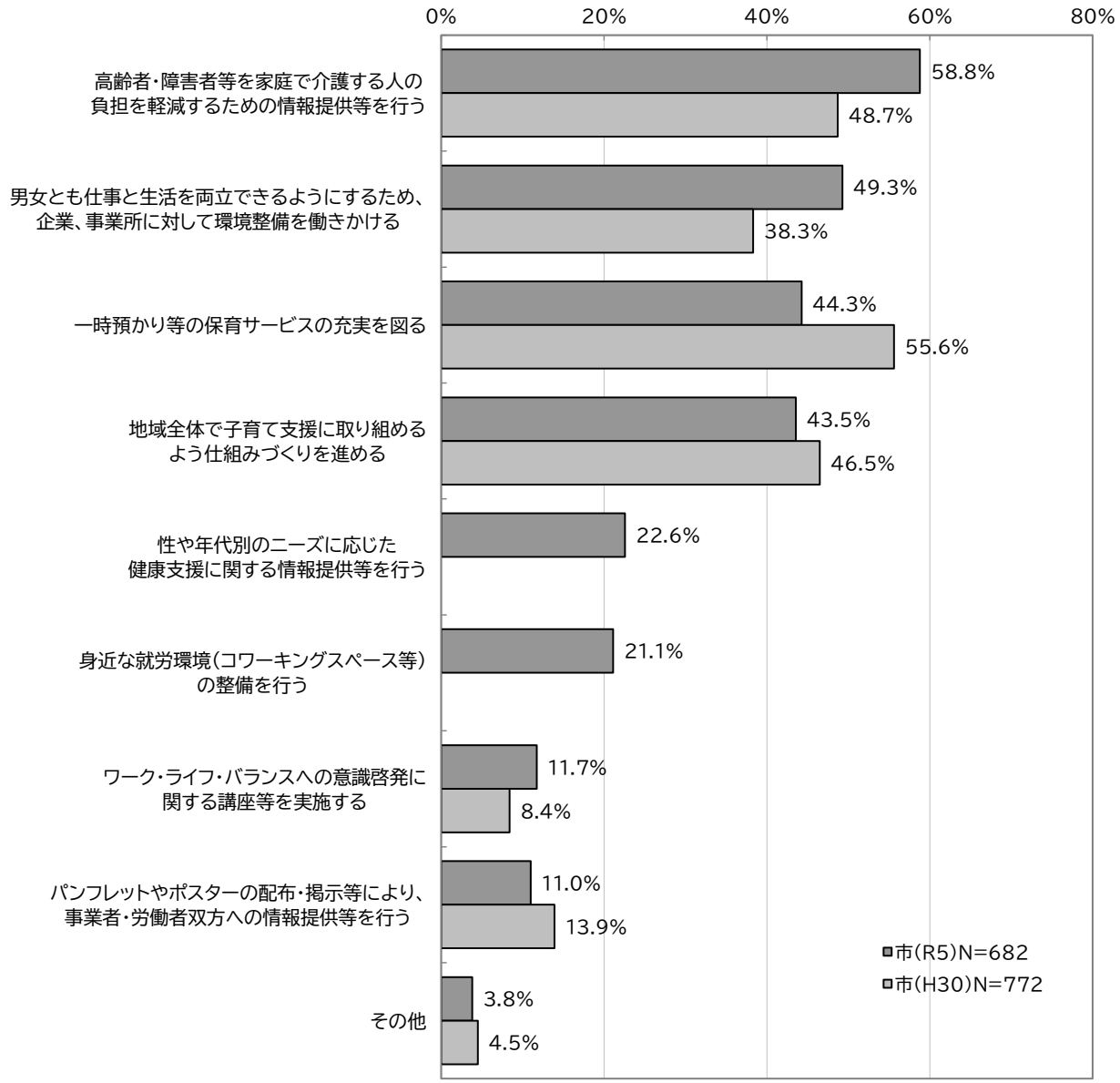


※市（H30）と一部選択肢が異なっており、比較できるもののみ比較している
※市（H30）では、「男性の育児休業、出産時育児休業取得の促進」、「特にない」非聴取

● 仕事と生活の調和について

問12 ワーク・ライフ・バランスのとれた環境をつくるために、府中市にどのようなことを望むか[MA]

・市(R5)では、「高齢者・障害者等を家庭で介護する人の負担を軽減するための情報提供等を行う」と「男女とも仕事と生活を両立できるようにするため、企業、事業所に対して環境整備を働きかける」の2項目の割合が増加しており、市(H30)で最も割合が高かった「一時預かり等の保育サービスの充実を図る」の割合が減少している。



※市(H30)と一部選択肢が異なっており、比較できるもののみ比較している

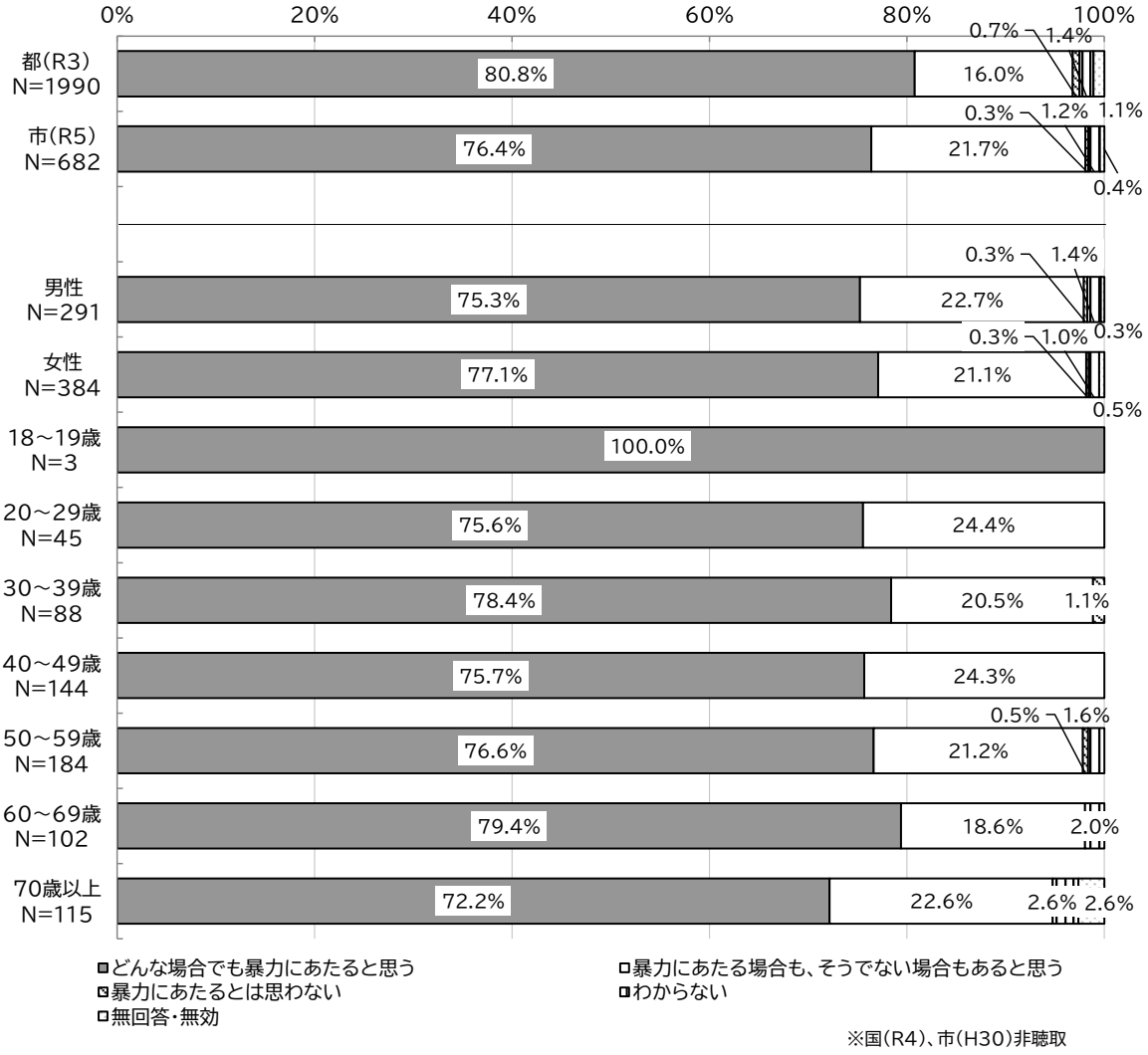
※市(H30)では、「性や年代別のニーズに応じた健康支援に関する情報提供等を行う」、「身近な就労環境(コワーキングスペース等)の整備を行う」非聴取

● 人権が尊重される社会の形成について

問13　次の（1）～（9）のような行為が配偶者・交際相手との間で行われた場合、暴力だと思うか[SA]

・市（R5）では「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が都（R3）よりも高いが、その他大きな差はみられない。
・男性と女性で大きな差はみられない。
・18～19歳で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が100%であるものの、その他大きな差はみられない。

（1）平手で打つ



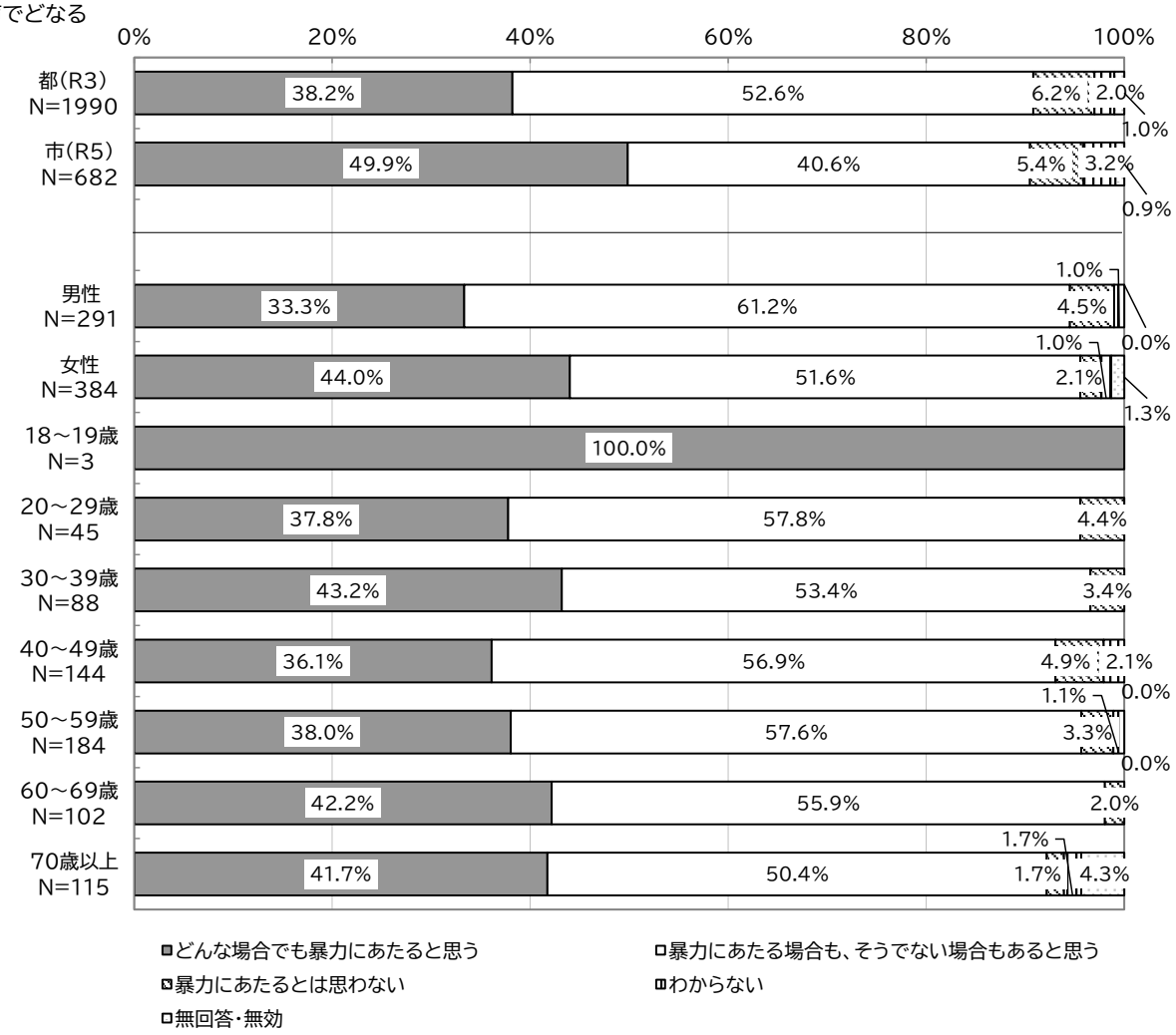
※国（R4）、市（H30）非聴取

● 人権が尊重される社会の形成について

問13　次の（1）～（9）のような行為が配偶者・交際相手との間で行われた場合、暴力だと思うか[SA]

・市（R5）では「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が都（R3）よりも高い。
・女性は男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高い。
・18～19歳で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が100%であるものの、その他大きな差はみられない。

（2）大声でどなる



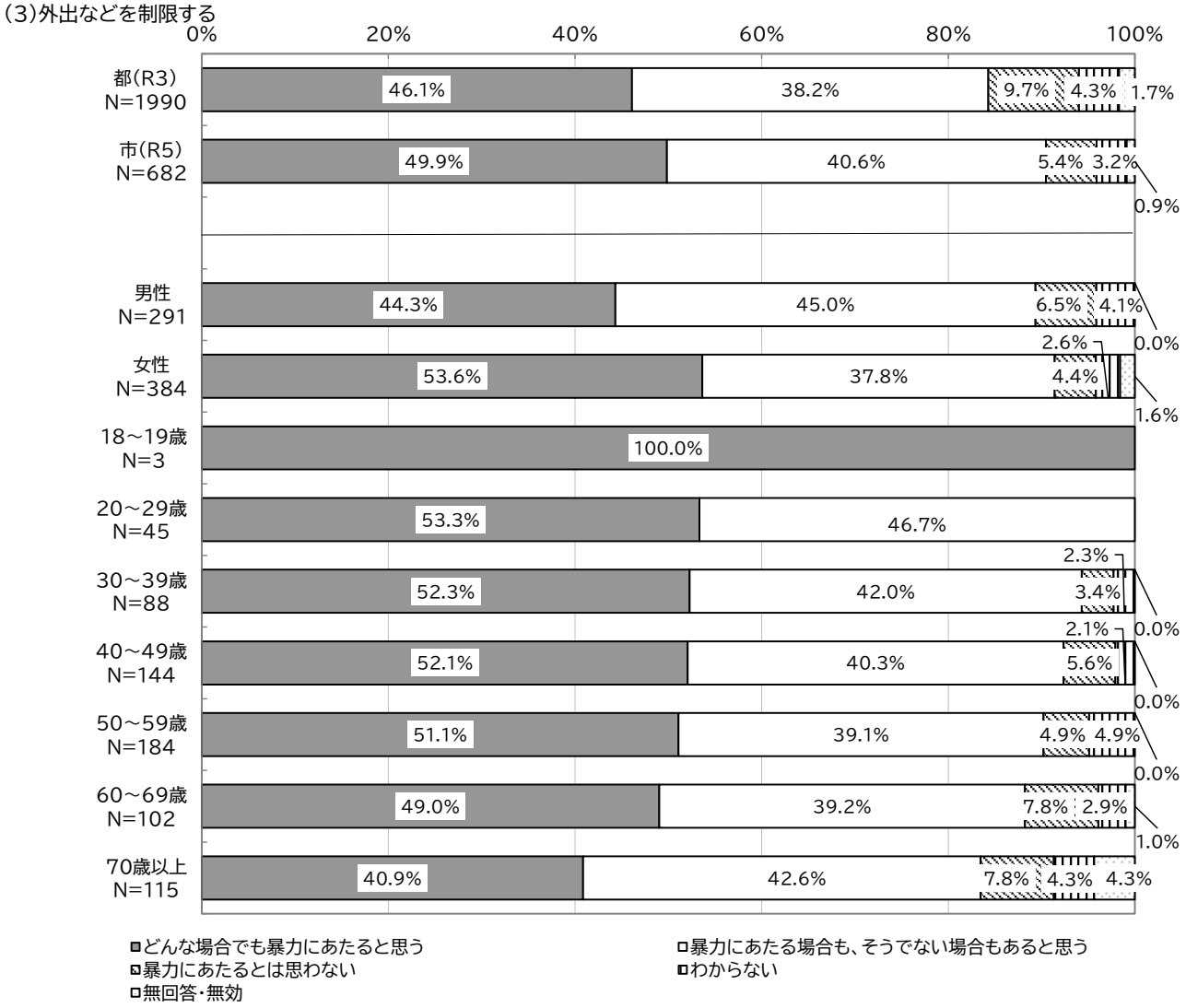
※国（R4）、市（H30）非聴取

● 人権が尊重される社会の形成について

問13　次の（1）～（9）のような行為が配偶者・交際相手との間で行われた場合、暴力だと思うか[SA]

・市（R5）では「どんな場合でも暴力にあたると思う」、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が都（R3）よりもやや高い。
・女性は男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高い。
・18～19歳で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が100%となっており、年代があがるにつれて「暴力にあたるとは思わない」の割合が高くなっている。

（3）外出などを制限する



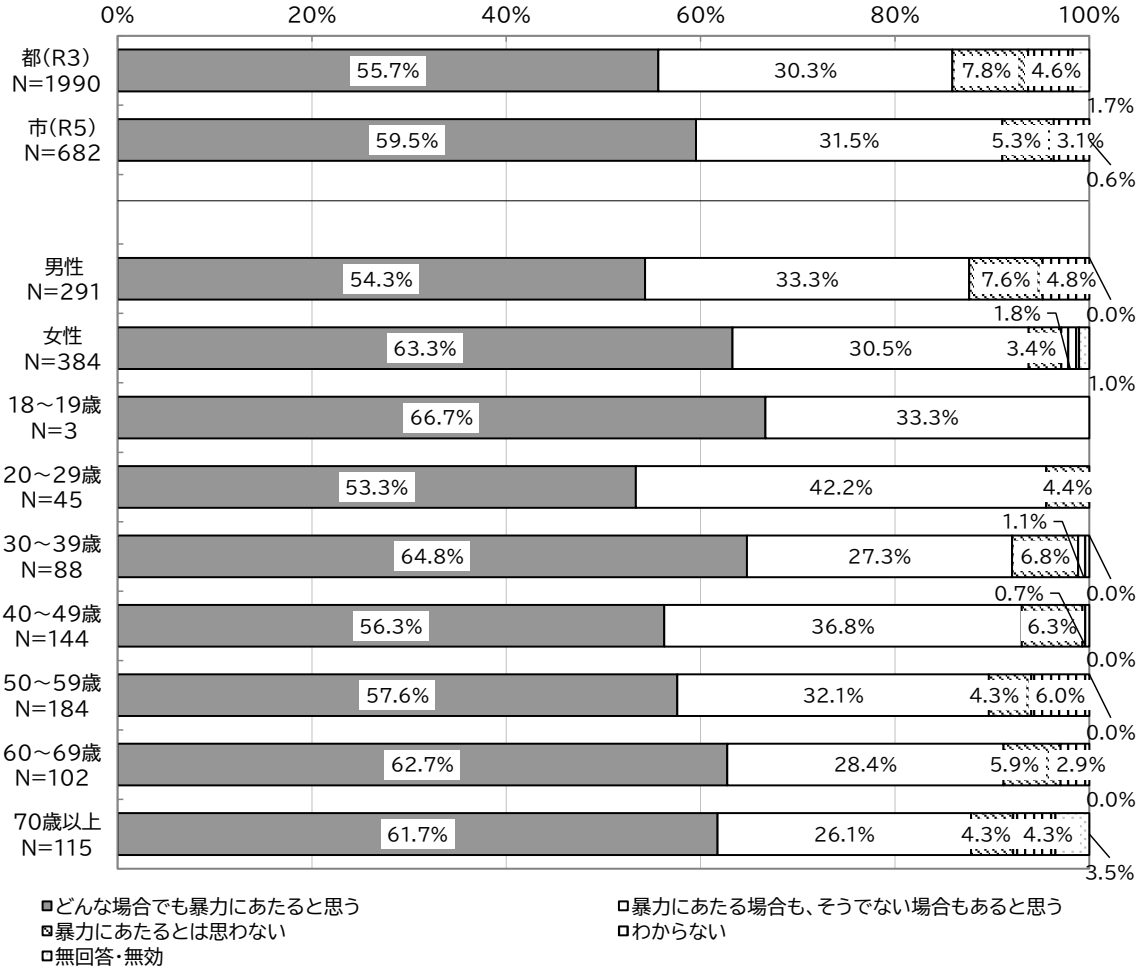
※国（R4）、市（H30）非聴取

● 人権が尊重される社会の形成について

問13　次の（1）～（9）のような行為が配偶者・交際相手との間で行われた場合、暴力だと思うか[SA]

・市（R5）では「どんな場合でも暴力にあたると思う」、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が都（R3）よりもやや高いが、その他大きな差はみられない。
・男性と女性では、男性は「暴力にあたるとは思わない」の割合が女性に比べて高い。
・年代別では大きな差はみられない。

（4）交友関係や電話・メール・SNSを細かく監視する



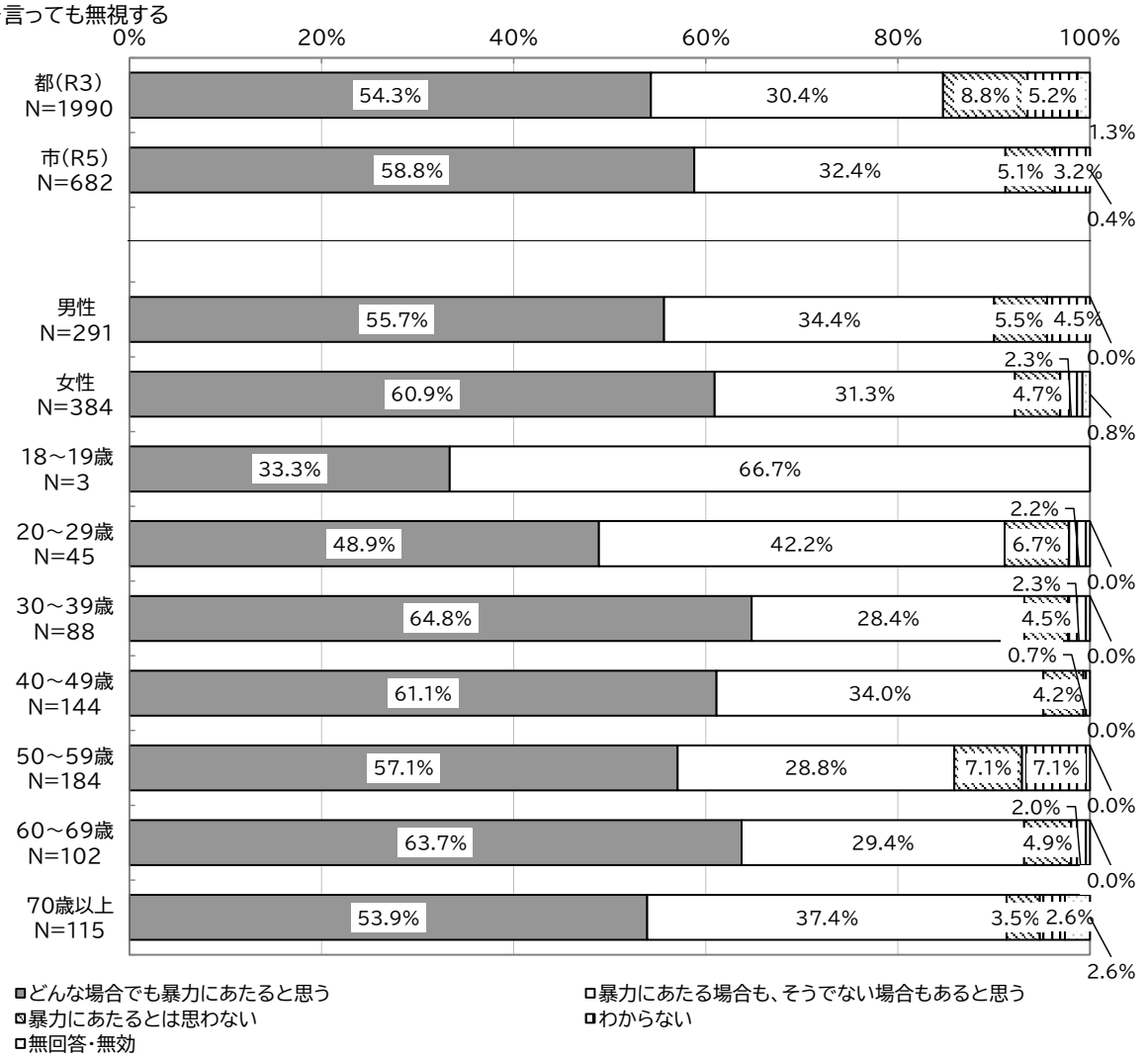
※国（R4）、市（H30）非聴取

● 人権が尊重される社会の形成について

問13　次の（1）～（9）のような行為が配偶者・交際相手との間で行われた場合、暴力だと思うか[SA]

・市（R5）では「どんな場合でも暴力にあたると思う」、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が都（R3）よりも高い。
・男性と女性では大きな差はみられない。
・20～29歳で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低く、「暴力にあたるとは思わない」の割合がやや高い。また50～59歳でも「暴力にあたるとは思わない」の割合が高くなっている。

（5）何を言っても無視する



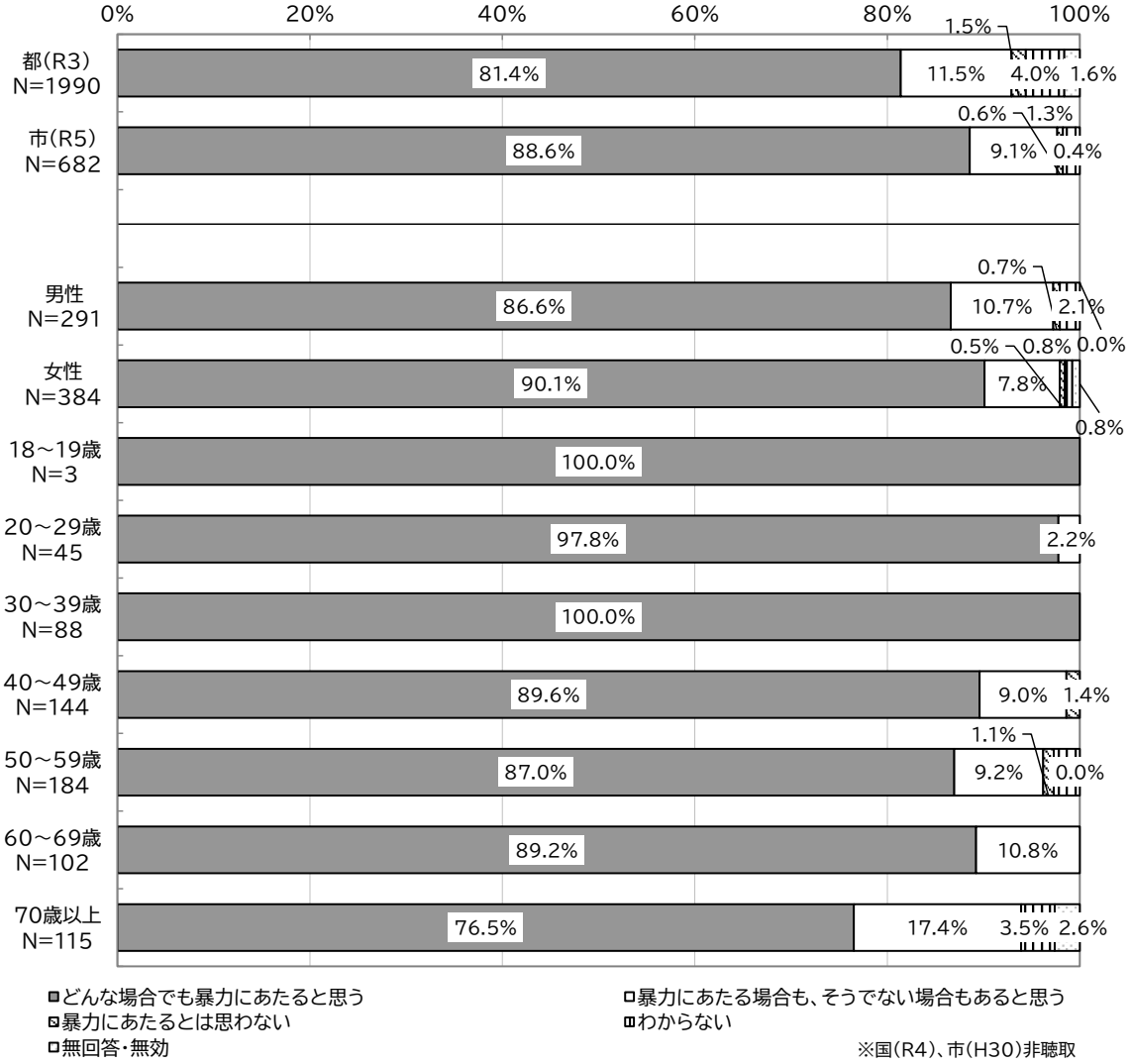
※国（R4）、市（H30）非聴取

● 人権が尊重される社会の形成について

問13　次の（1）～（9）のような行為が配偶者・交際相手との間で行われた場合、暴力だと思うか[SA]

・市（R5）では「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高いが、その他大きな差はみられない。
・男性と女性では、女性は「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高いが、大きな差はみられない。
・18～19歳、30～39歳で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が100%となっている。全体的に「どんな場合でも暴力にあたると思う」が非常に高くなっているが、70歳以上では割合がやや低い。

（6）相手の意に反して性的な行為を強要したり、避妊に協力しない



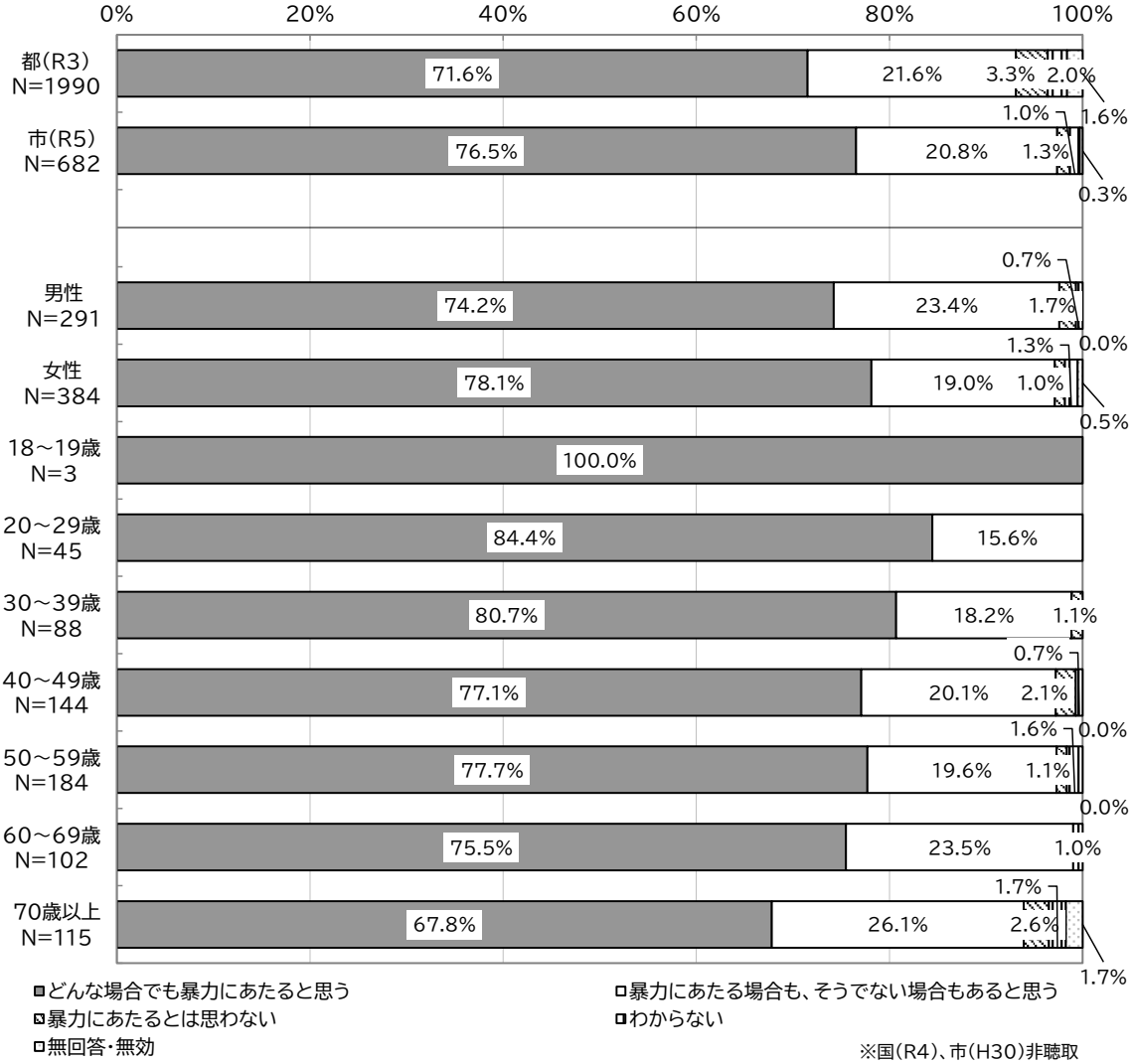
※国（R4）、市（H30）非聴取

● 人権が尊重される社会の形成について

問13　次の（1）～（9）のような行為が配偶者・交際相手との間で行われた場合、暴力だと思うか[SA]

・市（R5）では「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合がやや高いが、その他大きな差はみられない。
・男性と女性では、女性は「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合がやや高いが、大きな差はみられない。
・18～19歳で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が100%となっている。全体的に「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合は高いが、年代が上がるにつれて低くなる傾向であり、70歳以上では割合が特に低い。

（7）殴るふりをしておどす



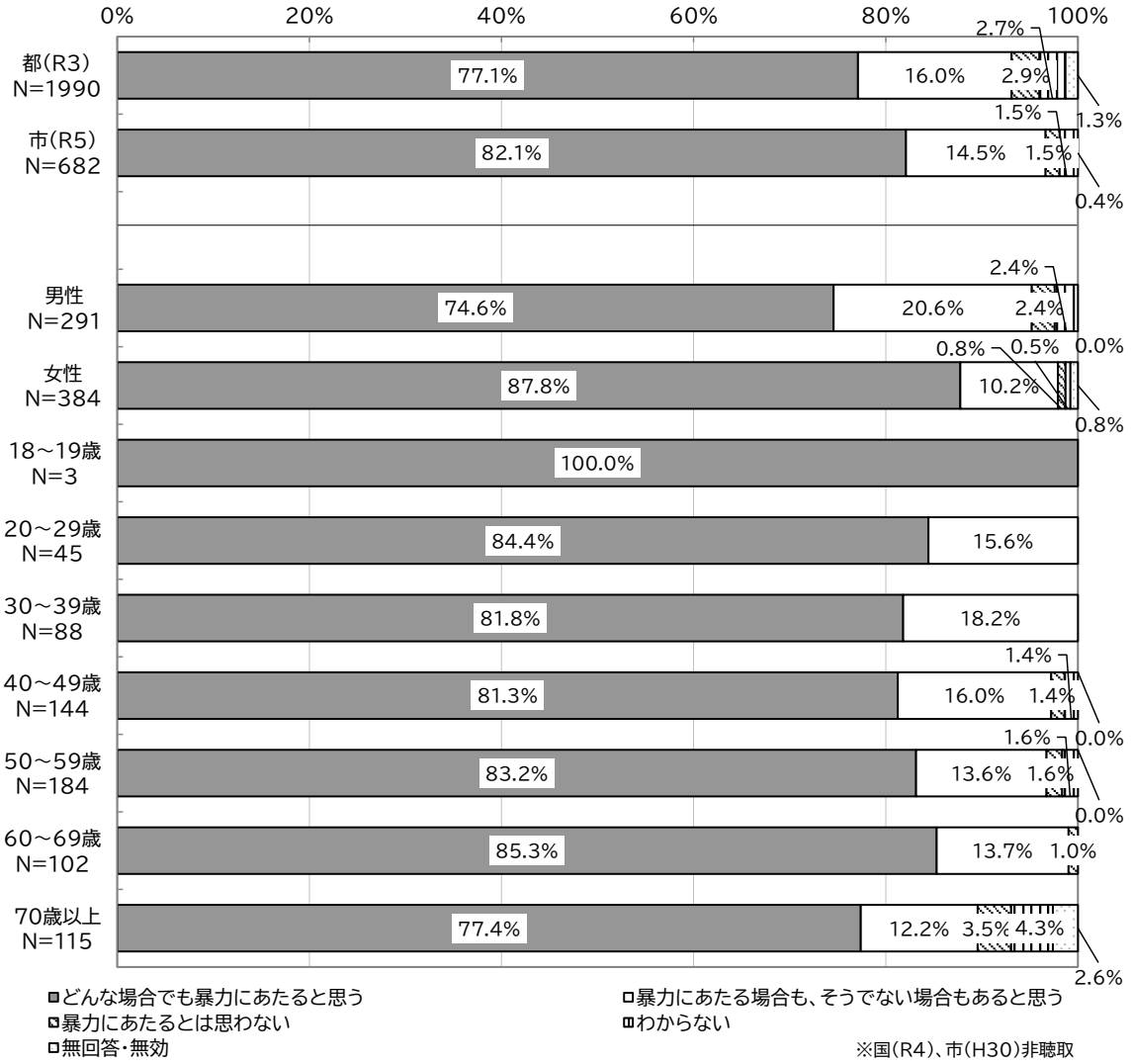
※国（R4）、市（H30）非聴取

● 人権が尊重される社会の形成について

問13　次の（1）～（9）のような行為が配偶者・交際相手との間で行われた場合、暴力だと思うか[SA]

・市（R5）では「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が都（R3）よりもやや高いが、その他大きな差はみられない。
・男性と女性では、男性は「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」、女性は「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高い。
・18～19歳で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が100%となっている。全体的に「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合は高いが、その他大きな差はみられない。

（8）「誰のおかげで生活できるんだ」、「かいしょうなし」などと侮辱的なことを言う



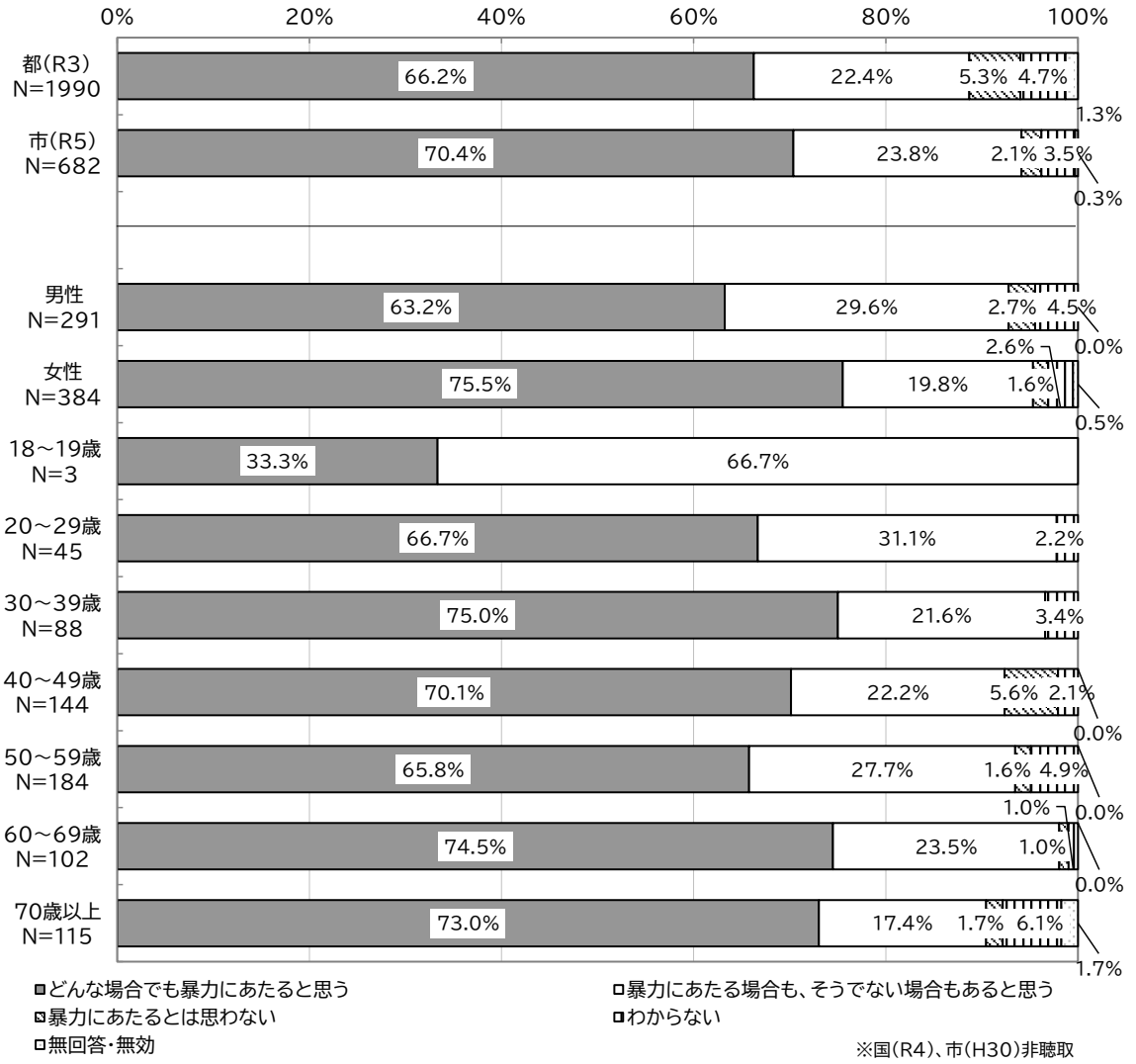
※国（R4）、市（H30）非聴取

● 人権が尊重される社会の形成について

問13　次の（1）～（9）のような行為が配偶者・交際相手との間で行われた場合、暴力だと思うか[SA]

・市（R5）では「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が都（R3）よりもやや高いが、その他大きな差はみられない。
・男性と女性では、男性は「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」、女性は「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高い。
・40～49歳で「暴力にあたるとは思わない」の割合が他の年代よりも高くなっている。

（9）生活費を十分に渡さない

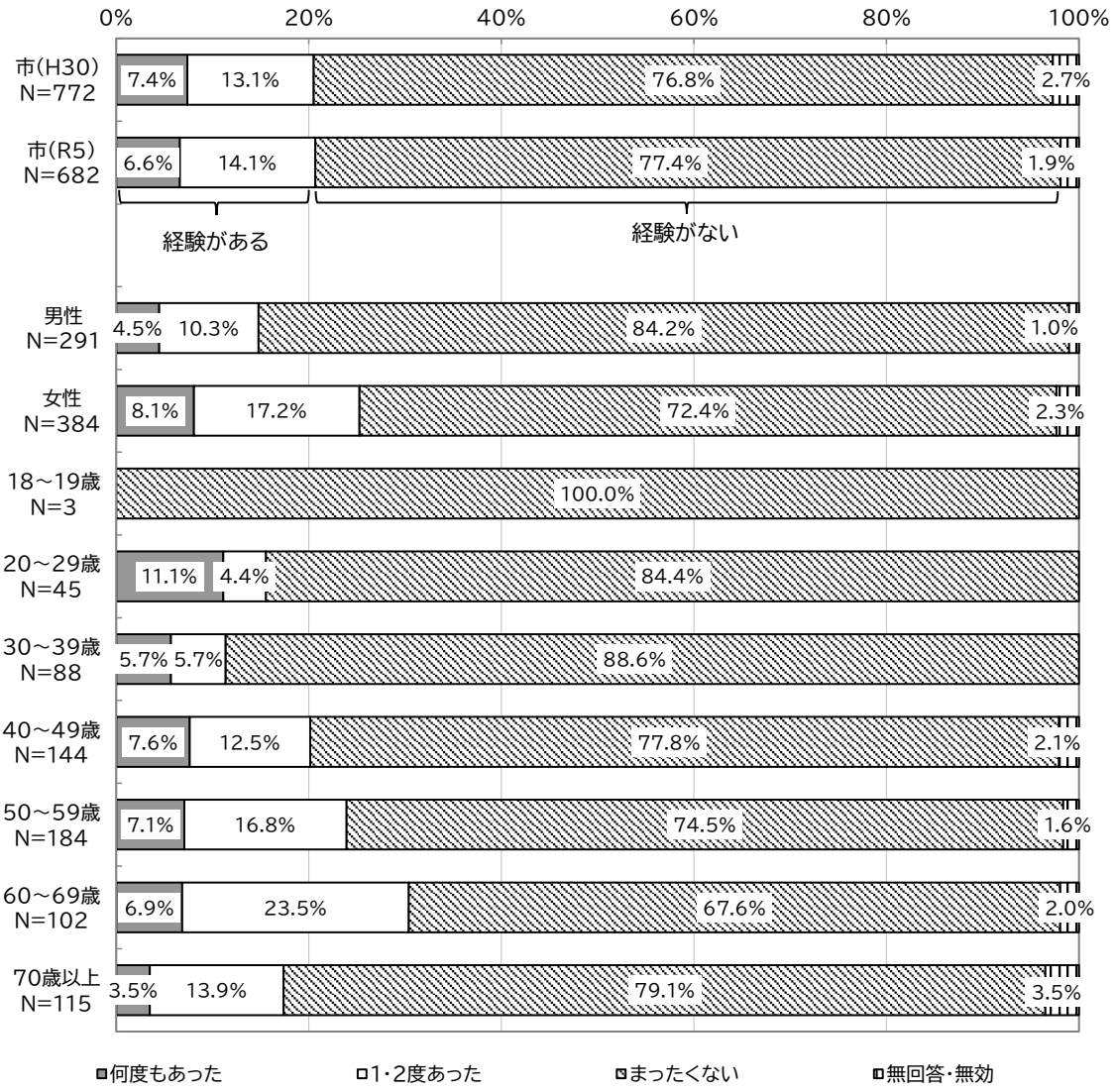


※国（R4）、市（H30）非聴取

● 人権が尊重される社会の形成について

問14　パートナーからの暴力を受けたこと、または身近な人がパートナーから暴力を受けているのに気づいたりしたことがあるか [SA]

・市（R5）と市（H30）ではいずれも「まったくない」の割合が高いが、大きな差はみられない。
・男性と女性では、女性は「何度もあった」と「1・2度あった」の割合が男性よりも高い。
・60～69歳で「1・2度ある」の割合が高く、他の年代よりも経験がある割合が高い。

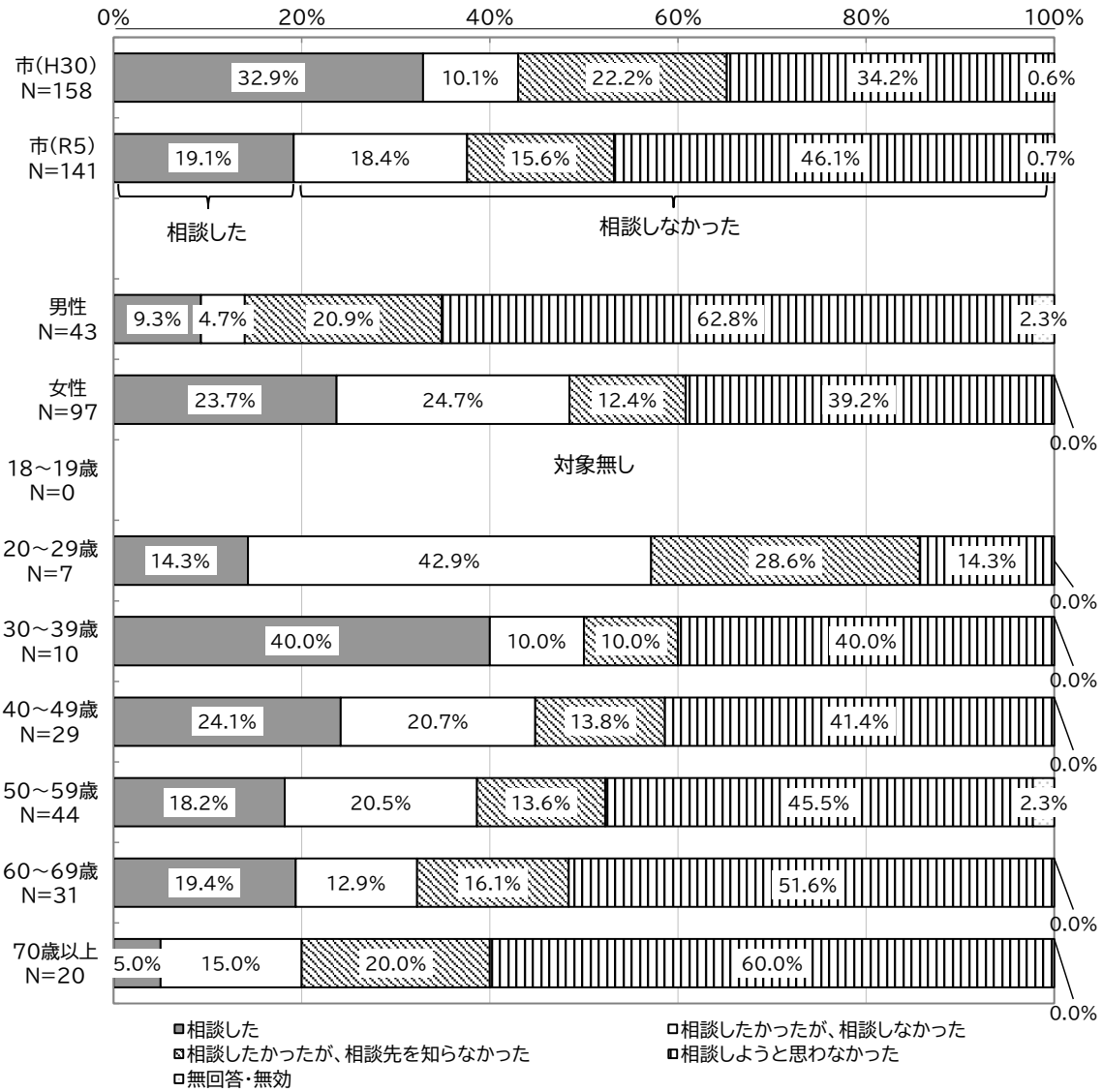


※国（R4）、都（R3）非聴取

● 人権が尊重される社会の形成について

問14-1 【限定】問14で「1　何度もある」または「2　1・2度ある」場合、誰(どこ)かに相談したか[SA]

・市(R5)では「相談したかったが、相談しなかった」、「相談しようと思わなかった」の割合が市(H30)より増加し、様々な事情により相談しなかった割合が大きく増加している。
・男性は「相談しようと思わなかった」、「相談したかったが、相談先を知らなかった」の割合が高く、女性に比べて相談しなかった割合が高い。女性は「相談した」割合が高くなっているが、「相談したかったが、相談しなかった」の割合も高い。
・20～29歳で「相談したかったが、相談しなかった」、「相談したかったが、相談先を知らなかった」の割合が他の年代よりも高くなっている。また、30～39歳では他の年代に比べて「相談した」割合が高い。また、年代があがるにつれて「相談しようと思わなかった」割合が高い傾向にある。

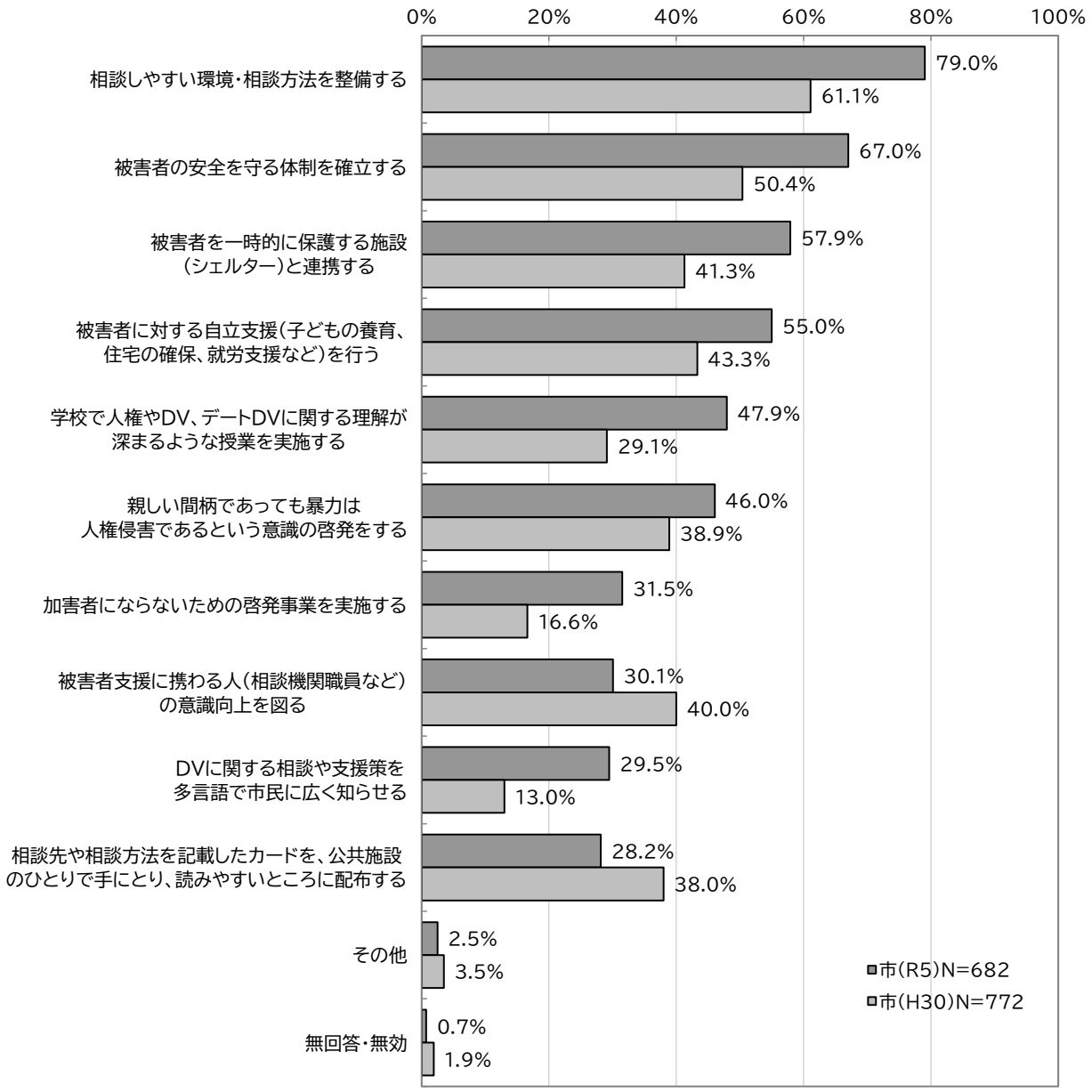


※国(R4)、都(R3)非聴取

● 人権が尊重される社会の形成について

問15 DVやデートDVの対策や防止のために、今後、府中市の施策として必要なもの［MA］

・市（R5）と市（H30）では、いずれも「相談しやすい環境・相談方法を整備する」が最も高くなっている。また、市(H30）よりも概ねの項目で割合が増加しており、特に「相談しやすい環境・相談方法を整備する」、「被害者の安全を守る体制を確立する」、「学校で人権やDV、デートDVに関する理解が深まるような授業を実施する」の割合が大きく増加している。



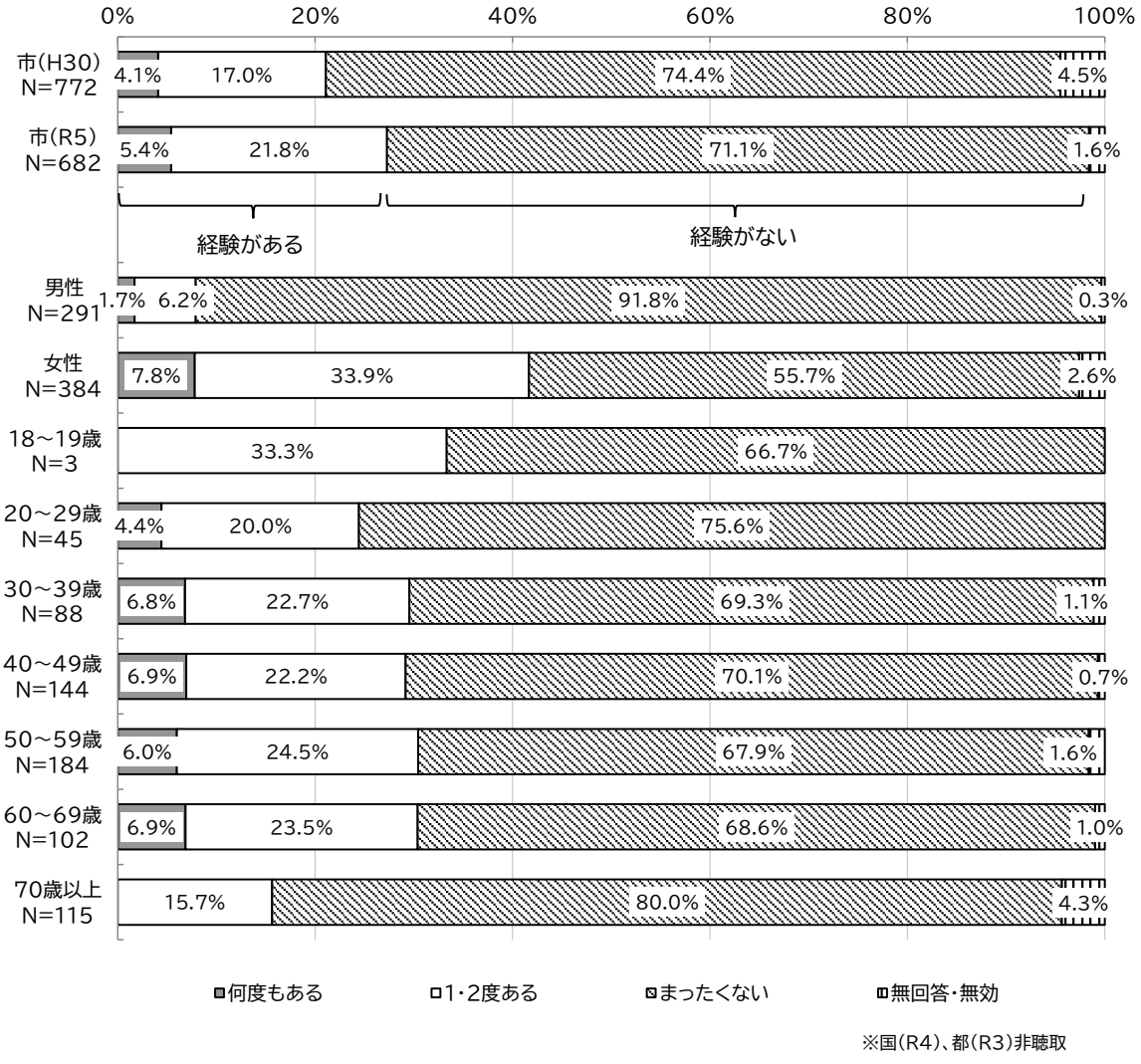
※市(H30)と一部選択肢が異なっている
※国(R4)、都(R3)非聴取

● 人権が尊重される社会の形成について

問16　日常生活の中で、次の（1）～（6）にあげるような行為を受けたことがあるか[SA]

・市（R5）と市（H30）ではいずれも「まったくない」の割合が高いが、大きな差はみられない。
・男性と女性では、男性は「まったくない」の割合が非常に高く、女性は「何度もある」と「1・2度ある」の割合が男性よりも高い。
・70歳以上で「まったくない」の割合が高いが、その他大きな差はみられない。

（1）不必要に身体に触られた



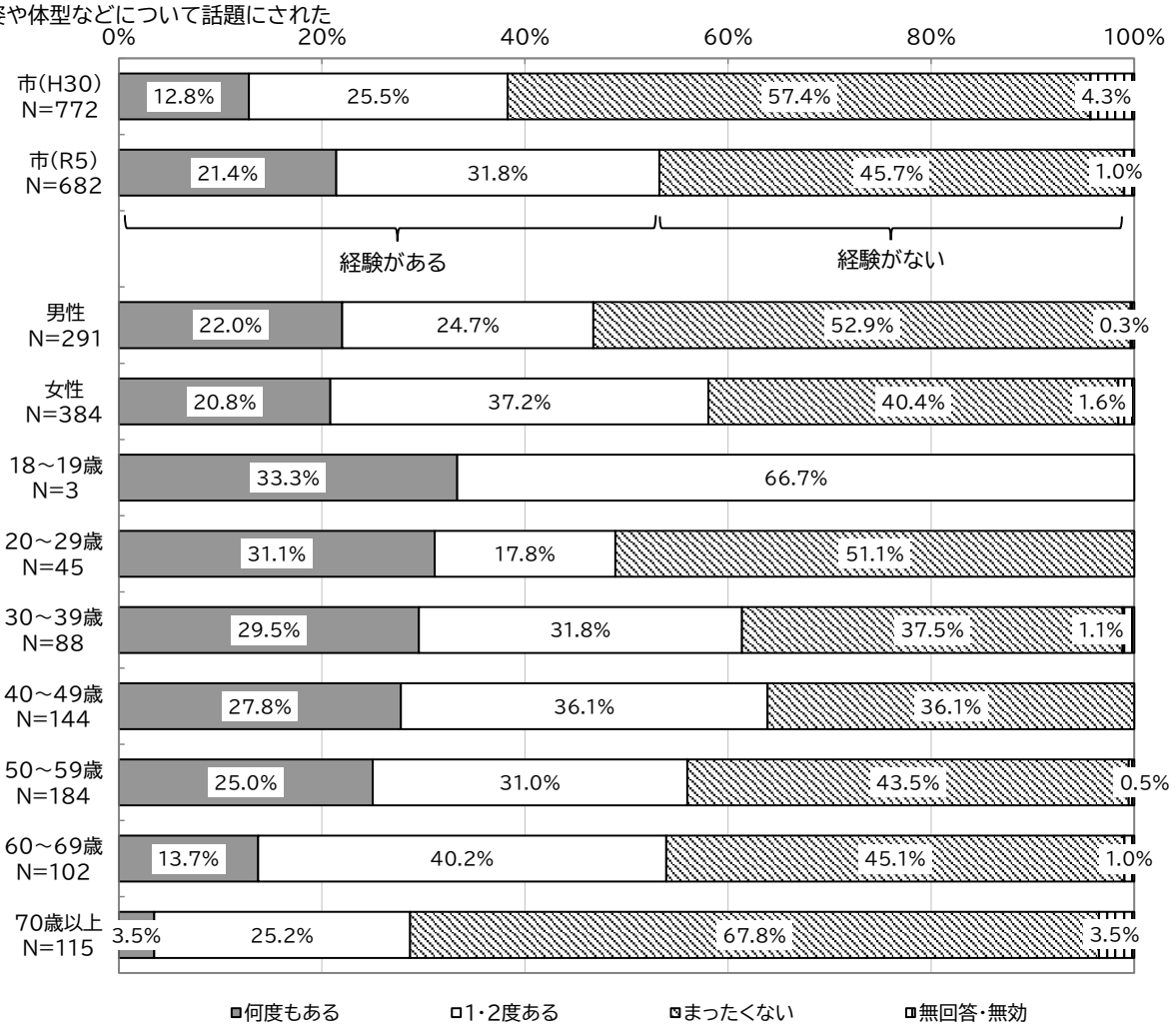
※国（R4）、都（R3）非聴取

● 人権が尊重される社会の形成について

問16　日常生活の中で、次の（1）～（6）にあげるような行為を受けたことがあるか[SA]

・市（R5）と市（H30）では「何度もある」、「1・2度ある」の割合が増加しており、経験がある割合がやや高い。
・男性と女性では、男性は「まったくない」の割合が高く、女性は「1・2度ある」の割合が男性よりも高い。
・年代別でみると年代があがるにつれ、「何度もある」の割合が低い傾向だが、20～29歳以降は「まったくない」割合も高くなっており、70歳以上で「まったくない」が6割以上を占める。

（2）容姿や体型などについて話題にされた



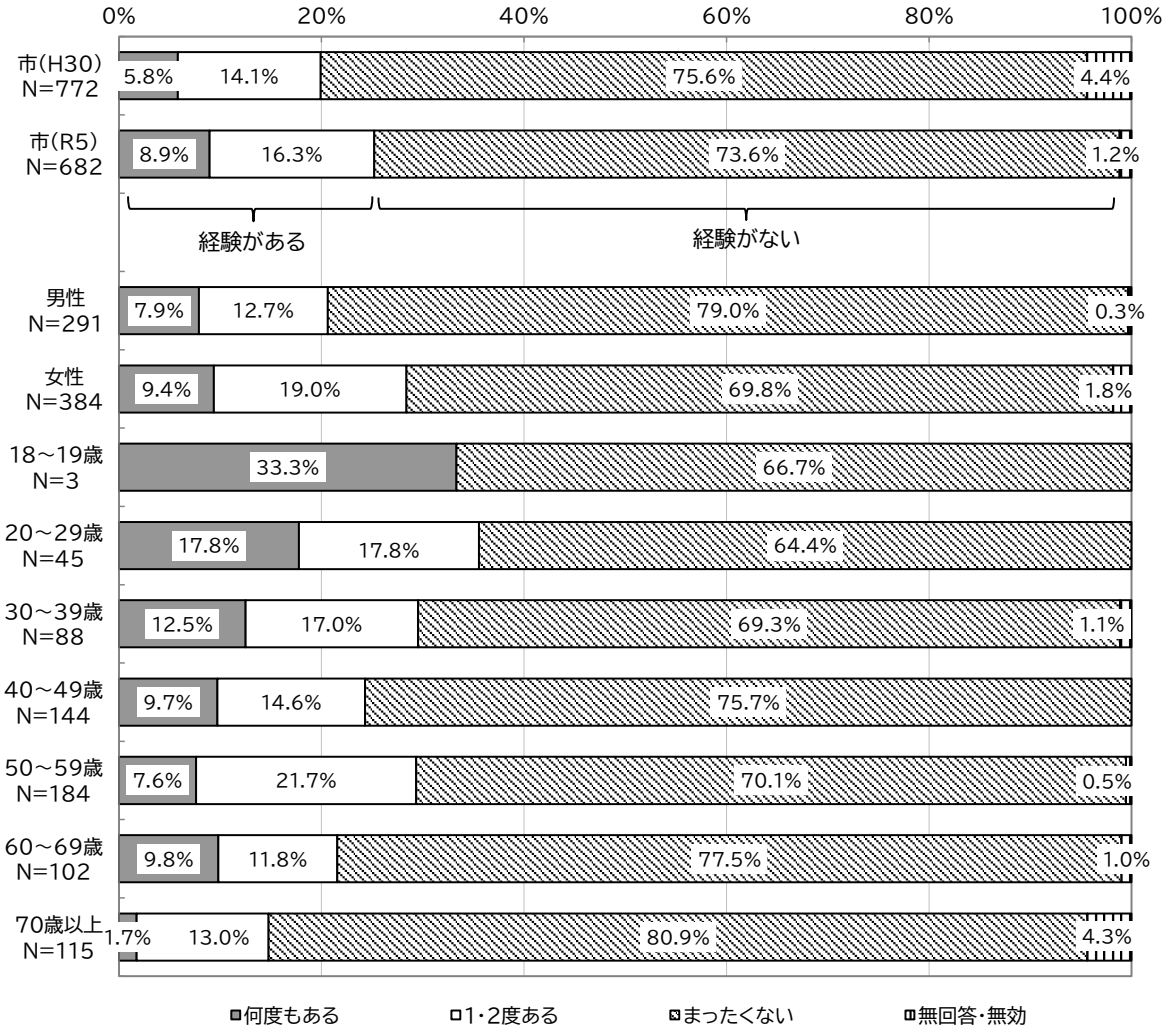
※国（R4）、都（R3）非聴取

● 人権が尊重される社会の形成について

問16　日常生活の中で、次の（1）～（6）にあげるような行為を受けたことがあるか[SA]

・市（R5）と市（H30）ではいずれも「まったくない」が非常に高いが、大きな差はみられない。
・男性と女性では、男性は「まったくない」の割合が高く、女性は「1・2度ある」の割合が男性よりも高い。
・年代別でみると年代があがるにつれ、「何度もある」の割合が低い傾向だが、20～29歳以降は「まったくない」割合も高くなっており、70歳以上で「まったくない」が6割以上を占める。

（3）性的な会話を聞かされたり、性的な絵・写真等を見せられたり目に入る場所に置かれたりした



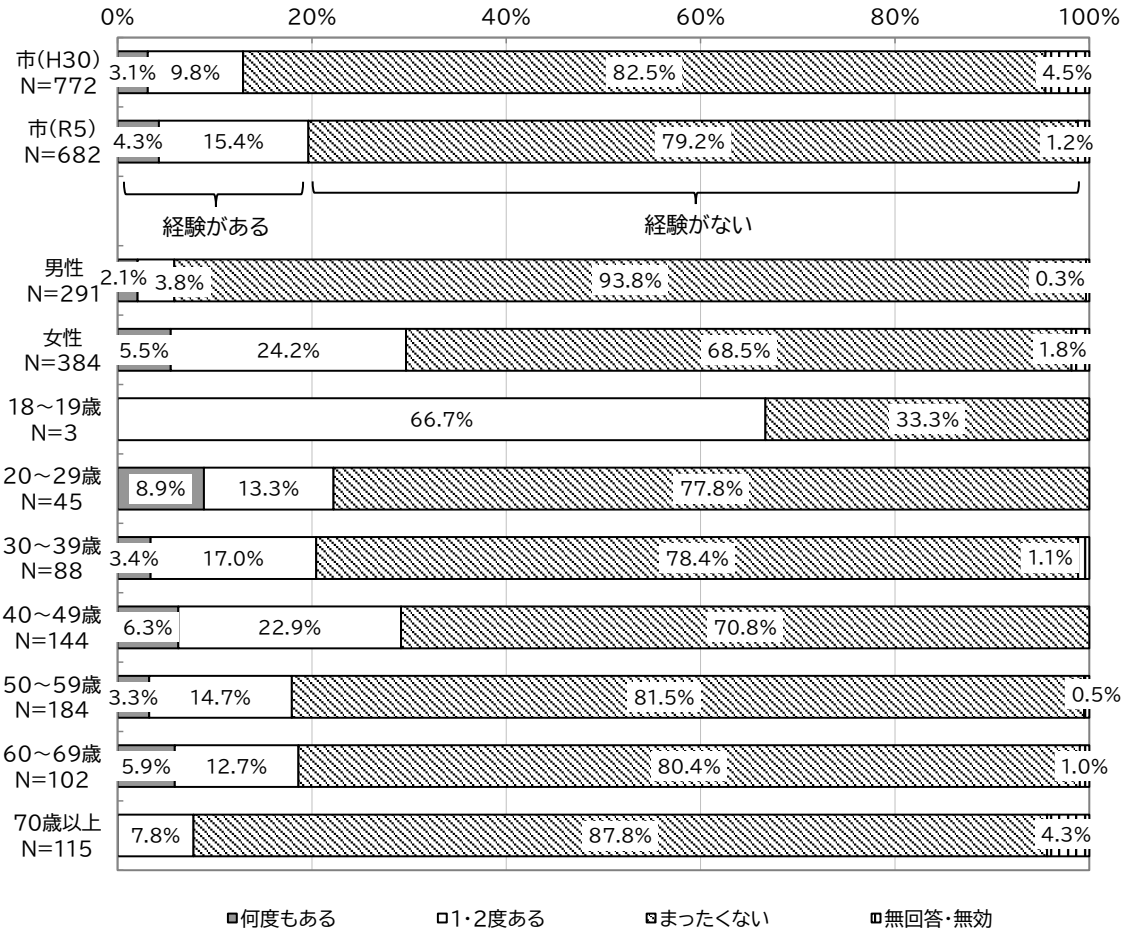
※国（R4）、都（R3）非聴取

● 人権が尊重される社会の形成について

問16　日常生活の中で、次の（1）～（6）にあげるような行為を受けたことがあるか[SA]

・市（R5）と市（H30）ではいずれも「まったくない」の割合が高いが、市（R5）では「1・2度ある」の割合が増加している。
・男性と女性では、男性は「まったくない」の割合が非常に高く、女性は「何度もある」と「1・2度ある」の割合が男性よりも高い。
・20歳～29歳以降は「まったくない」の割合が高い。40～49歳では「1・2度ある」の割合が高く、他の年代に比べて経験がある割合がやや高くなっている。また、70歳以上では「何度もある」が0%となっている。

（4）身体を執拗に眺めまわすような目で見られた



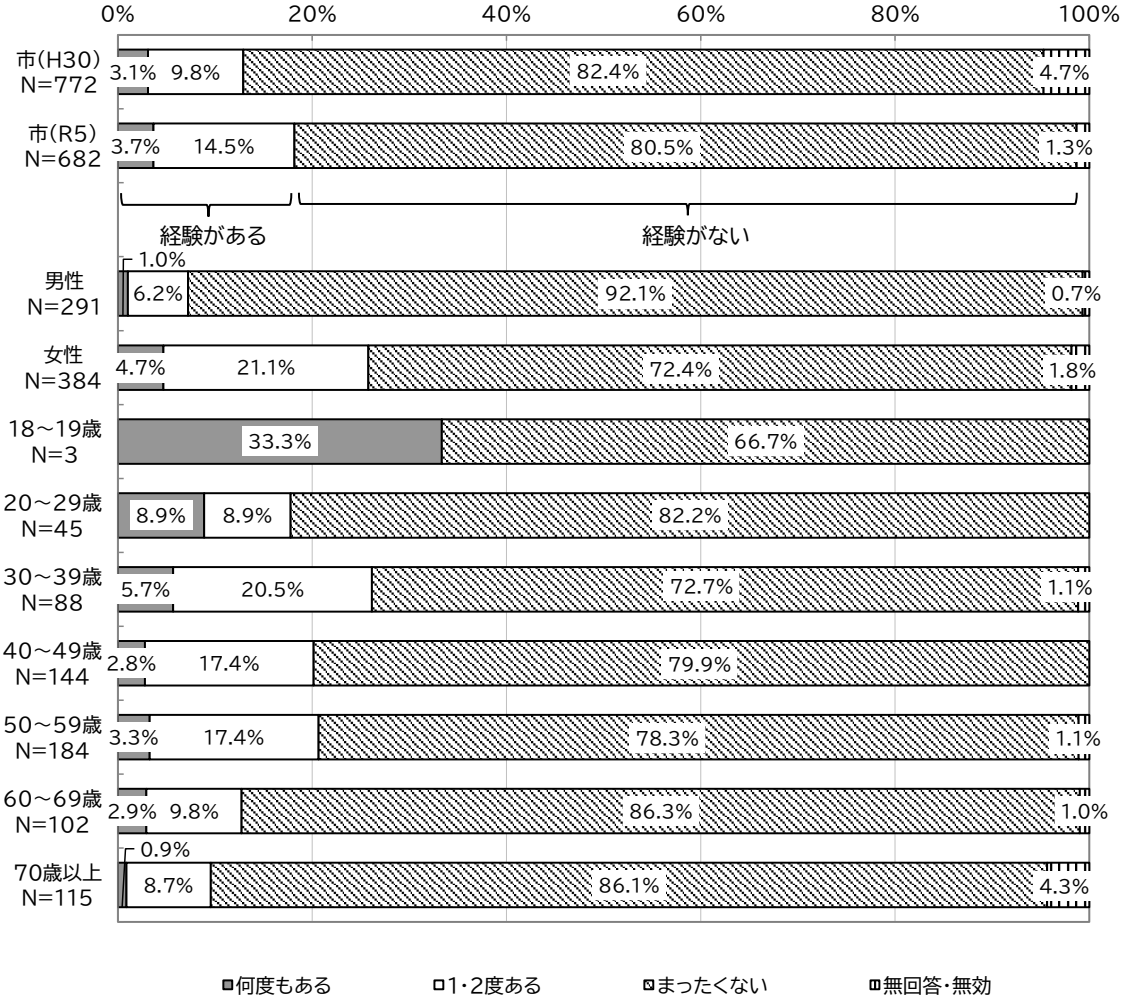
※国（R4）、都（R3）非聴取

● 人権が尊重される社会の形成について

問16　日常生活の中で、次の（1）～（6）にあげるような行為を受けたことがあるか[SA]

・市（R5）と市（H30）ではいずれも「まったくない」が非常に高いが、大きな差はみられない。
・男性と女性では、男性は「まったくない」の割合が高く、女性は「1・2度ある」の割合が男性よりも非常に高い。
・年代別でみると18～19歳、20～29歳で「何度もある」の割合がやや高く、30歳～39歳、40～49歳、50～59歳では「1・2度ある」の割合が高い傾向となっている。

（5）嫌がっているのに電話、手紙、Eメール等をされたり食事に誘われたりした



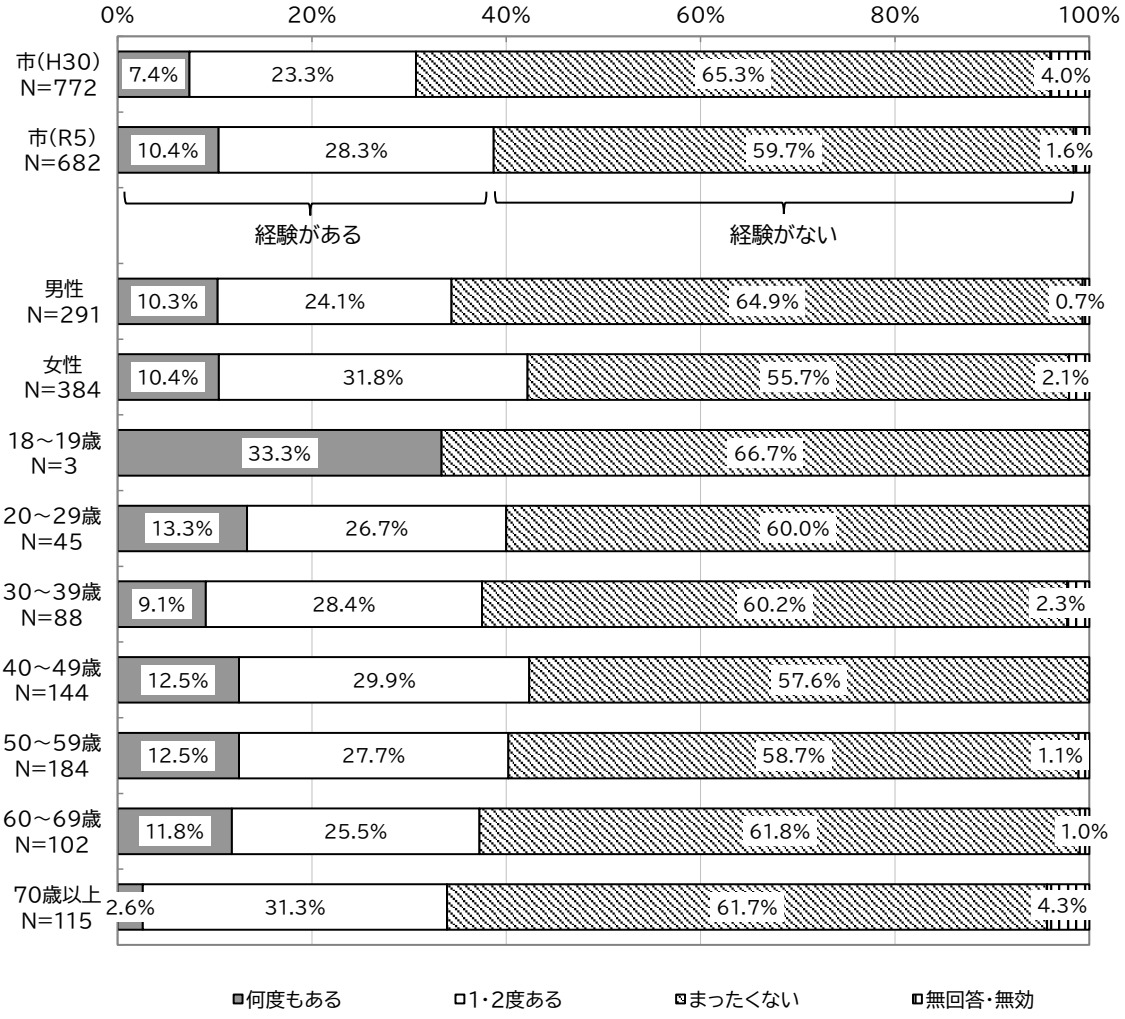
※国（R4）、都（R3）非聴取

● 人権が尊重される社会の形成について

問16　日常生活の中で、次の（1）～（6）にあげるような行為を受けたことがあるか[SA]

・市（R5）と市（H30）でははいずれも「まったくない」が高いが、市（R5）では「何度もある」、「1・2度ある」の割合がやや増加している。
・男性と女性では、男性は「まったくない」の割合が高く、女性は「1・2度ある」の割合が男性よりも高い。
・18歳～19歳で「何度もある」の割合が高く、一方で70歳以上では「何度もある」の割合が低いものの、年代によるその他大きな差はみられない。

（6）「男のくせに」、「女のくせに」等の性差を理由とした不快な言葉を言われた

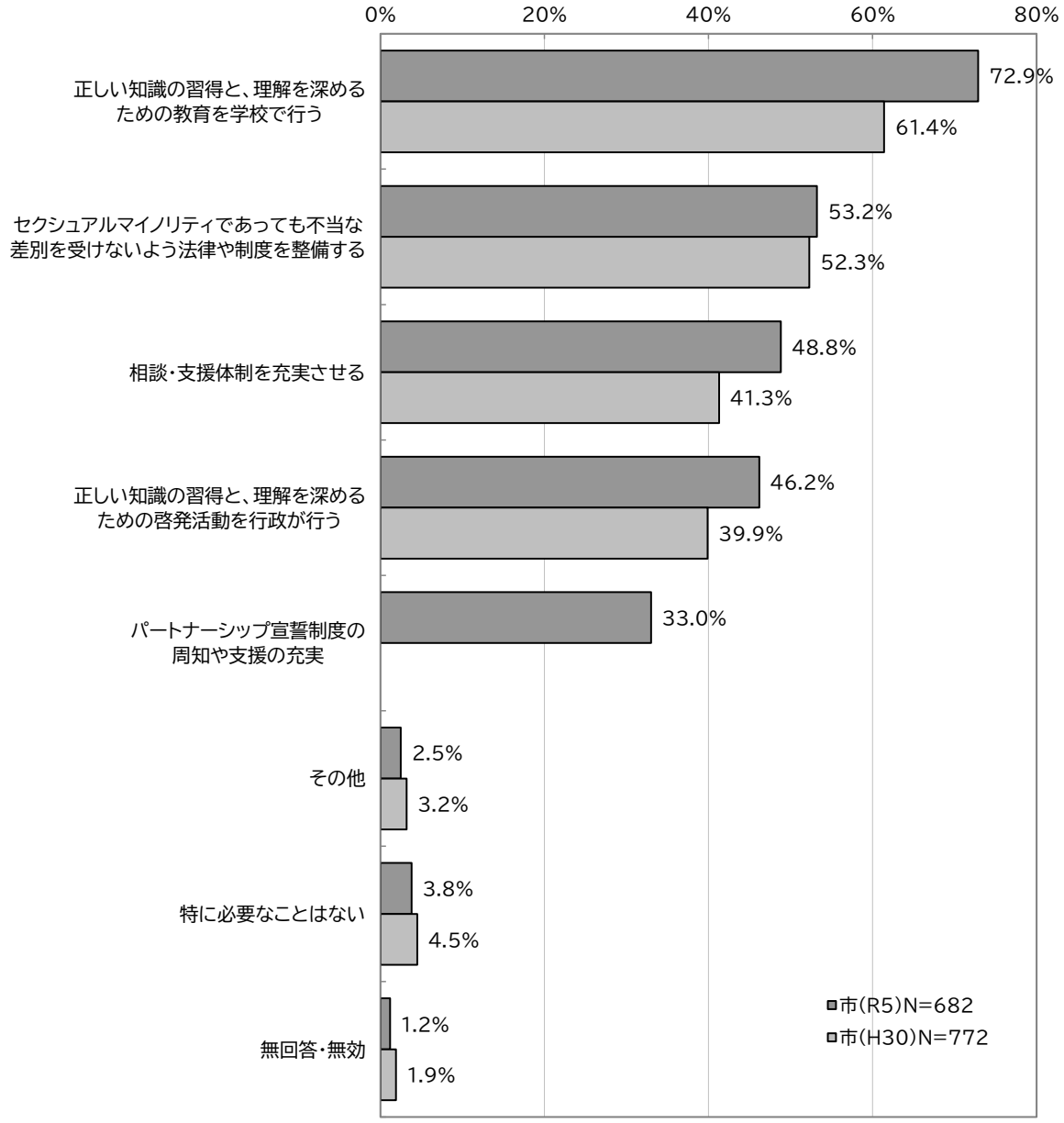


※国（R4）、都（R3）非聴取

● 人権が尊重される社会の形成について

問17　セクシュアルマイノリティの人権を守るために、どのような方策が必要だと思うか［MA］

・市（R5）と市（H30）では概ねの項目で割合が増加しており、特にいずれも最も割合が高かった「正しい知識の習得と、理解を深めるための教育を学校で行う」の割合が大きく増加している。

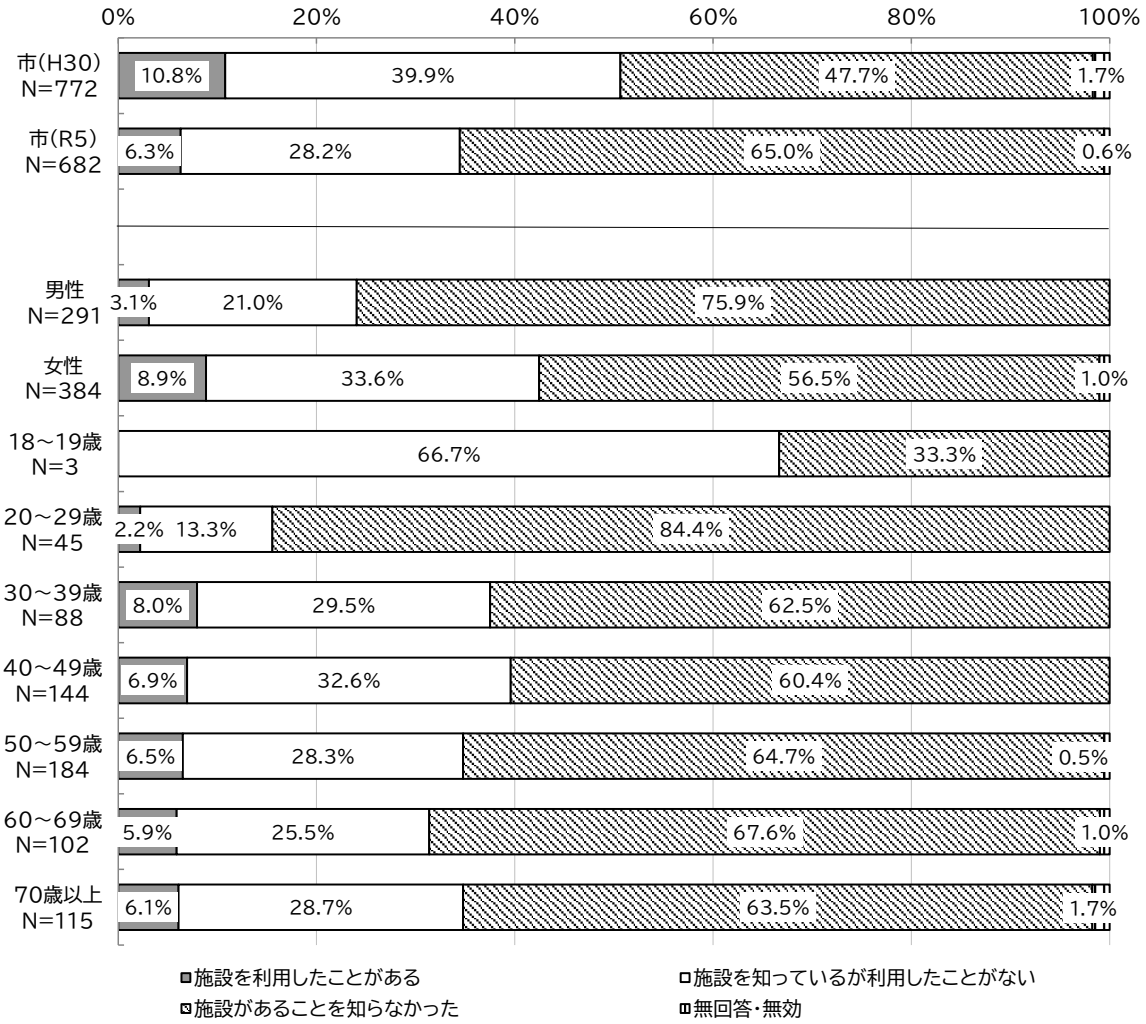


※市（H30）と一部選択肢が異なっており、比較できるもののみ比較している
※市（H30）「パートナーシップ宣誓制度の周知や支援の充実」非聴取
※国（R4）、都（R3）非聴取

● 男女共同参画社会づくりに向けた府中市の施策について

問18 「府中市男女共同参画センター フチュール」を知っているか[SA]

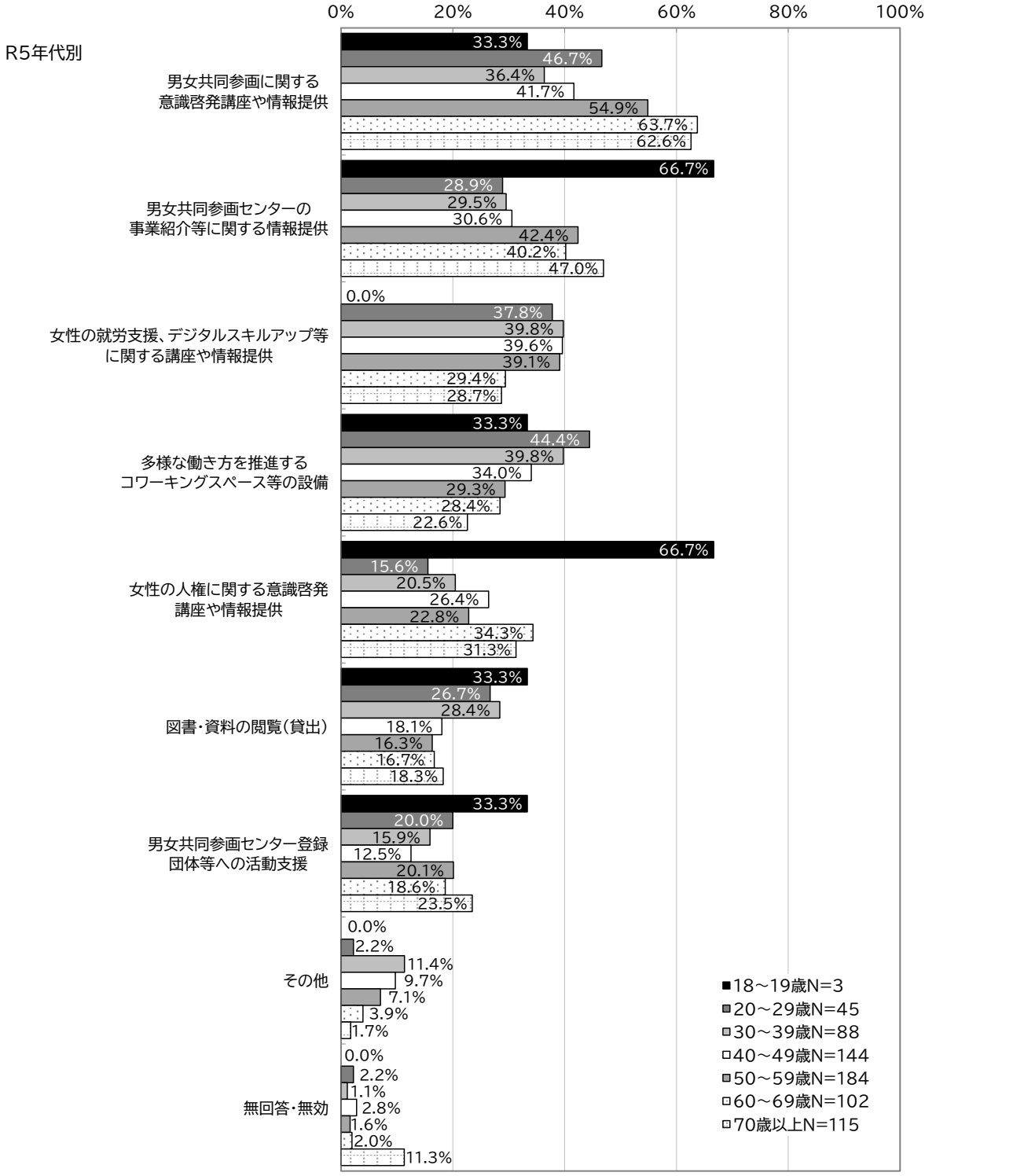
・市（R5）では「施設があることを知らなかった」の割合が市(H30）よりも大きく増加しており、「施設を利用したことがある」が1割未満となっている。
・男性と女性では、男性は「施設があることを知らなかった」の割合が高く、7割以上を占め、女性は「施設を利用したことがある」、「施設を知っているが利用したことがない」の割合が男性よりも高くなっている。
・20～29歳では「施設があることを知らなかった」が非常に高く、8割以上を占めており、30歳～39歳からは大きな差はみられない。



● 男女共同参画社会づくりに向けた府中市の施策について

問19 「府中市男女共同参画センター フチュール」にどのような機能があれば良いか<年代別>[MA]

・20～29歳、40～49歳から70歳以上では「男女共同参画に関する意識啓発講座や情報提供」の割合が高くなっている。
・18～19歳では「男女共同参画センターの事業紹介等に関する情報提供」、「女性の人権に関する意識啓発講座や情報提供」の割合が高くなっている。
・20～29歳、30～39歳、40～49歳の働き盛り世代では「女性の就労支援、デジタルスキルアップ等に関する講座や情報提供」や「多様な働き方を推進するコワーキングスペース等の設備」の割合が高くなっている。

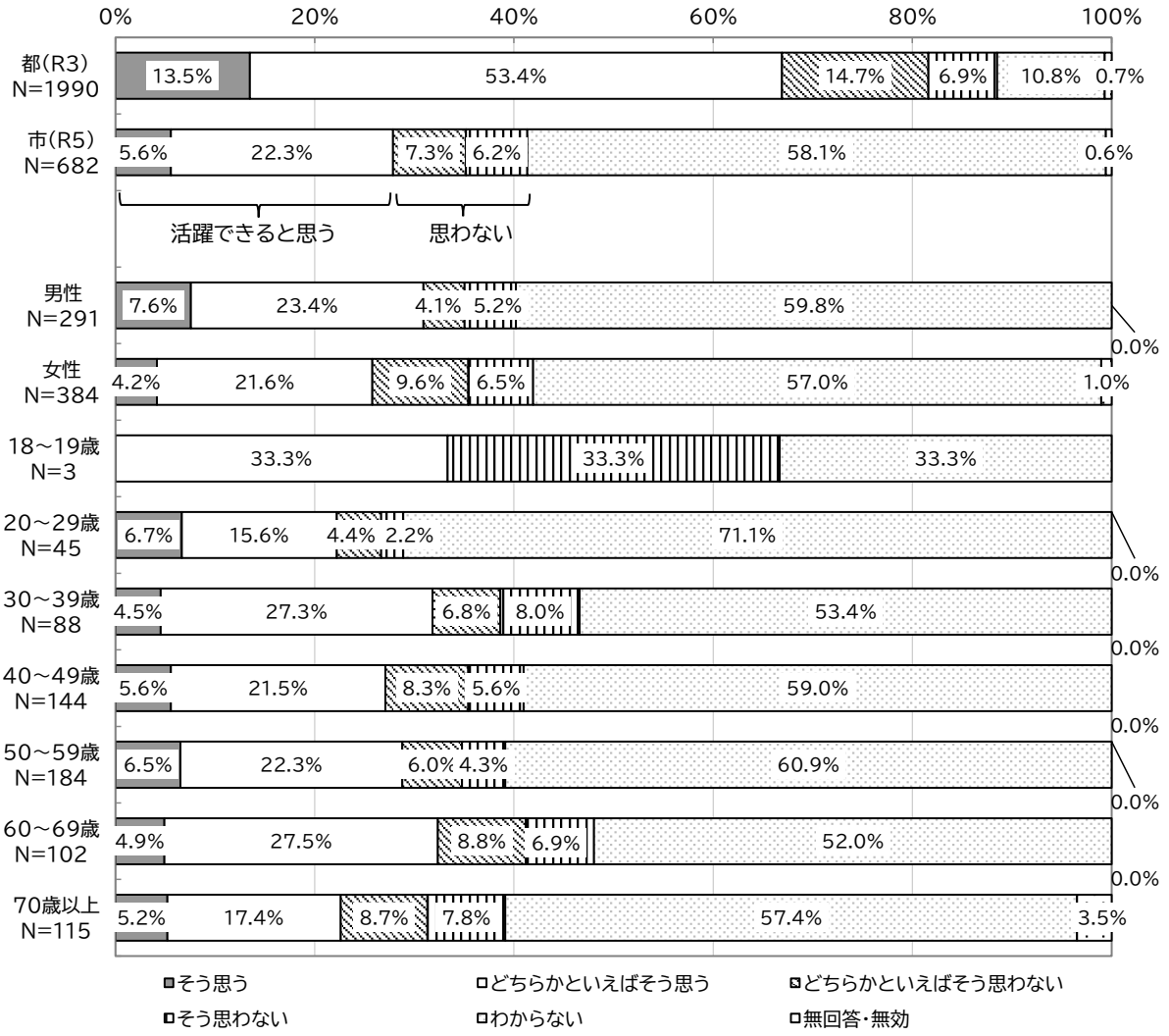


※市(H30)は非聴取

● 男女共同参画社会づくりに向けた府中市の施策について

問20　府中市は女性が活躍できる都市だと思うか。[SA]

・市（R5）では「わからない」の割合が都（R3）よりも高く、5割以上を占める。都（R3）に比べて、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の活躍できると思う割合が低くなっている。
・男性と女性では、男性の方が「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の割合が高く、女性は「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の割合が高い。
・20～29歳では「わからない」が非常に多くなっている。また、30～39歳と60～69歳で活躍できると思う割合がやや高いものの、20～29歳から70歳以上までは大きな差はみられない。



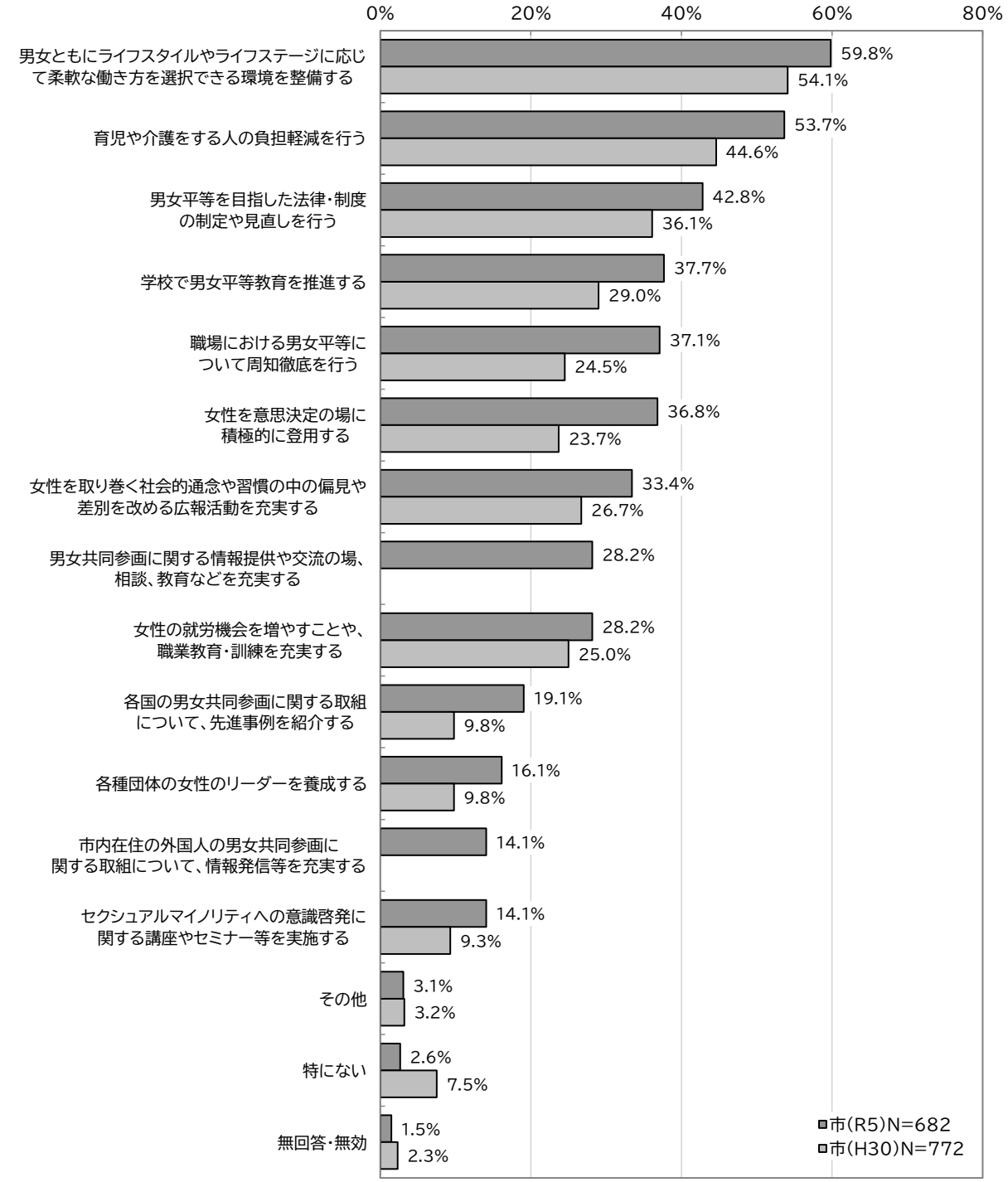
※市（H30）は非聴取
※都（R3）は「東京は活躍できる都市か」の選択肢となっているため、一概に比較することは出来ないことに留意

● 男女共同参画社会づくりに向けた府中市の施策について

問21　自分らしく豊かに生きることのできる社会を実現させるため、力を入れてほしいこと＜年度別＞[MA]

・市（R5）と市（H30）ではいずれも「男女ともにライフスタイルやライフステージに応じて柔軟な働き方を選択できる環境を整備する」が最も高くなっている。また、概ねの項目で割合が増加しており、特に「職場における男女平等について周知徹底を行う」、「女性を意思決定の場に積極的に登用する」の割合が大きく増加している。

①年度別



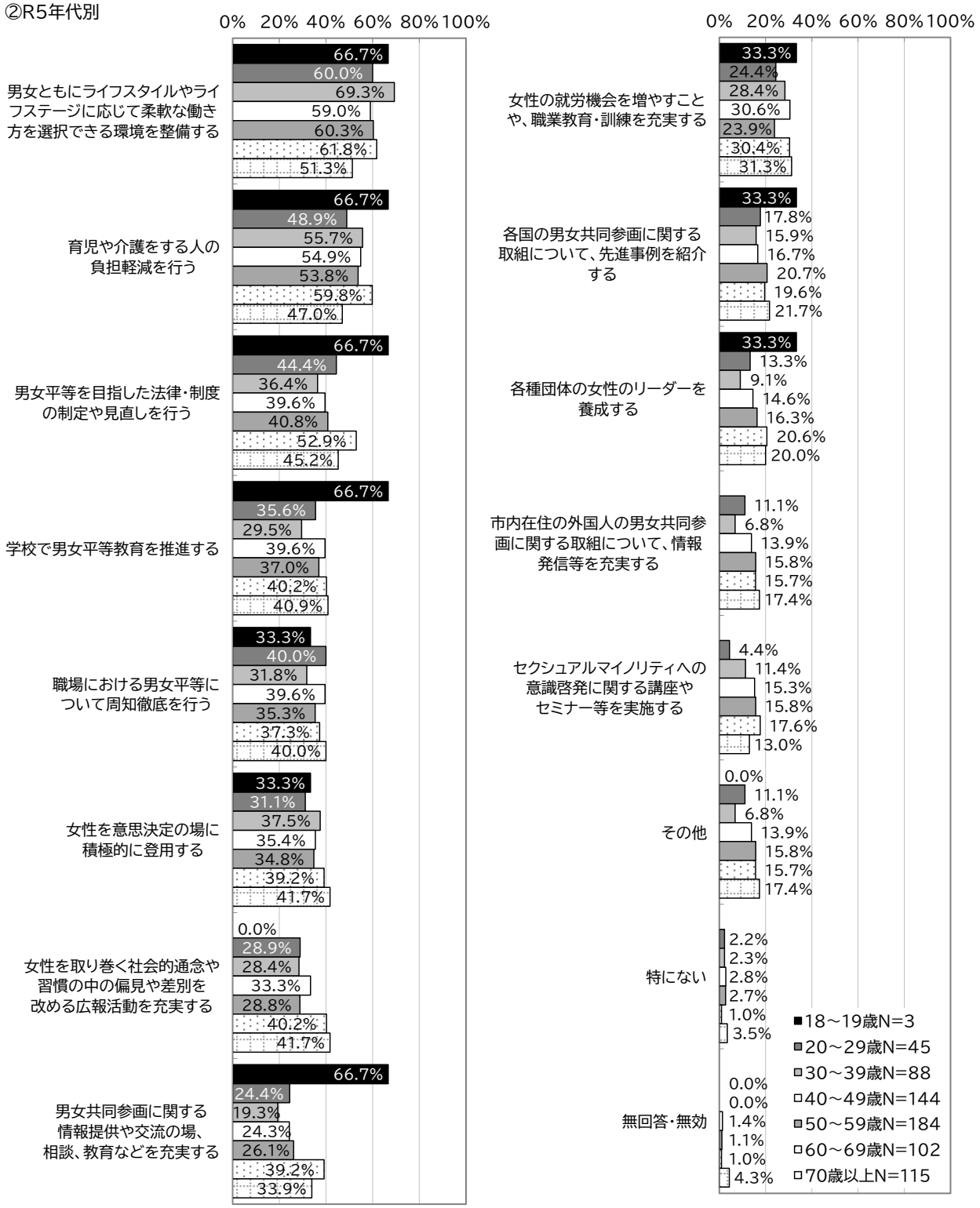
※市（H30）では一部選択肢が異なり、比較できるものを比較している。
また、「男女共同参画に関する情報提供や交流の場、相談、教育などを充実する」、
「市内在住の外国人の男女共同参画に関する取組について、情報発信等を充実する」は非聴取

● 男女共同参画社会づくりに向けた府中市の施策について

問21　自分らしく豊かに生きることのできる社会を実現させるため、力を入れてほしいこと＜年代別＞[MA]

・すべての年代で「男女ともにライフスタイルやライフステージに応じて柔軟な働き方を選択できる環境を整備する」の割合が最も高く、次いで「育児や介護をする人の負担軽減を行う」となっている。

②R5年代別



Ⅳ　資料

府中市男女共同参画に関する令和5（2023）年度意識調査　調査票

府中市男女共同参画に関する令和5(2023)年度意識調査　調査票

府中市男女共同参画に関する令和5(2023)年度意識調査ご協力のお願い

市民の皆様には、日頃から市政にご協力いただきましてありがとうございます。

市では、令和2(2020)年度に「第6次府中市男女共同参画計画」を策定し、性別にかかわらず、社会のあらゆる場に平等に参画でき、一人ひとりの個性や能力が存分に発揮され、共に喜びと責任を分かち合い、自分らしく豊かに生きることのできる社会を目指して、各分野にわたる施策を総合的かつ、計画的に推進してまいりました。このたび、令和6(2024)年度で5年間の計画期間を終えることから、新たに「第7次府中市男女共同参画計画」の策定に向けて準備を進めているところです。

つきましては、今後の施策を進めるうえでの基礎資料として、市民の皆様の貴重なご意見を伺うためのアンケート調査を実施いたします。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申しあげます。

※このアンケート調査は、府中市にお住まいの 18 歳以上の方の中から、2,000 人を無作為で選び、調査票を送らせていただいております。調査には無記名でご回答ください。ご記入いただいた内容は統計的に処理し、本調査の目的以外に使用することはありません。

※皆様のご意見は、市ホームページ、市立図書館で公開する他、男女共同参画に係る各種施策の基礎データとさせていただきます。

令和5年9月

～ ご記入にあたってのお願い ～

■ご回答は、この調査票の**封筒の宛名の方ご自身が記入**してください。ただし、ご自身が何らかの理由で回答できない場合は、**ご家族の方が代筆して**お答えいただいても結構です。

■この調査票は、①もしくは②の方法でご回答ください。

①郵送にて回答：ご回答は、選択肢の中から、あなたの考えにあてはまる番号に○印をつけてください。同封の返送用封筒(切手不要)にて9月24日(日)までにご投函ください。

②WEBにて回答：9月24日(日)までに右記の2次元コード、または下記のURLにスマートフォン等でアクセスし、WEBサイトにてご回答ください。

URL [redacted]

QR

【お問合せ先】府中市市民協働推進部多様性社会推進課男女共同参画推進係
府中市男女共同参画センター「フチュール」
電話：(042)351－4600　FAX：(042)351－4603

■ あなたご自身について

F1 性別(※)	1 男性	3 その他
	2 女性	4 回答したくない

(※)性別については、戸籍上の区別とは別にご自身の主観によりご記入ください。

F2 年齢	1 18～19歳	3 30～39歳	5 50～59歳	7 70歳以上
	2 20～29歳	4 40～49歳	6 60～69歳	

F3 職業の有無	1 働いている(収入あり)	3 主婦・主夫
	2 働いていない(収入なし、または公的年金)	4 学生

F4 婚姻の有無	1 未婚	3 離別・死別
	2 配偶者あり(事実婚含む)	

■ あらゆる分野における男女共同参画について

問1 あなたは次の(1)～(7)の分野で男女の地位・立場が平等になっていると思いますか。
(それぞれについて○は1つ)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男女の地位・立場は平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
記入例 (1) 家庭生活の場で	1	2	(3)	4	5	6
(1) 家庭生活の場で	1	2	3	4	5	6
(2) 職場で	1	2	3	4	5	6
(3) 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
(4) 地域社会(自治会・町会など)で	1	2	3	4	5	6
(5) 政治の場で	1	2	3	4	5	6
(6) 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
(7) 社会通念・習慣・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6

問2	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどうお考えですか。(○は1つ)

1 賛成
2 どちらかといえば賛成
3 どちらかといえば反対
4 反対
5 わからない

(問2で「1 賛成」「2 どちらかといえば賛成」と答えた方にうかがいます)

問2－1	賛成と思うのはなぜですか。(○はいくつでも)

1 日本の伝統的な家族の在り方だと思うから
2 自分の両親も役割分担をしていたから
3 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
4 妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
5 育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから
6 その他(　　)

(問2で「3 どちらかといえば反対」「4 反対」と答えた方にうかがいます)

問2－2	反対と思うのはなぜですか。(○はいくつでも)

1 男女平等に反すると思うから
2 自分の両親が外で働いていたから
3 夫も妻も外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
4 妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから
5 育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから
6 固定的な夫と妻の役割分担意識を押しつけるべきではないから
7 その他(　　)

問3 女性が長く働くうえで、支障をきたしているとあなたが思うものを1つだけ選んでください。(○は１つ)

1 家事・育児との両立が難しい
2 家族の理解や協力が得にくい
3 高齢者や障害者の介護がある
4 子どもを預ける施設の数やサービスが不足している
5 働くことにメリットが感じられない
6 配偶者もしくはパートナーの理解や意識が不足している
7 育児・介護休業制度などを利用しにくい
8 職場での昇進・昇給や、教育制度に男女の不公平な取り扱いがある
9 職場に結婚・出産退職の慣行がある
10 配偶者もしくはパートナーの転勤がある
11 その他(　　)
12 特にない

問4 児童生徒の男女共同参画の意識を育てるために、学校教育で特に必要な取組は何だと思いますか。(○はいくつでも)

1 性別にかかわらず、協力して物事を進める必要性を学ぶ
2 ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶ
3 家庭や家族の多様なありかたについて学ぶ
4 生活指導や進路指導において、性別にかかわらず能力を生かせるよう配慮する
5 DV(配偶者間での暴力)・デートDV(交際相手からの暴力)を防ぐための教育や相談を行う
6 人権尊重の視点に立った性教育を充実させる
7 性犯罪の加害者や被害者になることを防いだり、性産業に巻き込まれないための教育や相談を行う
8 子どものメディア・リテラシー(※)を高める教育を行う
9 教職員を対象とした男女共同参画の研修を実施する
10 教員の男女比を同数にしたり、管理職(校長や副校長)に女性を増やしていく
11 その他(　　)
12 どれも必要だとは思わない

(※)メディア・リテラシーとはメディアの情報を主体的に読み解く能力、メディアにアクセスし活用する能力、メディアを通じコミュニケーションする能力の3つを構成要素とする複合的な能力をいいます。

問5	あなたは現在、職業以外の社会活動や地域活動に参加していますか。(○は1つ) (例:自治会・子ども会の活動、地域のボランティア活動、子どもの見守り支援等)

1 参加している　　2 参加したいができていない　　3 参加するつもりはない

(問5で「2 参加したいができていない」と答えた方にうかがいます)

問5－1	「2 参加したいができていない」理由はなぜですか。(○はいくつでも)

1 仕事が忙しいから
2 家事や育児・介護などが忙しいから
3 経済的余裕がないから
4 どのような活動があるかわからないから
5 一緒に活動する仲間がいないから
6 家族の理解や協力がないから
7 近くに活動の場がないから
8 参加したいと思う活動がないから
9 参加方法がわからない、きっかけがないから
10 その他(　　)

問6	あなたは、災害対策に男女双方の視点を生かすためには、特にどのようなことが重要だと思いますか。(○はいくつでも)

1 防災分野の委員会や会議が、男女同数程度の構成になるようにする
2 災害対応や復興において男女双方の視点が生かされるよう、災害現場の支援活動の中で男女のリーダーをバランスよく配置する
3 災害に関する各種対応マニュアルなどに男女双方の視点を入れる
4 性別に応じてプライバシー(トイレ・更衣・授乳・就寝スペース等)が確保できる避難所運営を行えるようにする
5 災害時における配偶者やパートナー、子どもに対する暴力の防止策を講じたり、相談窓口を設置する
6 消防職員・警察官・自衛官・自治体職員などについて、防災担当に男女がバランスよく配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する
7 その他(　　)
8 どれも必要だとは思わない

問7 以下の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを全てあげてください。（○はいくつでも）

1 男女共同参画社会	12 マタニティ・ハラスメント
2 女性差別撤廃条約	13 メディア・リテラシー
3 男女雇用機会均等法	14 クォータ制
4 女性活躍推進法	15 ポジティブ・アクション
5 配偶者暴力防止法	16 ジェンダー
6 ストーカー規制法	17 ワーク・ライフ・バランス
7 LGBT	18 リプロダクティブ・ヘルス／ライツ
8 セクシュアルマイノリティ	19 パートナーシップ宣誓制度
9 DV・デートDV	20 アンコンシャス・バイアス
10 セクシュアル・ハラスメント	21 ダイバーシティ＆インクルージョン
11 パワー・ハラスメント	22 上記の中で見たり聞いたりした言葉はない

用語解説について
選択肢1～21の用語については、府中市HPから用語解説をご確認いただけます。
興味がある方は、下記の手順でアクセスください。
二次元コード ▶ 市民意識調査について ▶ （リンク）参考資料（PDF：299KB）

■ 仕事と生活の調和について

問8 あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「個人の時間（地域活動、趣味・学習等）」の優先度について、あなたの希望に最も近いものを選んでください。（○は1つ）

1 「仕事」を優先したい	5 「仕事」と「個人の時間」を優先したい
2 「家庭生活」を優先したい	6 「家庭生活」と「個人の時間」を優先したい
3 「個人の時間」を優先したい	7 「仕事」、「家庭生活」、「個人の時間」すべてを優先したい
4 「仕事」と「家庭生活」を優先したい	

問9 あなたの生活の中での優先度について、あなたの現実に最も近いものを選んでください。（○は1つ）

1 「仕事」を優先している	5 「仕事」と「個人の時間」を優先している
2 「家庭生活」を優先している	6 「家庭生活」と「個人の時間」を優先している
3 「個人の時間」を優先している	7 「仕事」、「家庭生活」、「個人の時間」すべてを優先している
4 「仕事」と「家庭生活」を優先している	

問10 あなたは、男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。（○はいくつでも）

1 男性も家事・育児を行うことは、当然である
2 家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる
3 男性自身も充実感が得られる
4 子どもにいい影響を与える
5 仕事と両立させることは、現実として難しい
6 家事・育児は女性の方が向いている
7 妻が家事・育児をしていないと誤解される
8 周囲から冷たい目で見られる
9 男性は、家事・育児を行うべきではない
10 その他（ ）
11 特にない

問 11 あなたは、ワーク・ライフ・バランス実現のために、どのような取組が有効だと思いますか。（○はいくつでも）

1 長時間労働の削減
2 有給休暇の取得促進
3 仕事と育児の両立支援
4 仕事と介護の両立支援
5 男性の育児休業、出産時育児休業取得の促進
6 管理職の意識啓発
7 従業員の意識啓発
8 テレワーク（在宅勤務等）、副業・兼業の促進など多様な働き方の導入
9 福利厚生制度の充実など、休暇の過ごし方の支援
10 フレックスタイム、短時間勤務制度、週休3日制の導入など柔軟な働き方の導入
11 その他（ ）
12 特にない

問 12 あなたは、ワーク・ライフ・バランスのとれた環境をつくるために、府中市にどのようなことを望みますか。(○はいくつでも)

1 一時預かり等の保育サービスの充実を図る
2 地域全体で子育て支援に取り組めるよう仕組みづくりを進める
3 高齢者・障害者等を家庭で介護する人の負担を軽減するための情報提供等を行う
4 性や年代別のニーズに応じた健康支援に関する情報提供等を行う
5 男女とも仕事と生活を両立できるようにするため、企業、事業所に対して環境整備を働きかける
6 身近な就労環境(コワーキングスペース等)の整備を行う
7 ワーク・ライフ・バランスへの意識啓発に関する講座等を実施する
8 パンフレットやポスターの配布・掲示等により、事業者・労働者双方への情報提供等を行う
9 その他(　　)
10 特にない

■ 人権が尊重される社会の形成について

問13 あなたは、次の(1)～(9)のような行為が配偶者や交際相手との間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。(それぞれについて○は1つ)

	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	わからない
記入例 (1) 平手で打つ	1	(2)	3	4
(1) 平手で打つ	1	2	3	4
(2) 大声でどなる	1	2	3	4
(3) 外出などを制限する	1	2	3	4
(4) 交友関係や電話・メール・SNS を細かく監視する	1	2	3	4
(5) 何を言っても無視する	1	2	3	4
(6) 相手の意に反して性的な行為を強要したり、避妊に協力しない	1	2	3	4
(7) 殴るふりをしておどす	1	2	3	4
(8) 「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと侮辱的なことを言う	1	2	3	4
(9) 生活費を十分に渡さない	1	2	3	4

問14	あなたはパートナーからの暴力を受けたこと、または、あなたの身近な人がパートナーから暴力を受けているのに気づいたりしたことがありますか。(○は1つ)

1 何度もあった 【問14-1 へ】	2 1・2度あった 【問14-1 へ】	3 まったくない 【問15へ】

(問14で「1 何度もあった」または「2 1・2度あった」と答えた方にうかがいます)

問14－1	その時あなたは、だれ(どこ)かに相談しましたか。(○は1つ)

1 相談した	3 相談したかったが、相談先を知らなかった
2 相談したかったが、相談しなかった	4 相談しようと思わなかった

もし相談したいと思ったり、周りに困っている人がいたら…
府中市男女共同参画センター「フチュール」
女性問題相談まで(☎042-351-4602)
相談できる曜日・時間帯などの詳細は、「女性問題相談」HP参照(二次元コードより)

問15	あなたはDV(配偶者等からの暴力)やデートDV(交際相手からの暴力)の対策や防止のために、今後、府中市の施策としてどのようなことが必要だと思いますか。 (○はいくつでも)

1 相談しやすい環境・相談方法を整備する
2 相談先や相談方法を記載したカードを、公共施設のひとりで手にとり、読みやすいところに配布する
3 被害者の安全を守る体制を確立する
4 DVに関する相談や支援策を多言語で市民に広く知らせる
5 被害者を一時的に保護する施設(シェルター)と連携する
6 被害者に対する自立支援(子どもの養育、住宅の確保、就労支援など)を行う
7 被害者支援に携わる人(相談機関職員など)の意識向上を図る
8 加害者にならないための啓発事業を実施する
9 学校で人権やDV、デートDVに関する理解が深まるような授業を実施する
10 親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする
11 その他(　　)

問16 日常生活の中で、次の(1)～(6)にあげるような行為を受けたことがありますか。
(それぞれについて○は1つ)

	何度もある	1・2度ある	まったくない
記入例 (1)不必要に身体に触られた	1	(2)	3
(1)不必要に身体に触られた	1	2	3
(2)容姿や体型などについて話題にされた	1	2	3
(3)性的な会話を聞かされたり、性的な絵・写真等を見せられたり目に入る場所に置かれたりした	1	2	3
(4)身体を執拗に眺めまわすような目で見られた	1	2	3
(5)嫌がっているのに電話、手紙、Eメール等をされたり食事に誘われたりした	1	2	3
(6)「男のくせに」「女のくせに」等の性差を理由とした不快な言葉を言われた	1	2	3

性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律
(LGBT 理解増進法案)　公布・施行　令和5年6月23日

性的指向(※)及びジェンダーアイデンティティ(※)の多様性に関する国民の理解が必ずしも十分でない現状があるため、国は、性的指向・ジェンダーアイデンティティの多様性に関する施策の推進に向けて、基本理念や国・地方公共団体の役割を法律で定めることにより、国民の理解増進を図り、性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性を受け入れる社会の実現を目指しています。

(※)性的指向とは人の恋愛・性愛の対象がどういう方向に向かうのかを示す概念です。
(※)ジェンダーアイデンティティとは性自認(自身の性をどのように認識しているか)のことです。

問17 あなたは、セクシュアルマイノリティ(※)の人権を守るために、どのような方策が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1 正しい知識の習得と、理解を深めるための教育を学校で行う
2 正しい知識の習得と、理解を深めるための啓発活動を行政が行う
3 相談・支援体制を充実させる
4 パートナーシップ宣誓制度の周知や支援の充実
5 セクシュアルマイノリティであっても不当な差別を受けないよう法律や制度を整備する
6 その他(　　)
7 特に必要なことはない

(※)セクシュアルマイノリティとは「こころの性・からだの性・表現する性が一致している異性愛者」ではない人々の総称です。LGBT(レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー)以外の人も含まれます。

■ 男女共同参画社会づくりに向けた府中市の施策について

問18 府中市には、「府中市男女共同参画センター　フチュール」があります。
この施設を知っていますか。（○は1つ）

1　施設を利用したことがある
2　施設を知っているが利用したことがない
3　施設があることを知らなかった

府中市男女共同参画センター「フチュール」は、市の男女共同参画の啓発拠点施設です。
・男女共同参画や女性人権等に関する各種講座の実施
・DVや家庭、ご自身の悩み等の相談を受け付ける「女性問題相談」の実施
・男女共同参画等に関する資料や図書の閲覧・貸し出しが可能な「情報資料室」の設置
など

詳しくはこちらから
男女共同参画センター「フチュール」 東京都府中市HP参照（二次元コードより）

問19 「府中市男女共同参画センター　フチュール」をより多くの市民の皆様に利用していただくためには、どのような機能があれば良いと思いますか。
（○はいくつでも）

1　男女共同参画に関する意識啓発講座や情報提供
2　女性の人権に関する意識啓発講座や情報提供
3　女性の就労支援、デジタルスキルアップ等に関する講座や情報提供
4　男女共同参画センターの事業紹介等に関する情報提供
5　男女共同参画センター登録団体等への活動支援
6　多様な働き方を推進するコワーキングスペース等の設備
7　図書・資料の閲覧（貸出）
8　その他（　　）

問20 府中市は、職場、家庭、地域など「あらゆる場」での女性の活躍を目指しています。府中市は女性が活躍できる都市だと思いますか。（○は1つ）

1　そう思う
2　どちらかといえばそう思う
3　どちらかといえばそう思わない
4　そう思わない
5　わからない

（問20で1～4と答えた方にうかがいます）

問20－1 そのように回答した理由を記述してください。

問 21	社会のあらゆる場に誰もが平等に参画でき、一人ひとりの個性や能力が存分に発揮され、共に喜びと責任を分かち合い、自分らしく豊かに生きることのできる社会を実現させるために、力を入れてほしいことは何ですか。(○はいくつでも)

1 男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う
2 女性を意思決定の場に積極的に登用する
3 職場における男女平等について周知徹底を行う
4 女性を取り巻く社会的通念や習慣の中の偏見や差別を改める広報活動を充実する
5 男女共同参画に関する情報提供や交流の場、相談、教育などを充実する
6 女性の就労機会を増やすことや、職業教育・訓練を充実する
7 男女ともにライフスタイルやライフステージに応じて柔軟な働き方を選択できる環境を整備する
8 各種団体の女性のリーダーを養成する
9 学校で男女平等教育を推進する
10 育児や介護をする人の負担軽減を行う
11 各国の男女共同参画に関する取組について、先進事例を紹介する
12 市内在住の外国人の男女共同参画に関する取組について、情報発信等を充実する
13 セクシュアルマイノリティへの意識啓発に関する講座やセミナー等を実施する
14 その他(　　)
15 特にない

問22	府中市の男女共同参画についてご意見やあなたが考える男女共同参画について等、ご自由にお書き下さい。

以上で質問は終わりです。ご回答は、同封の返送用封筒(切手不要)にて9月24日(日)までにご投函ください。

ご協力ありがとうございました。

締切は郵送・WEB 回答ともに9月24日(日)です。

＊調査票に記入して郵送、WEB サイトで入力のどちらかの方法でご回答ください。

府中市男女共同参画に関する意識調査報告書

令和 6 年 3月
府中市 市民協働推進部 多様性社会推進課 男女共同参画推進係
府中市男女共同参画センター「フチュール」

〒183-0034 府中市住吉町 1-84 ステーザ府中中河原4階
TEL:042-351-4600